

# 牧羊者

## 教師の方々へ

教会には様々な奉仕がありますが、その中でも教会学校教師は、最も多くの時間を費やなければならない奉仕の一つでしょう。全国各地の教師研修会で、老若男女、いろいろな教師の方々とお会いしてお話を聞くたびに、感動を覚えます。教師の方々は、何の報いも求めないで、ただ愛のゆえにこのご奉仕をなさっておられるに違いありません。しかし、この奉仕には豊かな報いがあることを、ぜひ知っていただきたいのです。

第一にそれは、聖書についての深い知識です。毎週毎週、『牧羊者』を読んで準備くださっているなら、当然のことですが、聖書の内容をより良く理解できます。子どもたちに教えるためには、まず自分が学ばねばならないからです。

私は、高校1年生の時から、教会学校のお手伝いをさせていただきました。その頃から、『牧羊者』は私の本棚に並びうになりました。そんなに熱心に準備した記憶はありませんが、教師としての私の原点は、あの時代にあったと言つことができます。

聖書知識を多くもてば、人は救われるわけではありません。しかし、聖書を知れば知るほど、神様の御旨はより良くなるようになります。確かに、教会学校教師は、教会の中でも信仰的に一歩抜き

んでいる方々が多いように思います。教会学校の教師は、奉仕そのものから豊かな報いを受けておられるのです。

第二の報いは、子どもたちとの暖かい交流です。私は、教会学校の生徒だった頃の思い出を、今でも忘れることができません。特に先生と一緒にしたソフトボールや山登りは、本当に楽しいものでした。また大学時代に帰省したときに、高校時代に教えていた生徒たちが大喜びして迎えてくれたことなど、同じ世代の友人との思い出とは別の喜びがあります。その生徒の中には、今、牧師夫人になっている人もいます。

先日、千葉県から一人の高校生がひょっこり礼拝に出席しました。礼拝後、名乗ってくれてびっくり。小学生時代、教会学校に来ていた子どもでした。その時に受け持ってくれていた教師と一緒に昼食を食べ、いろいろな話をしていました。後で聞くと、現在行っている高校に幾つか問題があり、別の高校に再受験したいと思っているとのこと。なつかしい先生に会うためにわざわざ来て、彼なりの解決を得て帰っていきました。5年の月日がたっても、教会学校の教師との心の交流は、忘れられないものだったのです。

第三の報いは、この地上のものではなく、天においてのものです。私たちはい

つか主イエスの前に立ち、私たちのこの世における言動について、申し開きをしなくてはなりません。その時、「主よ。私は決して立派なクリスチャンではありません。教会役員のように大きな奉仕もできませんでした。ただ、私は子どもが大好きで、彼らと共に祈り、賛美し、へたなお話をさせていただきました」と言うことはできるでしょう。

教会学校教師ができることは、教会全体の働きから見ると、小さなことかもしれませんが。しかし私は、「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」と言われます(マタイ25:40)。幼な子にしたことは、キリストご自身にしたのと同じなのです。

毎日曜日、他の信徒よりずっと早く教会に行き、子どもたちのために時間を用いることは、大きな犠牲が必要とされることです。何の報いもないように思えるかもしれませんが。しかし、本当は、大きな大きな報いがあることを知ってください。この地上においても報われるのみならず、天においてはさらにずっと素晴らしい報いがあるのです。これを確信するなら、来週の教会学校のために、もっと祈り深く、忠実に準備ができるのではないのでしょうか。

(鎌野善三)

## 目次

特集「聖書の教える人格教育」	2
本書を用いる方々のために	4
教案とワークブックの使い方	5
年間カリキュラム	6
4月教案	8
5月教案	24
6月教案	40
7月教案	60
8月教案	76
9月教案	92
母の日特別教案	112
ペンテコステ特別教案	113
編集後記	112

4月

5月

6月

7月

8月

9月

# 「聖書の教える人格教育」

教会学校局次長 森沢尚生

最近、17才がおかしいと、若者の様々な問題がとりざたされています。それは昔、「行為障害」と言われ、もっと昔は「性格異常」と言われたりしていました。精神病でもなく、かといって正常でもない彼らの状態をどのように見るかは、専門家も結論が出せません。しかし問題は、彼らの人格が育っていないところにあります。現代の日本では、昔はある程度放っておいてもできていた人格の成長が、できにくい環境になっているのです。だからこそ教会学校では、何よりも、子どもたちの人格を育てる教育が必要です。そしてそれは、聖書の中に、はっきり示されているのです。

## 一、主の薫陶

エペソ6:4には、「父たる者よ。子供をおこらせないで、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい」と書かれています。ここで「おこらせる」と訳されている原語は、「いらいらする、すぐに切れる」という意味です。これは、神が常に罪に対して怒られるような、恒久的な場合には用いない言葉です。つまり、子どもとけんかするなどと注意しているのではなく、「すぐ切れるような人格に子どもを育てるな」と忠告しているのです。

もう一つ大切なことがあります。「薫陶」という語は「パイディア」というギリシャ語で、新改訳では「教育」と訳されています。この語の原意は、バイス（子ども）をアゴ（導く）ことです。これは、知識を教える教育「ディダスコ」ではなく、「子どもを導く」ことです。では子どもをどのように、どこに導くのでしょうか。この語を「教師」にすると、知識を教える教師はディダスカロスで、子どもを導く教師は、バイスアゴスとして聖書に登場します。ガラテヤ3:24では「養育掛」と訳され、辞書には個人教授と訳されています。ここに「わたしたちをキリストに連れて行く養育掛」と書かれています。それは、一対一で教え、神の前に導いていく養育係です。父親は、一対一で顔と顔をあわせた人格的交わりによって、子どもを個人的にキリストの前に立つところまで導いていく教師としての責任があるのです。

しかし、父親ができない場合はどうすべきなのでしょう。昔、日本には、殿様が忙しくて、若殿を教育するのが難しかったので、「守役」と言う人がいました。若殿に個人教授する人です。守役が育てるべきだったのは、弓矢や算勘よりも、若殿の人格でした。教会学校教師も、知識を教える

教師としての役目以上に、父親がわりの守役となって子どもたちの人格を主に導く役目が重要なのです。

先の箇所には、律法が私たちをキリストに連れて行く養育掛だと記されていました。教会学校教師は、子どもたちを神様のもとに連れて行き、神様の前に立たせることが大切です。神様を信じてからの教育も必要ですが、その前にまず子どもを神様の前に立たせねばなりません。

パウロの時代、古代社会は非常に豊かになり、現代社会と同じ問題をかかえていました。倫理観の低下、特に性道徳の低下、人間関係の希薄化、そして子どもの人格が育たない状況でした。そのような時、パウロは父親に、「主の薫陶（教育）」によって、子どもたちが神の前に立つところまで導き、その人格を育てよう命じたのです。現代にも同じ人格教育が必要とされています。

## 二、主の訓戒

では、「訓戒」とは何でしょうか。新約聖書の唯一の戒めは「互いに愛し合え」でしょう。旧約では、十戒を中心とした律法です。律法を教えること、「律法主義」になるではありません。律法は、キリストに連れて行く養育掛です。律法を守れば天国へ行けると教えるのは間違いですが、子どもに「自分は罪人である」ことに気づかせ、主の前に立たせるために、律法を教えねばなりません。

Ⅱテモテ3:16は、聖書が人を義に「導く」のに有益であると記しています。この語も「パイディア」

ウオ」で、聖書は、人を義に導くのだと教えています。律法も聖書も人格教育には不可欠です。

「愛し合う」ことも教える必要があります。人は人と交わらねば人にならないのです。狼に育てられた少女は、結局、人にはなれませんでした。現代は、人と接することのできるだけ避けようとする傾向があります。それでは、愛し合うことはできません。最近、子どもたちが一緒にいても、それぞれがばらばらにテレビゲームをしているだけという場面をよく見かけます。人は人と交わらねば、その人格が育ちません。また、神と交わらねば、「神の似姿」にはなれないのです。

## 三、本当の教育のあり方

「自由保育」という幼児教育があります。子どもがしたいようにさせるのが良い、という考え方です。でもそれは本当の自由ではありません。本当の自由は、止まるべき時には止まり、曲がるべき時には曲がることのできるものです。エンジンだけしかない車は危険です。ブレーキ（律法）とハンドル（愛）があってこそ、自由なのです。

学校では、みんなと同じようにすることが重要視され、みんなと違うことは悪いことだとされる傾向があります。しかし、聖書はそうは言っていない。神は、「わたしの目には、あなたは高価で尊い」とおっしゃいます。どんなに人と違ってても、能力が劣っていても、神様から愛されていることだけで尊いのです。このことは、学校では教えてくれません。神を信じる親が、あるいは教会が教

えねばならないのです。

教会学校教師は、ここで教えられている父親の役割を担いましょう。守役として、子どもと人格的な交わりをなし、彼らを主の前に連れていきましよう。これは今、一番大切なことです。

英語で教育とは「エデュケーション」と言いますが、その語源はフテン語で、「引き出す」という意味と「型にはめる」という二つの意味があります。漢字でも、「教」は木のむちを持って打たれながら習うこと、「育」は生み出して身につけることを意味しています。ですから、強制的に型にはめることと、本来持っているものを引き出すことは、教育の二つの方法と言えます。大人を教育の主体と考えると、子どもを型にはめていく形になるでしょうし、子どもを主体にすると、その子の才能や環境にあわせて、能力を引き出していく形になります。また、性悪説をとると矯正していく教育方法になるでしょうし、性善説をとると自然に育っていくのを助けるようになります。

## 四、聖書の示す人格教育

聖書は、どういう考え方をしているのでしょうか。生まれながらに悪い者だという聖句もありますが、神が人間を創造されたときには、良いものだったとも記されています。聖書は、人間は神に創造されたものとして良いものであり、なおかつ信仰を持たずに生まれてきて、生まれながらに悪いものでもあるという立場に立っています。

そこで必要とされるのが、型にはめるのも、

能力を引き出すでもない、人の人格を目ざめさせ、神の前に立たせるという人格教育です。人格という日本語は、キリスト教の神が紹介されてからできたものです。神は人格神であり、その神は、人間に人格を与えられたことは、聖書の中にはっきりと書かれています。創世記1:27には、「神は自分のかたちに人を創造された」と記されています。「神のかたち」というのは、霊的・人格的存在であることです。大人も子どもも、同じ人格的存在です。ですから、子どもの人格を無視せず、かえてその人格を育てることが大切です。

子どもが言うことを聞かないと、すぐたいてしまふ親がいます。これは自分の怒りを相手にぶつけているだけです。本当の人格教育とは、自分で発見させて、自分で決めさせて、自分で行動できるように導くことです。子どもをロボットや犬猫、あるいは奴隷にしたいけません。人格として扱わなければ、人格は育ちません。

子どもがおもちゃをいっぱい出して遊んだ後、片付ける時間になりました。「片付けなさい」と叱るか、あきらめて親のほうに片付けるか。あなたならどうしますか。一番適切と思われるのは、まず、片付けるという示唆を与えること、次に親が見本を示すこと、それでもしないなら命令すること、それでも駄目なら強制することです。これが、子どもを人格ある者とみなしての教育です。

\*これは、二〇〇一年十月八日、大阪教区CS教師研修会での講演をまとめたものです（編集部）。



# 本誌を用いる方々のために

『牧羊者』の発行形態が変わって、今年は三年目を迎えることになりました。一年ごとに、少しでも良いものと考えつつ、現実には、なかなか「要望にお答えできないものかしさを覚えていきます。今回も、この半年間にお伺いした幾つかの意見を紹介しつつ、編集方針の説明や、改善を試みた点などを述べさせていただきます。

## 基本的な編集方針

何度か申し上げていますが、現在の『牧羊者』は、人格的な交わりを何よりも重視しています。教会学校を人格教育の場としてとらえ、生徒数が少ないからこそ、教師と生徒が深い交わりをし、そこから、生徒が神ご自身と人格的な交わりがもてるように導いていくのです。

そのためには、子どもの人格を自覚めさせて、神の前に立たせる必要があります。十戒の学びは、子どもたちに自分の本当の姿を知らせるためのものです。「律法は、わたしをキリストに連れて行く養育掛」ですので、今年度前半期の重点項目と言えるでしょう。

「道徳的なことが多く、十字架についてふれる所が少ない」というご意見を伺いました。そういうことのないように十分に注意しているつもりですが、適用を重視するがゆえの、勇み足かもしれません。子どもたちを十字架の前に連れて行くために、道徳的なことも言う必要があることを、ぜひご理解ください。「さばきの面が強くて、恵みが

少ない」というご感想もあろうかと思えます。しかし、後半部分では、恵みがあふれる内容になる予定です。この点もご了承ください。

## カリキュラムの解説

いつものように、6〜7ページに年間カリキュラムを掲載しました。「神に会う備え」という年間主題のもとに、昨年と同様、一年を三期に分けました。第1期では、ヨセフから士師時代に至るまでの歴史を学びます。十戒の与えられた背景を知るためにも、この学びは重要です。士師は、最も有名な二人を扱っています。

第2期では、十戒を子どもたちの生活に即して教えた後に、新約聖書にはいります。4つの譬え話の後、本当の意味で律法を完成させる愛について、詳しい学びをすることになっています。

降誕節をばさんで、第3期には、主イエスに出会った人々を紹介し、子どもたちを主に会わせるように導くのです。最後の1カ月で主がこの地上に來られた目的を学んで今年度は終了します。

母の日とペンテコステのための特別メッセージを巻末に掲載しました。一九八五年五月号にのったものを少し短くしたものです。

## 各週の構成

各週の構成は今までと同様ですが、「第1ページがどこから始まるかわかりにくい」との指摘があ

りましたので、多少デザインを変えました。まず聖書講解と研究資料のページ、次にメッセージ例とワーク解説のページです。「最初の2ページを読めば、聖書本文を読まなくてもいい」と思わないでください。特に旧約聖書の場合、テキストが何章にもまたがる週もありますが、おっくうがらずに、必ず一度は読んでください。そうしてこそ、聖書講解と研究資料の意義は、より深くなります。ここを、成人科のために用いてくださっている教会もあります。感謝です。

「メッセージ例を、もっとわかりやすくしてほしい」という意見も聞くのですが、その週に子どもに知ってもらいたい真理を導くわけにはいかず、シレンマに苦しんでいます。「ストーリーを語る」の部分は、長くも短くもできる部分ですので、聞いている子どもたちの年齢に応じて、何とか料理していただけないでしょうか。あくまでもこれは「例」であり、教師の裁量で、実情にあった形にさせていただきたいと思っています。

## 中心聖句

昨年度の後半部でも説明しましたように、今年度も「暗唱聖句」ではなく、その週の学びをまとめる「中心聖句」を選んでいきます。暗唱するには適当と思われない場合は、他の聖句を用いてくださってかまいません。また、聖句が長すぎる場合には、短くしていただいても結構です。

今回も、カリキュラム一覧表(前半部のみ)を

本誌にはさみこんでいます。中心聖句も記載されていますので、ご利用ください。長い聖句には、一番大切だと思う箇所を太字にしています。未就学児童のためには年間で12の聖句を選びました。下線が引いてあります。いずれも教師方の便宜を考えて作成しました。

## ワークブックの種類と使用法

ワークブックについては、いろいろな意見を聞かせていただきました。一番多かったのは、日曜ごとに生徒の数が違うので、定まった数を注文するのが難しいというものでした。コピーすると、法律にふれるということで、かなり多めに注文くださった教会もあります。使わないで捨ててしまう場合もあり、無駄になることもあったようです。

そこで、今年度は発想を転換して、コピーを認めることにしました。しかし、その分、値段を上げねばなりません。また、印刷業者に依頼するほどの数も期待できませんので、局のほうで印刷することにしました。出来栄を「らんく」ださってわかるように、やはり専門家の足元にも及びません。印刷の色も、コピーすることを前提にしましたので、黒を使っています。

フラッシュカードは、今回も各教会に一部、お送りすることにしました。拡大して紙芝居のように、礼拝や分級で用いてくださっている場合が多いようです。その他の用い方がありましたら、ぜひお知らせください。

四種類のワークブックも用意されています。ワークAは、未就学児童を主な対象にして作成されています。ワークBは小学校1〜2年生、Cは3〜4年生、Dは5〜6年生を想定しています。しかし、子どもの能力に応じて、一番適切なワークを用いてください。特に、ワークBとCはあまり大きな違いがない週もあります。ある週はBを、別の週はCを、というように用いてくださっても結構です。

他教団で、フラッシュカードやワークブックを必要とされる方がおられましたら、発行所までご連絡下さい。実費でおわけいたします。最後に、初めて使われる方のために、各ワークブックの特徴と使用法を簡単に説明します。

### ワークブックA

ワークAだけは、コピーをする場合、厚手の紙を用いてください。切ったり貼ったり塗ったりすることが多いワークですので、普通のコピー用紙の場合は、貧相なものしかできません。クラスにはさみ、のり、クレヨンなどを常備していただく。教師は、少なくとも前日、ワークに目を通し、紙コップや紙皿等、用意すべきものがないかをチェックしておいてください。分級の時間には、子どもたちと一緒に作業をしながら、その日の目標が理解できるようにしましょう。

### ワークブックB

このワークでは字を書くことも多くなります。

多少時間がかかっても、子どもが自分で考え、自分で書きこむまで、忍耐をもって待ちましょう。本誌のワーク説明のページに、毎回、その日の内容にふさわしい子ども用賛美歌を選んで載せていますので、参考になさってください。

### ワークブックC

最初に中心聖句を確認して、中心テーマをとらえます。それから、中心テーマが意味していることが何かを考え、最後に適用質問に移ります。中心テーマに対して、適用は無限にあります。ここで、この一週間どのように過ごすべきかを考えるのです。次の週に、反省することも大切です。

### ワークブックD

このワークDでは、まず一緒に聖書を読むところから始めてください。前半の質問で、聖書に書かれていた事実を確認し、後半では、それを自分にあてはめて考えるような質問が用意されています。昨年より質問数を減らしました。口語訳以外を用いておられる教会の便宜を考え、中心聖句を新改訳と新共同訳でも掲載しています。

### 中高校のための手引き

これは、ワークを用いることに抵抗感のある中高生のために用意したものです。教会の実情に応じて、ワークDを用いるか、それともこのような質問でクラスを運営するか、ご自由に決めてください。質問も全部する必要はありません。

# 教案とワークブックの使い方

# 神に会う備え

中心聖句・アモス4:12

イスラエルよ、

あなたの神に会う備えをせよ。



## 第Ⅱ期 神の前に立つ備え

7月21日	8月4日	8月11日	8月18日	8月25日	9月1日	9月8日	9月15日
唯一の神を礼拝せよ みだりに主の名を唱えな 安息日を守れ	安息日を守れ	両親を敬え	殺してはならない	姦淫してはならない	盗んではならない	偽証してはならない	むさぼってはならない
出シト20:1-6	出シト20:7-11	出シト20:12	出シト20:13	出シト20:14	出シト20:15	出シト20:16	出シト20:17
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
20:3	20:7	20:8	20:12	20:13	20:14	20:15	20:16

9月22日	10月6日	10月13日
1匹の羊の大切さ 神の国の労働 十人のおとめ タラントを用いる	神の国の労働 十人のおとめ タラントを用いる	神の国の労働 十人のおとめ タラントを用いる
マタイ18:12-14	マタイ20:1-16	マタイ25:1-13
同上	同上	同上
18:14	20:14	25:13

10月20日	11月3日	11月10日	11月17日	11月24日
愛は寛容である 愛は情け深い 愛は高ぶらない 愛は不法をしない 愛は恨みを抱かない 愛はすべてを信じる	愛は寛容である 愛は情け深い 愛は高ぶらない 愛は不法をしない 愛は恨みを抱かない 愛はすべてを信じる	愛は寛容である 愛は情け深い 愛は高ぶらない 愛は不法をしない 愛は恨みを抱かない 愛はすべてを信じる	愛は寛容である 愛は情け深い 愛は高ぶらない 愛は不法をしない 愛は恨みを抱かない 愛はすべてを信じる	愛は寛容である 愛は情け深い 愛は高ぶらない 愛は不法をしない 愛は恨みを抱かない 愛はすべてを信じる
1コリ13:4	1コリ13:4	1コリ13:4	1コリ13:5	1コリ13:7
同上	同上	同上	同上	同上
13:4	13:4	13:5	13:5	13:7

## 第Ⅰ期 神の救いの計画

4月7日	5月5日	5月12日	5月19日	5月26日	6月2日	6月9日	6月16日	6月23日	6月30日	7月7日	7月14日		
進級式 神の良い計画(摂理) モーセの備え 召命を受けたモーセ 全能の主による救い 主の過越 イスラエルを守られる主 父母を敬う 荒野での試み 真理の御霊 十戒の意義 破れ口に立つて ヨシユアとカレブ ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン	母の日 父母を敬う 荒野での試み 真理の御霊 十戒の意義 破れ口に立つて ヨシユアとカレブ ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン	父の日 父の日の備え ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン	父の日 父の日の備え ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン	父の日 父の日の備え ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン	父の日 父の日の備え ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン	父の日 父の日の備え ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン	父の日 父の日の備え ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン	父の日 父の日の備え ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン	父の日 父の日の備え ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン	父の日 父の日の備え ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン	父の日 父の日の備え ヨシユアの備え ヨルダン川を渡る エリコとアイ ゲデオン サムソン		
創世記37:1-50:26	出シト22:23-4:17	出シト12:1-13:10	出シト13:17-14:31	エペソ6:1-4	ヨハネ16:12-15	出シト19:1-20:17	出シト32:1-33:23	民数記13:17-14:25	ヨシユア1:1-9	ヨシユア3:1-17	ヨシユア6:1-8:29	士師6:1-7:26	士師13:1-16:31
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
50:20	3:10	7:5	12:13	6:2	16:13	19:5	106:23	13:30	1:9	3:16	7:12	6:14	13:5

## 第Ⅲ期 主イエスとの関係

12月1日	12月8日	12月15日	12月22日
アドベント 一人静まって祈る マリヤへの告知 マリヤの賛歌 羊飼いの訪問	アドベント 一人静まって祈る マリヤへの告知 マリヤの賛歌 羊飼いの訪問	アドベント 一人静まって祈る マリヤへの告知 マリヤの賛歌 羊飼いの訪問	アドベント 一人静まって祈る マリヤへの告知 マリヤの賛歌 羊飼いの訪問
マタイ6:1-13	ルカ1:26-38	ルカ1:39-56	ルカ2:1-20
同上	同上	同上	同上
6:6	1:28	1:49	2:11

12月29日	1月5日	1月12日	1月19日	1月26日	2月2日	2月9日	2月16日	2月23日
年末感謝 荒野の試み バプテスマのヨハネ 弟子たちの召命 ニコデモ サマリヤの女 ベテスダの池 盲人のいやし 足を洗われた弟子 カナンの女	年末感謝 荒野の試み バプテスマのヨハネ 弟子たちの召命 ニコデモ サマリヤの女 ベテスダの池 盲人のいやし 足を洗われた弟子 カナンの女	年末感謝 荒野の試み バプテスマのヨハネ 弟子たちの召命 ニコデモ サマリヤの女 ベテスダの池 盲人のいやし 足を洗われた弟子 カナンの女	年末感謝 荒野の試み バプテスマのヨハネ 弟子たちの召命 ニコデモ サマリヤの女 ベテスダの池 盲人のいやし 足を洗われた弟子 カナンの女	年末感謝 荒野の試み バプテスマのヨハネ 弟子たちの召命 ニコデモ サマリヤの女 ベテスダの池 盲人のいやし 足を洗われた弟子 カナンの女	年末感謝 荒野の試み バプテスマのヨハネ 弟子たちの召命 ニコデモ サマリヤの女 ベテスダの池 盲人のいやし 足を洗われた弟子 カナンの女	年末感謝 荒野の試み バプテスマのヨハネ 弟子たちの召命 ニコデモ サマリヤの女 ベテスダの池 盲人のいやし 足を洗われた弟子 カナンの女	年末感謝 荒野の試み バプテスマのヨハネ 弟子たちの召命 ニコデモ サマリヤの女 ベテスダの池 盲人のいやし 足を洗われた弟子 カナンの女	年末感謝 荒野の試み バプテスマのヨハネ 弟子たちの召命 ニコデモ サマリヤの女 ベテスダの池 盲人のいやし 足を洗われた弟子 カナンの女
マタイ4:1-11	マタイ3:1-17	ヨハネ1:35-51	ヨハネ3:1-17	ヨハネ4:1-30	ヨハネ5:1-9	ヨハネ9:1-41	ヨハネ13:1-20	マタイ15:21-28
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
4:10	3:3	1:41	3:3	4:14	5:6	9:3	13:14	15:28

3月2日	3月9日	3月16日	3月23日	3月30日
罪人を招く 律法を成就する 剣をもたらし かえって仕える 上から遣わされる	罪人を招く 律法を成就する 剣をもたらし かえって仕える 上から遣わされる	罪人を招く 律法を成就する 剣をもたらし かえって仕える 上から遣わされる	罪人を招く 律法を成就する 剣をもたらし かえって仕える 上から遣わされる	罪人を招く 律法を成就する 剣をもたらし かえって仕える 上から遣わされる
ルカ5:27-32	マタイ5:17-20	マタイ10:34-39	マタイ20:20-28	ヨハネ8:21-30
同上	同上	同上	同上	同上
5:32	5:17	10:34	20:26	8:23



# 聖書 創世記37～50章

## テーマ 神の良い計画（摂理）

### 序論

新しい年度は最初の4ヶ月を旧約聖書の学びに用い、ヨセフから王国の成立までを扱う。教師は昨年度学んだヤコブまでの歴史を復習しておいてほしい。ヨセフについては、創世記37章から50章まで続くが、神の摂理という主題で貫かれているので、それを1回でまとめたい。これはまた、来週から始まる出エジプト記の序論ともなる。朗読箇所は50章15～21節に限っても良い。

### 一、奴隷にされたヨセフ

ヨセフは、ヤコブの11番目の息子だった。ラケルとのあいだにできた子であり、年寄り子だった彼は、父親から特別に愛されていた。そのみならず、ヨセフは「両親や兄弟が自分を拝む夢を見た」と公言していた。そのため、兄たちは彼をねたみ、腹を立てていた。そして機会をえた兄らは彼を奴隷商人に売ったのである。17歳だったヨセフは、エジプトに連れて行かれ、パロ王の侍衛長のポテパルの奴隷とされた（37章）。

しかしヨセフは、これを神の計画と信じてポテパルに忠実に仕えたために、主人の家は非常に繁栄した。それは、八主がヨセフと共におられたVからにはかならない。この表現が何度も繰り返されていることに注目したい。

ウィルクスは、彼を主イエスの型と見る（『創世記講演』）。主も、ご自分が世を支配すべき神の御

子であることを示唆されたために、同胞のユダヤ人からねたまれ、ついに十字架の刑に処せられた。けれども主は、決して彼らを憎まれず、かえって彼らのために祈られたのである。

### 二、投獄されたヨセフ

ヨセフは美男子だったようだ。それに魅了されたポテパルの妻は、彼を誘惑したが、ヨセフが断わり続けたので腹をたて、「ヨセフは自分と寝ようとした」と、夫に嘘を告げたのである。ポテパルは怒って彼を投獄した。しかし、死刑に処しても当然だったのに、投獄でとどめたのは、妻の言葉に疑問をもったからかもしれない。

ヨセフは、不当な刑を受けても決してふてくされず、そこで最善をつくした。そして、八主がヨセフと共におられたVので、ここでも彼は獄屋番に信頼されたのである。その時、王の給仕役と料理役とが投獄され、ヨセフは2人の見た夢を解き明かした。給仕役は、その解き明かしのとおりに3日後に釈放されたが、その後ヨセフのことを全く忘れてしまったのである。

ここにも主イエスの型を見ることが出来る。主も、悪魔の誘惑を受けられたが勝利された。罪がないのに罪人として扱われた。裁判の席でも、ただ黙って神の御旨に従われたのである。

### 三、大臣となったヨセフ

しかし2年後、パロは不思議な夢を見て不安を感じた。その時、給仕役はやっとヨセフのことを思い出し、王に奏上した。彼は王の前に召し出さ

## 研究資料

（長田）

### 摂理信仰

無神論者にとって、経験するすべてのことは偶然の産物である。それらが、自分にとって益となるか、不利益をもたらすかは、運・不運の問題である。しかし、信仰者は、地上に神の御許しなくして起ることはないことを知っている。すべては愛なる神のご支配のもとにあるので、どんなことであっても、益に変えられる（ローマ8・28）。また、神は、すべてのことを通して、約束を実行して下さる。ヨセフは、その生涯の間、そのことを信じ続け、主のなさることが常に善であり、真実であることを証した。

その生涯の中には、兄弟たちによる恐ろしい仕打ち、エジプトでの奴隷生活、女主人による誘惑と虚偽の訴え、獄屋での生活、親切への忘恩等のことがあった。しかし、その中であって、彼は、常に神と共に歩み続け（39・2、3、21、23）、神に対して忠実であり続けた（39・9）。

彼が若いときに、神によって見せられた夢（37・5～11）は、すくには実現することになったが、彼が経験した辛い経験のすべてがその夢の実現に向けて道を備えた。その間に、彼は、主に信頼すること、自分を誇らず、いつも神に栄光を帰すること（40・8、41・15、16）、自分になされた不当な仕打ちを心から赦すこと（50・15～21）等を学んだ。

自分の生涯についての神の約束が、長い時の経過を経て、思いがけない形で実現していくのを体験したヨセフは、彼ら一族の子孫（イスラエル民族）についての神の約束も、必ず実現することを信じて、自分の骨についての指示を与えることさえできたのである（50・24、25、ヘブル11・22）。

神の摂理、愛、ご真実は、ヨセフの時代も今の時代も変わっていない。ヨセフのごとく、私たちも神のご摂理とご真実を信じぬく者でありたい。

### テキスト

37・5 ヨセフは夢を見て、それを兄弟たちに話したので、彼らは、ますます彼を憎んだ。ヨセフが夢を見たことは、打ち続く試練の発端となった。しかし、その試練こそが、夢の成就をもたらす。

39・2 主がヨセフと共におられたので、彼は幸運な者となり、「幸運な」は、3節の「栄えさせる」と同じ言葉。ここでは、自動詞的に「栄える」と訳せる。運による栄えでなく、神が共にいますゆえの栄え。

39・9 どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができましょう。誰も見ていなくても、ヨセフは、神の御前であることを意識しつつ、誘惑を退けた。

39・21 主はヨセフと共におられて彼にいつくしみを垂れ、獄屋番の恵みをうけさせられた。獄中にも主の恵みのみわざは続く（使徒16・25、26）。40・23 ところが、給仕役の長はヨセフを思い出さず、忘れてしまった。この忘恩は、人間として

れ、その夢を解き明かす。夢が7年間の豊作と7年間の飢饉を示すことを知ったパロは、この事態に対処できるのはヨセフだけだと確信し、彼を大臣に任命したのである。

豊作時に蓄えられた穀物は、飢饉の時に外国人にも売られた。その中に、何とヨセフを奴隷に売った兄たちもいた。ヨセフは、神の計画の不思議に感動したに違いない。彼は、兄たちが罪を自覚しているかを試し、その翌年も穀物を買いに来させた。そして、彼らが悔い改めていることを確認して、自分の正体を明かす。兄たちは驚き恐れしたが、ヨセフは人神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのですV（45・5）と、神の計画を明言する。時にヨセフは39歳で、故郷を出てから22年が経っていた。

ウィルクスは、ここに主イエスの再臨の型を見ている。この時、ユダヤ人は回復されるのだ。

### 結論

兄たちはヨセフに悪をたくらんだが、神はそれを良きに変えてくださった（50・20）。神の御計画は完全ですばらしい。その後、ヤコブと家族全員がエジプトに移住し、パロの庇護の下で子孫が非常に繁栄する。かくて、カナンの地では一族にすぎなかったアブラハムの子孫は、彼への約束どおり一大民族を形成するようになる（12・2）。さらに4百年後には、彼らはカナンの地に戻り、その地にいたアモリ人を滅ぼして定住するようになる。神は、すべてのことが良いこととなるように、計らってくださるのだ。

恥すべきことではあったが、神は最も良いタイミングで彼にヨセフを思い出させなされた（41・9）。41・38 われわれは神の霊をもつこのような人を、ほかに見いだし得ようか。聖霊が人の中に働くことについての最も初期の証言。

41・41 あなたをエジプト全国をつかさどする囚人の身分から総理大臣へ。

41・46 ヨセフがエジプトの王パロの前に立った時は30歳。ヨセフが夢を見た17歳の時（37・2）から13年の歳月が流れた。兄弟たちがヨセフの前にやってくるのは、さらに7年後、父との再会は、9年後のことになる。

42・7 ヨセフは兄弟たちを見て、それと知ったが、彼らに向かっては知らぬ者のようにし、荒々しく語った。ヨセフのこれ以降の態度の中には、不可解な面もあるが、彼の心の中にも激しい葛藤があったに違いない。

45・5 神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです。神の摂理に対するヨセフの信仰が明瞭に伺える。

50・15 ヨセフはごにやるとわれわれを憎んで、われわれが彼にしたすべての悪に、仕返しするに違いない。兄弟たちは、父の死によって、ヨセフの仕返しが始まると考えた。自分たちのしたこととを信じていることができなかったのであらう。

50・20 あなたがたはわたしに対して悪をたくらんだが、神はそれを良きに変らせて、神は、神の子らのために、人の罪をさえ益に変えて下さる。

聖書 創世記50・15〜21  
タイトル ひどい目にあっても  
中心聖句 あなたがたはわたしに対して悪を  
たくらんだが、神はそれを良きに  
変わらせて、今日のように多くの  
民の命を救おうと計らわれました。  
創世記50・20  
目標 神様は、一番良いこと以外なら  
ないことを発見する。

導入  
新しい学年がスタートしました。これからしばらくは旧約聖書からお話をします。今日はヨセフを用いて、神様が素晴らしい計画を実行されたことをお話ししましょう。

(起) ストーリーを語る  
ヨセフが、父ヤコブ、母ラケルの間に生まれた時には、お母さんの違ってお兄さんが10人いました。彼は、お父さんにとって年より子だったためか、一番かわいがられました。またヨセフは、お兄さんたちのしていることをお父さんに告げ口したり、両親と兄弟たちが自分を拝んだという夢を見たと言ったため、お兄さんたちにとっても憎まれるようになっていました。そのため、彼が17才の時、お兄さんたちのたくらみによって、エジプトへ奴隷に売られてしまいました。しかし、神様はこのことをとおしても、ヨセフとイスラエルの民全体を祝福する計画を進めておられたのです。

ワーク A

- 暗唱聖句 (4月7日〜4月28日)  
わたしが主であることを知るようになるであろう。(出エジプト7・5)
- 導入のヒント  
お友だちに いじめられて、悲しかったことはありませんか。今日のお話に出てくるヨセフさんは、お兄さんたちに売られて、ひとりぼっちになったり、牢屋に入れられたり、ひどい目に会いましたが、いつも神様が一緒にいて守って下さいました。神様は私たちのことも、守って下さいます。
- ワークについて  
すぐくです。止まったところで、ヨセフのお話をするといいでしょう。

ワーク B

- 質問1 最後の問のところで、ヨセフが実際に言った言葉(中心聖句)を確認してください。
- 質問2 ヨセフがひどい目にあいながら兄弟をなげゆるしたのかを思い出しながら、「私がヨセフだったらどうするか」考えましょう。
- 質問3 「自分がいやな目にあつたとき、どんな気持ちになるか」考えましょう。すべて神様の計画の内にあることを知りましょう。
- 賛美歌 「ほくの心の中」  
(フレイスワールド4番)
- 今日のお祈り 「神様、どんな時でも神様の計画を信じて歩めるように守って下さい。」

ヨセフはエジプトでパロ(王様)の侍衛長ポテバルという人の奴隷とされてしまいました。しかし彼はそこで最善を尽くして働き、神様は彼のすることを祝福されました。するとヨセフは、主人に信用されるようになり、主人の家全体の管理をすることになりました。ところが、ポテバルの妻は、ヨセフにふられたことを逆恨みして、彼が自分を誘惑したと嘘をつきました。そしてヨセフは牢獄に入れられてしまったのです。しかしヨセフは、この運命を恨んだり、ふてくされたりしないで、牢の中でも最善を尽くしました。それで、獄屋番に信用されるようになり、牢の管理を任せられました。神様は、ここでもヨセフを祝福されたのです。そんなある日、王の給仕長と料理長が同じ牢に入れられ、それぞれ夢を見ました。ヨセフはそれを解き明かし、その通りに給仕長は釈放され、料理長は殺されました。しかし給仕長は、ヨセフのことなどすっかり忘れてしまったのです。2年が過ぎ、パロが不思議な夢を見て、その解き明かしを全エジプトに命じたとき、給仕長は牢のヨセフのことをやっと思い出したのです。そしてヨセフは牢から出され、夢を解き明かし、これから続く7年間の大豊作と7年間の大きな予告をしました。そしてこのことは、王に認められ、彼は、何とエジプトの大臣に任命されたのです。

ワーク C

- 第1問 み言葉の記入は「神はそれを良きに変わらせて」。人間的には悲惨な身の上しか思えないのに、ヨセフの前半生を神が良きに変わってくださったことを確認し、神に注目させる。
- 第2問 37〜50章を読んで内容を把握しておき、イフストを用いて、生徒にその苦境をとらえさせる。答えとしては①、④であろうが、自力でがんばったというより、信仰による。「あなただったらどうしたと思う?」と尋ねて会話をしよう。
- 第3問の答えは②と④。
- 第4問は適用質問。自分の生活の中で理不尽や不公平な目にあつたことがあるなら、それを話し合い、ヨセフの信仰を見習おうと祈る。

ワーク D

- ヨセフの立場は、好転しかけては落とされ、また好転しかけては落とされることの繰り返しです。好転した時には、感謝や高ぶりがあつたでしょうし、落とされた時には、悔しさ、恨み、不安、不信などがあつたでしょう。「自分がそんな目にあつたらどうだろうか」と、一緒に考えて下さい。神様が共にいてくださることを信じて、不遇の中でも神様を信頼できるように、導きましよう。

プトを何度か行き来させられます。そこで兄たちが、ヨセフを奴隷に売ったことを心から悔いるのを見て、ヨセフは名乗り出ました。そして、「お兄さんたちを救うために、神様が私を先にエジプトに送られたのです」と、彼らを救済したのです。

(承) 学ぶべき真理

ヨセフの生涯は苦難の連続のように見えます。しかし、奴隷にされても、牢に入れられても、恩を忘れられても、ヨセフはそこで最善を尽くしました。恨んだり、ふてくされたりしなかったのです。それは、神様は必ず祝福しておられて、人が思いつきもしない計画を行っておられることを信じていたからです。神様は人の悪意も良いものに変えて、全てを益に変えることができるのです。

(転) 生活への適用

皆さんは、自分だけが用事を言いつけられたり、自分だけが失敗をしてしまつて、自分は神様から見放されていると感じたことがありませんか。そんな時は、なぜ自分だけこんな理不尽な目に会わないといけないのかと思うでしょう。しかし神様が知らなくて起こる出来事はありません。すべてのことは、神様の良いことへの計画なのです。

結論

人の目には不幸や苦難に見えても、神様は全てのことを良いことへの計画として下さいます。すねたり、うらんだりしてはいけません。ヨセフのように、そのおかれた立場で最善をつくしましょう。そこで神様の祝福が受け取れます。

中高校へのヒント

- 考えてみよう  
1 ヨセフは自分の意に反する出来事に次々と直面しましたが、そのたびにどういう態度を取りましたか。  
2 なぜそのような態度を取ることができたのでしょうか。  
3 ヨセフの生涯から、神のご計画はどのようなものであると言えるでしょうか。  
● 自分にあてはめてみよう  
1 あなたは、人から憎まれたり、誤解されたりしたこと、また自分の思い通りにならなかったこと(挫折、失恋、病気等)がありますか。その時、あなたはどのような態度を取りましたか。  
2 その結果、どうなりましたか。  
3 今度同じようなことがあれば、どうしたらよいでしょうか。  
● 話し合ってみよう  
1 主が常にヨセフと共におられ、祝福されたのはなぜでしょうか。  
2 ヨセフは、自分を奴隷に売った兄弟たちに対して、中心聖句50・20を語って慰めました。どうしてこんな態度を取れたのでしょうか。  
3 自分の思い通りにならなかったことが、振り返ってみると実は神の最善のご計画であったと気づかされた体験があれば、分かち合いましよう。



聖書 出エジプト1・1～2・14  
テーマ モーセの備え

## 序論

これから8週間にわたって、モーセの生涯を学ぶ。寄留の地であるエジプトから脱出して、神の約束の地であるカナンにもどり、そこで神の民が形成されるために、モーセはどうしても必要な人物だった。そのために神は、80年をかけて周到な準備をなされたのである。聖書朗読の箇所は2・11～14が適切だと思われる。

## 一、神の計画

ヨセフを大臣に任命したのは、当時、エジプトを支配していたヒクソスという外来民族の王だった。ところがその後、約4百年の間に、エジプト本来の民族がこの異民族を追い出し、ハヨセフのことを知らない新しい王Vが覇権を握った。その結果、ヒクソス時代に優遇されていたイスラエル民族は逆に厳しく扱われるようになった。彼らは大民族となっていたので、再び異民族との人戦いの起るとき、敵に味方Vするなら一大事と思われる。奴隸として強制労働を課せられたのである。

それでもイスラエル民族は増え続けた。そこで王は、「生まれた男の子を殺せ」とか「ナイル川に投げこめ」とか、残虐な命令を下した。だが、ここに神の深遠な計画があった。この頃誕生したモーセは、ナイル川に流されることによって、パロ王の娘に拾われ、安全に育てられることになったのである。しかも、実の母親から乳を飲み、ハブ

## 研究資料

(長田)

## 神の計画と神の人

神は、「自身のご計画をお持ちである。神のご計画は、私たちの思いを超えて、神の時に、神の方法をもって行われる(伝道の書3・11)。加えて覚えるべきことは、神のご計画は、多くの場合、地上の人を通して行われることである。神に全く信頼し、お従いする神の人が必要とされる。そのために、神は、まず長い時間をかけて訓練し、神の人を備えなされる。

エジプトにあつて苦しむイスラエルの民を救う神の壮大なご計画の中でも、神の人モーセが必要であった。パロの男の子殺害の命令の下で生まれたモーセは、神の御手の中で守られ、パロの娘のもとで育てられ、「エジプト人のあらゆる学問を教え込まれ」(使徒7・22)だ。彼は、「言葉にもわざにも、力があつた」(使徒7・22)。

しかし、それでも備えは不十分であった。彼は、40歳になった時、奴隸として苦しむ同胞のあり様を見、民のために何かができると考え、立ち上がったが、それは無残な失敗に終わった(使徒7・23～29も参照)。自分の力や賜物によっては、神よりの使命を果たすことはできない。

神は、彼を荒野に追いやり、そこで、神だけを仰ぎ、神だけに信頼して歩む訓練をお与えになった。こうして、モーセは、荒野での40年間の生活の中で、大いなる働きのために備えられた。

ル人の信仰をしっかりと受け継いだ。パロの残虐な方法も、神の計画の中では、イスラエルの救いのために用いられる。モーセは王子として、当時の最高の学問を教えられた。彼は、イスラエルの言葉もエジプトの言葉も読み書きできた。後に神が与えられた種々の戒めや複雑な幕屋の設計図を十分理解し、聖書に書き記せたのは、このような教育が基礎にあつたからだと考えられる。

## 二、モーセの計画

モーセが40歳の頃、彼は、ハバロの娘の子と言われることを拒み、罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選ぼうとした(ヘブル11・24～25)。彼は、同胞がエジプト人によって虐待されているのを見て、思わずエジプト人を打ち殺してしまつたが、同胞であるイスラエル人はモーセを支持しなかった。モーセは、これがパロの知るころとなるのを恐れて、エジプトから逃げ出した。

モーセは、自分にはこれだけ能力があるから人は従うだろう、これだけのことをしてあげたから感謝するだろう、これだけの物を捧げたから敬うだろうと考えていたようだ。どんなに彼が有能であつても、自分の力で同胞を奴隷状態から解放することはできない。モーセはこの時、大きな挫折を味わった。神は、御自身の働きのために人を用いられる。だが用いられるのは、自分の無力さを知つて、神に働いていただく人だ。この経験をおして、モーセは自己の無能を知つたのである。

出エジプトのためにはモーセが、イスラエル王国のためにはダビデが、異邦人伝道のためにはパウロが必要とされた。彼らは、いずれも数々の試練の中で、主のご訓練を受け、神のご計画の中で用いられたのである。

## テキスト

1・7 イスラエルの子孫は多くの子を生み、ますますふえ、はなはだ強くなって、国に満ちるようになった。急速なイスラエル民族の形成。しかし、それは、同時に、エジプトの為政者の目には脅威と映った。

1・8 ヨセフのことを知らない新しい王 諸説あるが、一説では、外来民族ヒクソスを追い出したアアフメス(BC16世紀前半)中頃、出エジプト早期説による。

1・17 助産婦たちは神をおそれ、男の子を生かしておいた 当時パロの命令は絶対であつたが、彼女たちにとって、神に背いて尊い命を奪うことは、考えられなかったであろう。神は彼女たちの家を祝福された(21節)。

1・22 ヘブルびとに男の子が生れたならば、みなナイル川に投げ込め イスラエルの民がこれ以上多くならないように、重い苦役の賦課、助産婦への男子殺害命令に続いて、第三の、より直接的な命令。

2・2 その麗しいのを見て、三月のあいだ隠していた 使徒7・20参照。

2・6 見よ、幼な子は泣いていた パロの娘の

## 三、神の教育

神は、エジプトからのがれたモーセに、ミディアンの荒野という教育の場を用意しておられた。豪華絢爛たるエジプトの富も文化もない荒野で、彼は40年間を過ごすことになる。モーセはそこで、羊飼いをした。羊は弱い生き物で、羊飼いが牧草のある所、水のあるところに連れて行かなければ生きてゆけない。また、羊は狼や獅子に襲われたら戦う牙も角もない。しかし羊は、羊飼いに導かれれば大丈夫だ。羊飼いを呼べば、狼にも獅子にも勝てる。神と人間の関係も、羊と羊飼いの関係に似ている。モーセは羊飼いの仕事をとおして、神の慈愛と忍耐と寛容を学んだ。そして、ハモーセはその人となり柔和なこと、地上のすべての人にまさっていたV(民数記12・3)と記されるまでになったのだ。この経験は、彼がイスラエルの民を導くために、どうしても必要な訓練だった。モーセは、自分の力で人を救う事はできないことを徹底して知り、神に導かれる者となった。自己の無能を知る者が、神の大能を知るのである。

## 結論

神は、モーセを用いようと、準備万端、整えておられた。私たちも同じだ。思いがけない道が開けたり、望んだ道が閉ざされたり、思ったとおりにはいかないことがある。しかし、全ては神の計画の中にあることを信じよう。自己の無能がわかつたときに、神の大能が初めて理解できる。挫折感を味わう時こそ、神が働いてくださる機会なのだ。その時、主の大能を経験することができる。

母性本能をくすぐるように、赤ん坊は泣いた。ここにも、神の摂理の御手があつたであろう。

2・7 そのとき幼な子の姉はパロの娘に言った、「わたしが行ってヘブルの女のうちから…うばを呼んでまいりましょうか」 少女の気転も主に用いられた。

2・11 モーセが成長した後、ある日のこと 使徒7・23によれば、モーセ40歳の時。

同胞の所に出て行って、そのはげしい労役を見たモーセのヘブル人としての意識は、幼い頃、実母のもとで育てられたことによって培われたのかもしれない。しかし、同胞の窮状を目の当たりにすることによって初めて、彼は、自分自身が同胞のために何かをしなければならなと感じた。ヘブル11・24～26によれば、彼はこの時、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、エジプトの富を捨て、同胞と苦しみと共にすることを選ぶ決断をしたようである。

12 左右を見まわし、人のいないのを見て、そのエジプト人を打ち殺し 同胞と苦しみと共にする決断そのものは正しかったが、そのためにモーセが取った行動は、単に人間的な思いによってなされたものであった。「人のいないのを見て」という表現は、その行動が神の導きの上に立ったものでなく、とっさの思いつきによるものであることを示唆する。

14 モーセは恐れた 神の御心に立っていない行動は恐れが伴うし、人の言葉や評価によって行動が左右される。

**聖書** 出エジプト2・11～14  
**タイトル** 自分の力のなさに気づく  
**中心聖句** 信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを拒み、罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選んだ。  
 ヘブル11・24～25  
**目標** 自分の無力を知る人が、神様の救いをもたらすことを発見する。

**導入**  
 先週は、ヨセフの生涯から、神様が全てのことを良いことへの計画としておられることを学びました。これからしばらくは、モーセの生涯から、神様が救いをもたらされることを学びます。

**(起) ストーリーを語る**  
 モーセが生まれたときにはもう、ヨセフがエジプトのききんを救った人だということを知っている人はいなくなっていました。しかし、カナンからエジプトに移住したイスラエル民族は、その間にどんどん増えて、ものすごくたくさん人口になっていました。それで、エジプトのパロ(王)は、イスラエルの勢力を恐れて、彼らが反乱をおこさないように、奴隷としてこき使ったのです。しかし、それでも彼らの人口が増えるのを見て、パロは、出産した子が男ならその場で殺せとか、ナイル川に捨てろという命令を出したので、このような状況の中、神様はイスラエルを救う

計画を進めておられました。選ばれたのはモーセです。彼は、生まれて3か月たって、ナイル川に流されましたが、パロの娘に拾われて、命拾いしました。そして、パロの娘の命令で、実の母親を乳母として育てられました。ですから、モーセは子どもの頃に、イスラエルの神を信じる信仰をしっかりと受け継ぐことができました。

その後、モーセはエジプトの王子として王宮に入り、当時の最高の教育を受けました。しかし、信仰によってモーセは、成人したとき、パロの娘の子といわれることを拒み、はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。そこで、40才になったある日、同胞のイスラエル人がエジプト人に虐待されているのを見て、自分でそのエジプト人を殺してしまいました。しかし、自分の力でイスラエル民族を救ってやろうとした彼の考えどおりにはいきません。他のイスラエル人は、モーセを支持せず、「だれがあなたをわれわれのつかさにしたのか」と言うのです。そこで、とうとう、モーセは王子という身分を捨てて、エジプトから逃げ出してしまいました。

モーセはミデアンまで逃げ、そこで出会った祭司の娘と結婚し、40年間、羊飼いをすることになります。しかし、これがモーセの訓練の時だったのです。羊は、弱い生き物で、牙も角も持っていないから、自分で戦うことはできません。しかし羊は、羊飼いを呼べば、狼にも獅子にも負けません。また羊は迷いやすく、自分で牧草や泉を見つけることができません。しかし、羊飼いに、ちゃん

んと導かれれば、元気に養われるのです。モーセはここで、羊と羊飼いの関係から、人と神の関係を学び、その柔和なこと全ての人に勝るようになったのです。

**(承) 学ぶべき真理**  
 羊は自分の力ではなく、羊飼いの慈愛と忍耐と寛容によって養われます。同様に、人間は自分の力、才能、生まれ、育ち、知識、権力で人を救うことはできません。神様に戦っていたとき、神様に導かれてこそできるのです。モーセは羊飼いで、弱い者を思いやる慈愛、できるまで待つ忍耐、ありのまま受け入れる寛容を身に付けることができました。だから神様にイスラエルの羊飼いとしてみられるのです。

**(転) 生活への適用**  
 皆さんには、嫌いな人、苦手な人がいませんか。また小さい子がもたもたしているのにいらついで、待ってあげなかったことがありますか。神様が、受け入れない人があるでしょうか。神様はどれだけ、私たちが救われるのに忍耐されたでしょうか。思い出ししましょう。

**結論**  
 そして、モーセのように、自分の力で人を救うことはできないことに気づき、神様に戦っていたかもしれません。また、モーセのように慈愛と忍耐と寛容をもって、神様に導かれ、その導きを人に伝える人になりましょう。

中高校へのヒント

- 考えてみよう
- 1 イスラエルの民がエジプトで迫害されるようになったのはなぜですか。その迫害方法は？
  - 2 モーセの生涯を三つに区分してみましよう(使徒行伝7章)。各時代に、モーセが学んだことは何だったでしょうか。
  - 3 モーセは、どういう思いからエジプトびとを殺害したのでしょうか。その後、どうしてモーセは荒野に逃亡しなければならなかったのでしょうか。

- 自分にあてはめてみよう
- 1 現在の学校生活は、将来のあなたのためにどのような意義をもっていると思いますか。また、どのような姿勢で学校生活を送ったらよいでしょうか。
  - 2 良かれと思ってしたことが裏目に出たり、受け入れられなかったりした経験はありませんか。その原因はどこにあったと思いますか。
  - 3 苦い経験(2の他にも失敗、挫折等)をしたことが、今のあなたにどのような意味をもち、役立っていると思いますか。
- 話し合ってみよう
- 1 神は歴史の中でどのように働いておられるでしょうか。
  - 2 神はモーセの生涯の中でどのように働かれたでしょうか。では、あなたのこれまでの人生にはどのように働いていられたでしょうか。

ワーク A

**導入のヒント**  
 「王子さまや王女さまになれたらいいのにな。おもちゃや人形やゲームなんか、なんでも買えるから」なんて思ったことはありませんか。今日お話しするモーセさんは、殺されそうになっていたのに、不思議な神様のご計画によって、王女の子どもになりました。でも、欲しいものを何でも買ったではありません。どんなことをしたのでしようね。

●ワークについて  
 モーセさんを入れたかごをつくりましょう。好きな色をぬって下さい。

ワーク B

- 質問1 モーセは王宮で恵まれて育ちましたが、同胞を救えませんでした。お金も勉強も人を救えないことに気づきましよう。
- 質問2 自分の力の足りなさに気づきます。助けることができるか答えた子どもには、現実をリアルに話してみてください。
- 質問3 私に力がないからこそ、助けて下さる神様に頼りましよう。先生方の体験なども話してあげてください。
- 賛美歌 「あなたがこわくなったとき」  
 (ふくいん子どもさんびか56番)  
 今日のお祈り 「神様、私は弱く小さな子どもです。どうか助け導いてください。」

ワーク C

●肉が頼るのは「権力」「美しさ・見栄え・評価」「力」「お金・財力」「知恵・知識」。これらはこの世の基準であり、価値あるものとされているものである。大人も子どももこれらに大きく依存している。モーセは当時の最高の教育、訓練を受けていた。しかし、神はそういうこの世のもの、肉のものを全く用いられない。むしろその反対である。全く神に従順に委ねる時に、神の時に、神の御手により救いが成就していく。

●第4問では自分が頼っている力は何なのかを一緒に考えよう。家庭で、学校で、友だちという時など、困った時、危険な時にどうするか考えてみよう。

ワーク D

- 質問1 王の家で育てられたモーセは、同胞のヘブル人が奴隷となっていたことをどのように受け止めていたか考えて下さい。
- 質問2 モーセは、王家の立場で同胞を救おうとしました。動機が純粋に同胞への憐れみでも、立場の違いが同胞とのすれ違いを生みだし、かえって同胞から恨みを買ったことになりました。
- 質問3 モーセは逃げ出します。失敗や挫折の中で弱さを知ること、神様が働き人として備えられるときのみわざです。
- 質問4 自分本位の善意ではなく、人のことを考えてみることで、どんな中でも神様に信頼し、主の導きに従うことを考えて下さい。



聖書 出エジプト2・23～4・17  
テーマ 召命を受けたモーセ

## 序論

ミデヤンの荒野で40年間、神の教育を受けていたモーセを、神はいよいよご自身の働きに召し出そうとされた。イスラエル人の人苦役のゆえの叫びは神に届いた。神とアブラハムとの契約は、カナンの地で生活することだった。それを実現するために、神は御自身をモーセに現された。彼はこのとき初めて、両親から聞いていたイスラエルの神の臨在に接したのである。朗読箇所は、3・1～12が良いだろう。

## 一、靴を脱ぐモーセ

羊を導いてシナイ半島の南部に来ていたモーセに、神は燃える柴の中から呼び掛けられた。神の臨在は、しばしば火で象徴される。そして神は、△足からくつを脱ぎなさいと命じられた。そこが聖なる場所であることを教えるためであった。また、くつを脱ぐことは権利を譲ることを表している(ルツ4・7～8)。モーセはすぐに従うことによって、自らの権勢や能力によらず、神のしもべとなっていることを表している。

## 二、神の全能を知る

神は、△わたしは、あなたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である△と自己紹介された。幼いころから聞いていたあの偉大な神が、このように目の前に示されたために、モーセは恐れて顔を隠した。しかし神は、イスラエ

## 研究資料

(長田)

## 神の召命

神の召命は、2つの段階を伴っている(マルコ3・13～15)。神は、まず第一に、「ご自身から離れた罪人に対し、ご自身のもとに立ち返るよう」との召命を与えられる。この召しを聞いて、私たちは救いに導かれ、きよめられ、神との交わりを回復する(ローマ8・30、1コリント1・9等)。第二に、神は、「ご自身のみわざのために、人に御声をかけ、特定の働きに立たせ、世に遣わされる。働きへの神の召命の特徴は…

①時にかなった召命 イスラエルの民の叫びが頂点に達した時、モーセに対する召命が与えられた。それはちょうど、モーセに対する荒野での訓練が十分なされた時であった。

②聖別された者への召命 「足からくつを脱ぎなさい」(3・5)。神の働きへの召命は、世からの聖別、神への明け渡し、全き献身への招きを伴っている(創世記12・1、2、イザヤ6・6～8)。

③保証を伴う召命 「わたしは必ずあなたと共にいる。これが、わたしのあなたをつかわしたるしである」(3・12)。召し、遣わされる神は、常に臨在の約束をもって保証を与えられる(ヨシュア1・5、6、士師6・14～16、マタイ28・19、20等)。

## テキスト

2・23 苦役のゆえの叫びは神に届いた 23～25

ルの悩みを見、叫びを聞き、痛みを知っていることを話された。モーセと無関係な神ではなく、先祖をこまごまと導いてきた神である。その神が、今も生きて働いて、イスラエルの痛みを知っておられる。そして、先祖と結んだ契約のとおり、彼らを乳と蜜の流れる地に上らせるために天から下ってきて、モーセを召しておられるのだ。そして、神は今もまた生きて働き、私たちの悩みや痛みを知り、救って下さる方である。

モーセは、「わたしは何者なのでそのようなことをしなければならぬのでしょうか」と答えている。彼は、40年前に同胞を救おうと決心し、そのためにエジプト人を打ち殺したが、同胞から支持されなかったことを思い出したのかもしれない。それで、自分にはできないと思ったのだらうか。しかし神は、△わたしは必ずあなたと共にいる△と仰せられた。これ以後、何度もこの約束が出てくる。神が共におられるから、人にはできないことが、召された人を通してなされるのである。

モーセはまた、イスラエルの民のところへ行く場合、彼らに証しするために、神の名を尋ねた。そこで神は、△わたしは、有って有る者△とおっしゃった。被造物は全て、「有らしめられて有るもの」だ。しかし創造者は違う。天地創造の前から「有って有るもの」であり、現在も未来も有り続けるお方である。だから当然、どんな時でも、「あなたと共にいる」と言えるのだ。

## 三、具体的な臨在

40年前のモーセと違って、この時のモーセは自分の無力さを十分知っていた。だから彼は逡巡し

節において、イスラエルの民のうめき・叫びが神の耳に届き、神が民を顧みられたことが、いろいろな表現で繰り返されている。神が大いなるみわざをなさるのは、神の民が祈り叫ぶ時である。

3・1 神の山ホレフにきた 羊を追ってきたのであるが、そこには確かに神の導きがあった。ホレフ山はシナイ山と同一(出エジプト19・11以下と申命記4・10以降とを比較せよ)。

3・2 主の使は、しばの中の炎のうちに彼に現れた 4節では、「主」、また「神」がしばの中から語っておられるので、神ご自身の臨在と同一視してよい。炎は、主の臨在が目に見える形で現わされたもの。

3・5 足からくつを脱ぎなさい 自分をしもべの立場に置く行為。モーセは、聖なる神の前にあることを覚え、自らを主に明け渡し行為として、そのように行った。

3・7 悩みを、つぶさに見、…叫びの聞いた。…苦しみを知っている。神は、私たちの苦しみ悩みの中から、ご自身のみわざを始められる。

3・8 わたしは下って 天にいます神は、地にある私たちの祈りに応えて、地の出来事に介入して下さる。

乳と蜜の流れる地 農産物が豊かにとれる地。3・10 わたしは、あなたをパロにつかわして、わたしの民、イスラエルの人々をエジプトから導き出させよう モーセに与えられた召命の内容。3・11 わたしは、いったい何者でしょう 40年前のモーセとは異なり、自分の無力を知る者とし

ている。まず、「イスラエルの民が、自分を神から遣わされた指導者として受け入れない」と後込みする。しかし神は、杖をへびに変え、手をらい病(聖書中のらい病は現在のハンセン氏病とは異なる)にしてまた癒し、水を血に変えるなどという奇跡的なしるしをなす力を与えられた。

それでもモーセは「自分は口下手だ」と言う。そこで神は、△わたしはあなたの口とともにあって、あなたの言うべきことを教える△と約束された。

さらにモーセは、△ほかの適当な人をおつかわしてください△と主張する。すると神は、兄のアロンを共に行かせると仰せられたのだ。

私たちも、欠点や弱点を抱えているが、神はそれをも御存じの上で、召され、遣わされる。それは、神と共にいて、弱さのうちに働かれるからである。神は共にいて下さり、神の全能を示して下さる。だれも人を救うことはできないが、そのために用いられることはできる。神が共におられるなら、どんなこともできるのである。

## 結論

神が私たちを御自身の働きのために召されるのは、私たちに力があるからではない。何もできない弱い者だからだ。その弱さを自覚して、ただ神により頼むとき、神はみわざをなされる。自己の無能を知る者が、神の全能を知るのだ。そして主の御名があがめられるのである。だから、主が召されたとき、私たちもありのままに答えよう。

## ての言葉。

3・12 わたしは必ずあなたと共にいる。これが、わたしのあなたをつかわしたるしである 「神の召命」の項参照。

3・13 彼らが『その名はなんというのですか』とわたしに聞くならば、なんと答えましょうか

神の召命のお声に対して、モーセはいくつかの危惧を表明する。神の名についての第一の問いに対して、主は、「有って有る者(エハイエ・アシェル・エハイエ)」(3・15等)で「主」と訳される「ヤウエ」は、「ここから由来すると考えられる」、また「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」との名をもって答えられる。イスラエルを救おうとしておられるお方は、自ら存在し、歴史の中で働いてこられたお方に他ならない。

4・1 彼らは…言うでしよう、『主はあなたに現れなかった』と モーセの第二の危惧に対して、神は、いくつかのしるしを与えられる。

4・10 言葉の人ではありません 賜物の欠如を訴えるモーセの第三の危惧に対しては、口を授けたのは神であることを思い出させ、神が言うべきことを教えることを保証される。

4・13 ああ、主よ、どうか、ほかの適当な人をあくまでも固辞しようとするモーセに対して、主はついに怒りを発しなされる。自らがどれほど不適当に思えたとしても、神が召されたのであれば、それを拒むことは不信仰。しかし、神は、同時に、兄アロンが彼の助け手となることを告げる。

聖書 出エジプト3・1～12  
タイトル 消えない火  
中心聖句 さあ、わたしは、あなたをパロにつかわして、わたしの民、イスラエルの人々をエジプトから導き出させよう。 出エジプト3・10  
目標 自分の無力を知った人こそ、神様に導かれるとき、神様に用いられることを発見する。

導入

木が炎で燃えるとき、木自体が燃え尽きると、火は消えてしまいます。しかし、消えないで燃え続けるのは、他からエネルギーが注がれて、燃えているからです。モーセはそんな火を見ました。

(起) ストーリーを語る

40才からミデヤンで羊飼をしていたモーセは、80才になりました。いつものように羊の群れを連れてシナイ山の方に行ったとき、不思議なことを発見しました。柴(低い木)が、赤々と燃え続け、一向に燃え尽きそうもないのです。モーセは、不思議に思い、近づいて何が起きているのか確かめようとしました。すると、神様が柴の中から、「モーセ、モーセ」と呼ばれました。モーセは驚いて、「はい、ここにいます」と答えました。すると、神様は「ここに近づいてはいけない。足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである」とおっしゃったのです。

そこは神様がおられるきよい所だからという理由と、神様にすべての権利を委ねると言う意味で、くつを脱ぎなさいといわれたのです。モーセはすぐに従いました。

続いて神様は、「わたしは、あなたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」と言われました。モーセは小さいときから聞いていた偉大な神様だと知り、神様の顔を見るのを恐れて顔を隠します。そこで神様は、エジプトで奴隷生活をしているイスラエルの民の苦しみを全て見ているし、叫びも耳に届いているとおっしゃいました。だから、これからイスラエルの民をエジプトから救い出し、約束の地カナンに導くため、モーセをリーダーとして選んだとおっしゃったのです。モーセは、「わたしはいいたい何者でしょう」と言って、自分の無力なことを訴えました。しかし、神様は、「わたしは、必ずあなたと共にいる」と約束され、モーセが自分の力で救うのではなく、神様が救われることを教えられたのです。

モーセは、自分が神様に選ばれた証拠として、神様の名前を聞きました。すると神様は、「わたしは、有って有る者」と言われ、全てのものを造り出し、今も昔もこれからもずっと変わらない神であることを教えられました。まとめると、神様はイスラエルの神です。痛みを知り、救う神です。有って有る存在の根本です。その神が共にいるから、モーセにはできなくても、神様がモーセを用いてイスラエルを救われるのです。

モーセがまだ気配れしていると、杖をへびに変えたり、手を重い皮膚病にして再び癒して見せて、

ワーク A

導入のヒント

初めて一人でおつかいに行ったときのこと、覚えていますか。たいへんだったでしょう。モーセさんも、神様から大切なお仕事を頼まれました。その時、神様は燃えてもなくならない、不思議な柴を見せられたのです。モーセさんは、柴の中に神様がおられるから、柴が燃えてしまわないことを知りました。そして、神様がいてくださることを信じて、このお仕事を引き受けたのです。

ワークについて

●ワークについて  
実線でAとBに切って点線で二つに折り、間にわりばしをはさみます。Bのしばに、赤いセロハンが折り紙を炎の形に切ってはりましょう。ちぎる紙をしてもいいです。

ワーク B

- 質問1 人間をはるかに超えた神様の力の偉大さについて知りましょう。
- 質問2 どんなに無力でも、神様が共におられるとき神様が助けてくださることを、みことばの中から確認します。
- 質問3 ふだんの生活の中でできないことも、神様と一緒にできることに気づきましょう。
- 賛美歌 「イエスさまにたよるほかに」  
(ふくいん子どもさんびか12番)

ワーク C

●今日のお祈り「すばらしい神様、あなたが一緒にいてくださるから、こわくありません。ありがとうございます。」

●第2問は自分自身をどう感じているかをみる質問。理由を聞いて話し合ってみたら良い。全知全能の神、愛の神を確認しよう。そういうお方が、こんな自分を遣わそうとしておられることは驚くべきことである。それほどの信仰の自覚が生徒たちにある場合は、さほど多くはないかもしれないが、これを機会に、教会に導かれて神のメッセージを聞くことに召されている自分を自覚し、さらに、神がそんな自分を遣わそうとしておられることを考え、教師がリードして話し合ってみよう。

ワーク D

- 質問1 神様にしかできないみわざです。イスラエルの生ける神をあらわされた主の臨在の前で、モーセは自分の身を預けました。
- 質問2 モーセは、以前の失敗を思い出したでしょう。しかし神様は、責任をもって、共にいるという約束で送り出されます。
- 質問3 失敗や弱さを知っておられる神様が、共にいて助けてくださる現実を考えて下さい。

このようなしるしが伴うことを教えられました。それでもなお、モーセがしゃべるのがへただというと、神様がちゃんと言葉を下さると言われ、それでもまだ他の人に代えて下さいと言った、兄のアロンにモーセの口かわりをさせるとまでおっしゃったのです。

(承) 学ぶべき真理

自分の力では人を救ったりはできないと、神様に下駄をあずけることは大切です。しかし、神様には何でもできることを信じることも大切です。自分にはできないけれど、神様にはできるから、神様に委ねて、導きに従ってゆくとともに神の栄光を見るのです。

(転) 生活への適用

教会で、献金の御用やお祈りをして下さいと言われても、恥ずかしくてできないと思ったりすることはありませんか。神様の御用をするときは、神様が共にいて助け、それをする力をくださいますから、やってみましょう。

結論

たとい、自分は弱く力がないと思えても、神様が選ばれたなら、神様が助けて下さるから大丈夫です。私たちが弱くても、力ある神様が共にいて、力を現して下さるのです。柴が燃えてしまったら、灰になってそれで終わりです。しかし、神様がエネルギーを与えて下さったら、燃え尽きずに燃え続けることができます。自分の力で救うのではなく、神様に委ね、神様に働いていただきましょう。

中高校へのヒント

●考えてみよう

- 1 燃えるしばは何を意味していますか。
- 2 モーセは足から靴を脱ぎましたが、これは何を意味する行動でしょうか。
- 3 「わたしは、有って有る者」という神の名は、どういう意味でしょうか。
- 4 モーセはエジプト脱出のリーダーとなることを何度も拒みましたが、その理由は何でしたか。
- 5 モーセが自分で弱点と考えていたことは、神にとってマイナスだったでしょうか。

●自分にあてはめてみよう

- 1 あなたの苦手なこと、欠けたところは何ですか。それはあなたにとって、また神にとって本当にマイナスでしょうか。
  - 2 苦手なこと、欠けたところをどう理解し、どう対処したらよいでしょうか。
  - 3 苦手な奉仕や重大な責任を割当てられたとき、どうしたらよいでしょうか。
- 話し合ってみよう
- 1 モーセがイスラエルの民を導くという困難な使命に約40年間も耐えることのできた秘訣はどこにあったでしょうか。
  - 2 神は「自分の計画を進められる上で、どのような人を必要とされるのでしょうか。」
  - 3 大能の神により頼んで、苦手なことや欠けたところを克服できた体験があれば、分かち合いましょう。



聖書 出エジプト5・1～10・29  
テーマ 全能の主による救い

## 序論

召命を受けたモーセは、アロンとともにパロ王の前に出て、イスラエルの民を去らせるようにとの主の言葉を語る。しかし王は、**「わがたしは主を知らない」と**言い放ち、かたくなに拒み続けた。実は、これは主がどういおう方かを人々に知らせるために、あえて神がなされたことなのである。何度も繰り返されている、**「わがたしは主であることを知るであらう」と**の表現に注目しよう。聖書朗読は7・1～7に限ってもよい。

## 一、イスラエルが主を知るために

モーセとアロンが最初にパロと交渉したとき、王は、**「わらは与えないが、れんがは同じだけ作れ」と**、イスラエル人をさらに苦しめる命令を出した。イスラエルの民は苦しみ、モーセに不満をぶつけた。神と民との板挟みになったモーセは、**「あなた、すこしもあなたの民を救おうとなさいません」と**神に叫んだ。しかし神は、**「わがたしがエジプトびとの労役の下からあなたがたを導き出すあなただの神、主であることを、あなたがたは知るであらう」**(6・7)とおっしゃる。主は、一度の交渉でイスラエルの民をエジプトから解放することもできる全能の神である。しかし、あえてそうなさらないのは、神が主であることをイスラエルが知るためであった。天地を造った全能の神こそが、主である。主は、耐えきれない試練を与

## 研究資料

(長田)

## エジプトに対する十の災い

エジプトで奴隷状態であったイスラエルの民の解放は、神の恐るべき十の災いを伴うものであった。このことの意味は何であろうか。

## ①背景

その背景には、**「主とはいったい何者か」**(5・2)と問う、エジプトの王パロの傲慢さとかたくなさがあつた。また、イスラエルの民の側にも、目に見える状況の悪化によって不満を言い表わす不信仰があつた(5・21、6・9)。

## ②目的

十の災いは、かたくななパロへのさばきであり、同時に、それは、イスラエルの民を解放するために取られた神の救いの方法であつた(6・6)。しかし、さらにその背後にある神のご目的は、イスラエルの民が、救いと解放の神として主を知ることであり(6・7、10・2)、エジプト人が唯一まことの神として主を知ることであつた(7・5)。十の災いを通して、神は、強い手(6・1)を持っておられる御自身を啓示しておられるのである。

## ③パロのかたくなさ

十の災いが起っていく中で、注目される一つのことば、パロのかたくなさである。主を侮り、イスラエルを去らせようとしない彼の態度(5・2、7・13、22等)が、十の災いをエジプトに招いたと言つことができる。同時に、神は、かたくなな

えられないし、試練と共に脱出の道も用意されているのだ。

## 二、エジプトが主を知るために

モーセとアロンが、主の仰せられたように、つえをへびに変えてみせても、パロはイスラエルの民を解放しようとはしなかった。その後、10の災害がエジプトに下されるが、そのたびにパロは、**「心をかたくなにして民を去らせなかつた」**。それは、**「主はパロの心をかたくなにされた」**からである(9・12、10・20)。そしてそれは、**「エジプトびとはわがたしが主であることを知るようになる」**(7・5)ためであつた。

10の災害は、①ナイル川の水が血に変化、②かえるの異常繁殖、③ぶよの大量発生、④あぶの大量発生、⑤家畜の疫病、⑥はれものの蔓延、⑦雷と雹、⑧いなごの来襲、⑨くらやみ、⑩初子の死亡と続く。この内の幾つかは、当時のエジプトの偶像であつた。例えば、ナイル川は偶像オシリスの血流と考えられており、女神ヘクトはかえるの頭をもっていた。家畜の中で牛は神として崇められていたし、太陽神ラーは最も偉大な神だつた。しかし、主はそれらの偶像より偉大であり、それらを支配されている。主人は多くはなく、一人だけである。エジプトは、イスラエルの神こそが唯一の主であると知るべきであつた。

なお、これらがエジプトの季節的な災害と順序が同一であるという指摘(『新聖書注解』も興味深い)、災害の大きさやタイミングなどは、全能の主でないと決してできないことである。

彼の心をなおかたくなにして(4・21、7・3、9・12等)、(一)自身の計画を遂行された。

## テキスト

5・3 **どうか、わたしたちを三日の道のりほど荒野に行かせ、わたしたちの神、主に犠牲をささげさせてください**。主は、この後のすべての経緯を見通した上で、第一弾として、このような要求をモーセに語らせなされたのであつた(3・18)。

5・19 **イスラエルの人々のかしらたちは、「れんがの日この分を減らしてはならない」と言われたので、悪い事態になったことを知った**。一見して悪い事態になったように思えても、神のご計画が進んでいることがある。イスラエルの人々には、まだ神の大きなご計画が見えていなかった。

5・22 **モーセは主のもとに帰って言った**。主に命じられた通りのことを語り、パロから拒まれ、結果的に労役が重くされ、その責任を同胞から問われたモーセは、大きな失望と戸惑いを抱えつつ、なお主のもとに近づく。使命を果たす中で失望した時、行くべき所は主のもと以外にない。

6・3 **主という名**。原語からそのまま訳せば、「ヤーウェ」という名「となる」ところ(先週「研究資料」3・13の解説参照)。

7・1 **あなたをパロに対して神のごときものとする**。自分の語ることをパロが聞くとは思えないでいるモーセに(6・12、30)、神は、神から遣された者としての大きな権威を授ける。

8・8 **かえるを…取り去るように…そのとき**わ

## 三、全地が主を知るために

第4の災害以降、主はイスラエルの民の住む「センの地を区別し、災いをおこされていけないことに注目したい。8・23のA区別Vという語は、新改訳では「救い」と訳されている。それはまた、「贖い」とも訳される(『新聖書注解』)。

エジプトだけにこのような災害がくだされるのは、神の名が全地に宣べ伝えられるためにほかならないV(9・16)。さらに神は、**「わがたしが行ったしるしを、あなたがたが、子や孫の耳に語り伝えるためである。そしてあなたがたは、わがたしが主であることを知るであらう」**(10・2)と仰せられた。神が、10の奇跡をもってエジプトを打ち、イスラエルを救われたのは、また、全世界の人、全時代の人々が、主は御自分の民を救い、贖う方であることを知るためであつた。確かに、現在、世界中の多くの人々は、出エジプトの出来事を知っており、主の偉大なみわざを知っている。

## 結論

現在の私たちも、神が自分の主であることを知らなければならぬ。ただ単に神が存在すると信じているだけでは、信仰とは言えない。神は主である。試練はあるが、脱出の道も用意されるのが主である。主は唯一である。2人の主に兼ね仕えてはならない。主は贖い、救う方であるから、神をあなたの主として魂に迎え入れることが信仰なのである。はたしてあなたは、神を主としているだろうか。

たしはこの民を去らせて、主に犠牲をささげさせるでしよ。第二のかえるの災いにおいて、パロは一旦、要求を飲むように言明するが、災いが過ぎ去ると、その言葉を翻す。その後の災いでも、同様のことが繰り返される(8・28、9・28、10・17)。サタンはしばしば偽りの解放をもって私たちを欺き、完全な解放をあきらめさせようとする。

8・18 **魔術師らも秘術をもって同じように行い、ぶよを出そうとしたが、彼らにはできなかった**。モーセ同様に、奇跡を起こしてきた魔術師たち(7・11、7・22、8・7)も、ぶよを出すことはできない。サタンは、ある程度、神の御力をまねることもできるが、神の御力の全体には及ぶことができない(9・11も参照)。

8・23 **わたしはわたしの民とあなたの民の間に区別をおく**。あぶの災いや、その後の災い(8・22、9・4、9・26、10・23、11・7)では、イスラエルの民には災いが及ばなかったことが明らかにされている。このことにより、これらの災いが、エジプトに対する神の裁きであることが一層明らかにされる。

8・25 **あなたがたは行ってこの国の内で、あなたがたの神に犠牲をささげなさい**。パロは、部分的譲歩を提案する(10・11、24)。しかし、神の御心は、民が完全に解放されることである。サタンの妥協的な提案に耳を貸してはならない。

聖書 出エジプト7・1-7  
タイトル 十の奇跡  
中心聖句 わたしが手をエジプトの上にさし伸べて、イスラエルの人々を彼らのうちから導き出す時、エジプトびとはわたしが主であることを知るようになるであろう。  
目標 神様が主であることを発見する。  
目録 出エジプト7・5

導入

神様はモーセに現れて、「ご自分を示されましたが、モーセにだけ知らせたいものではありません。イスラエル人も、エジプト人も、また私たちみんなが、神様を知ることが望んでおられます。」

(起) ストーリーを語る

モーセとアロンは、神様から遣わされてエジプトのパロに向かって、イスラエル人を解放して、神様を礼拝させるように願ひ出しました。しかし、パロは、「主とは何者か」と言って、全く取り合おうとしませんでした。そればかりでなく、パロは、ヘブル人はなまけものだと言って、レンガ作りのために与えていたわらも自分で集めさせ、なおかつレンガを作る数は減らしてはならないと、労働をさらに厳しいものにしました。そこで民は、モーセとアロンのせいで事態が悪化したと、不満をぶつけました。モーセは祈って、「あなたは、すこしもあなたの民を救おうとなさいません」と、神

様に詰め寄りました。すると神様は、このしばらくの試みは、イスラエル人が、神様が主であることを知るためであると語られたのです。

そこで神様は、モーセとアロンに、パロの前で奇跡を行って見せるように命じられました。まず、杖を投げてへびに変えましたが、エジプトの魔術師も同じようなことをしたため、パロは頑固に言うことを聞きません。それから、10の災いと叫ばれる奇跡が、次々と行われます。1番目は、ナイル川の水が血に変えられ、飲めなくなりしました。2番目は、カエルが寝室にも台所にも家中に群がって、人にまで飛びつくようになりました。3番目は、地の塵がブヨになって、エジプト中を埋め尽くしました。こんなことはエジプトの魔術師には真似のできないことでした。4番目は、アブがエジプトだけに飛び回って刺しました。5番目は、家畜に病気が広がり、エジプト人の家畜だけみな死んでしまいました。6番目は、モーセがかまどのすずを空に散らすと、それがエジプトの人と獣について、膿が出るようになりました。7番目は、大きな雪と雷が下り、畑の人と獣、青物や木まで打たれました。8番目は、いなこの大群が全地を暗くするまで飛んできて、わずかに残された青物も木の実も食い尽くしてしまいました。9つ目は、3日間の真つ暗闇です。どの災いのときも、パロは、苦しいときだけモーセの言うことを聞いて災いを取り除いてもらい、災いが取り除けられると、たちまち、心を頑固にして、イスラエルを解放しません。そこで、10番目の災いがもたらされます。それは、パロの子から家畜の子に至るまで、初め

て生まれた子はみな死んでしまつたというものです。この災いの後、やっと、パロは、モーセたちに出て行けと言ひ渡しました。彼はあきらめるほど頑固にヘブル人を解放しませんでした。これは、エジプト人が、神様が主であることを知るようになるためなのです。

(承) 学ぶべき真理

神様は、主です。主とは訓読めで「あるじ」と読むように、持ち主とか君主という意味です。神様は世界の持ち主であり、世界の支配者なのです。ですから、どのような奇跡も行つことができ、どんな状況からも救うことができます。神様は、イスラエルにもエジプトにも、ご自身が主であることを教えるためにこのような奇跡を行つてから、イスラエルを救い出されたのです。

(転) 生活への適用

皆さんは、神様を自分の主としていますか。神様がいらつしやると信じる人は結構多いのですが、神様を自分の主としている人は案外少ないのです。自分の考えと、神様のおっしゃることが異なつた時、皆さんはどちらを選びますか。神様を主としているなら、必ず神様のおっしゃるほうを選ぶはず。

結論

神様に従っていても、困難はあります。しかし、神様は主ですから、全てを所有し、全てを支配しておられます。必ず先頭に立つて、どんな状況から救い出してくださるのです。

中高校へのヒント

●考えてみよう

- 1 モーセとパロとの最初の交渉の結果、イスラエルの民は一層虐待されることになりました。それはなぜでしょうか。その時、モーセはどうしましたか。
- 2 「わたしは主である。…あなたがたをあがなうであろう」という神の宣言を聞いても、イスラエルの民は信じませんでした(6章)。どうしてでしょうか。
- 3 エジプトに次々と災いが臨んでも、パロはイスラエルの民を去らせませんでした。それはなぜでしょうか。

●自分にあてはめてみよう

- 1 祈りがなかなか聞かれなかったり、祈ったこととは正反対の結果に終わったたりしたことがありますか。その時、あなたはどの思い、どうしましたか。
  - 2 試練の中で、神の存在を疑ったことがありますか。なぜ疑うようになったのでしょうか。
  - 3 パロのように、あなたも神からの語りかけを退けているところ、御言葉に背いているところはありませんか。
- 話し合ってみよう
- 1 神が全世界に望んでおられること、あなたに望んでおられることは何でしょうか。
  - 2 神を自分の主とするとは、具体的にどのような生き方をするのでしょうか。

ワーク A

●導入のヒント

何も悪いことをしていないのに、友だちにいじめられたことがありますか。イスラエルの人々も、エジプトの王様に苦しめられていました。しかし神様は、モーセさんによって、10の不思議なわざを示されました。それを見た人々は、神様が本当に生きておられることを知りました。神様は、エジプトの王様よりも偉い、本当の王様です。そして、私たちを不思議な方法で助けて下さいます。

●ワークについて

かんむりをつくりましょう。色紙を丸や三角に切りぬぎ、かんむりに貼るのもいいでしょう。

ワーク B

●質問1 人間をはるかに超えた神様の力の偉大さについて知りましょう。

●質問2 どんなに無力でも、神様が共におられるとき、神様が助けてくださることを、み言葉の中から確認します。

●質問3 ふだんの生活の中でできないことも、神様と一緒にできることに気づきましょう。

●賛美歌

「イエスさまにたよるほくたちに」  
(ふくいん子どもさんびか12番)  
●今日のお祈り 「すばらしい神様、あなたが一緒にいてくださるから、こわくありません。ありがとうございます。」

ワーク C

●出エジプト3・14で、神はご自分のことを「わたしは、有って有る者」と自己紹介された。また15節では、「あなたがたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主」と「神」と「主」とをつなげて説明されている。出エジプト6・2-9にも言及され、特に3節では「わたしはアブラハム、イサク、ヤコブには全能の神として現れたが、主という名では、自分を彼らに知らせなかった」とあり、さらに、何回も「わたしは主である」と宣言されている。天地万物を創造された全知全能の「神」(力と義と聖の神、罪に汚れた人間にとっては恐ろしいお方)が、実は、親しく救いみちびかれる「主」なのだ。

ワーク D

●質問1 できれば一緒に聖書の記事を追ひ、不思議なわざを見てください。同じような不思議をやって見せた魔術師も、神のわざと認めざるをえませんでした。

●質問2 同じ地域にありながら、このときは同じ状況ではありませんでした。はっきりとした違いによってエジプト人は主を知るようになりました。

●質問3 日常の生活の中で神様が共にいてくださる例を具体的に考えてみてください。



聖書 出エジプト12・13・10  
テーマ 主の過越

## 序論

エジプトに下された第10番目の災害には、最も大きな意義がある。主は、エジプトの全土の初子(ういこ)を人間から動物に至るまですべて打たれた。しかし主は、この災害から逃れる方法を用意されていた。以来この方法は、過越の祭として、イスラエルの民に代々受け継がれてきた。これは、「エジプト(この世)から、パロ(サタン)の支配」から、奴隷のくびき(罪の生涯)からの救い」(『小島伊助全集』6巻38頁)を象徴している。朗読箇所は12章1〜27節に限っても良い。

## 一、国家と暦の起点

主は、太陽暦では3月から4月にあたるこの時期を八年の正月としなさいと命じられた。13・4でアヒブ(穀物の穂の意)と呼ばれているこの月は、大麦が穂を出す季節であり、以後イスラエルの民は、正月を迎えるたびに、出エジプトの出来事を思い起こすことになる。ハイスラエルの全衆と云われるのも、この箇所が聖書中で最初の例である。イスラエルの民は、出エジプトの経験を通して、一つの会衆、一つの国家としての形を整えていった。これ以降、△会衆△という語はモーセ五書だけでも百回以上用いられることになる。出エジプトは、イスラエル民族の歴史に刻みつけられた、神による救いの起点だったのである。

## 研究資料

(長田)

## 過越の恵み

エジプトに起った十の災いのクライマックスは、エジプト中の家庭の初子が一晚の内に死ぬという恐ろしいものであった。その災いは、パロの家から奴隷の家まで、さらに、家畜に至るまで、すべての初子に襲いかかった。ところが、イスラエルの民に対してだけは、その災いは及ばなかった。神の御声とおりに、小羊の血を家の戸口の柱ともいに塗ったことにより、災いが彼らの家を過ぎ越していったためである。

この出来事は、イスラエルの民の中で、過越の祭りとして祝われるようになった。彼らにとって、それは、大いなる解放の日であり、イスラエル民族の新たな出発の時でもあって、過越の祭りは、そのことを覚えて、神を賛美する時であった。

この祭りは、後に、キリストの十字架に結びつく。十字架前夜、キリストは、弟子たちと過越の食事をなさり(マタイ26・19〜29)、そこに新しい意味を与えられた。この時キリストによって与えられた命令により(1コリント11・23〜26)、教会は聖餐式を守るようになった。これは、十字架上で、キリストの肉が裂かれ、血が流されたことによって、罪の赦しと永遠の命の恵みが与えられたことを記念するものである。

私たちの罪は何ゆえ赦されるのであろうか。神の峻厳な裁きは、何ゆえ私たちの上を過ぎ越すの

## 二、小羊をほふる

このときに主は、傷のない一歳の雄の小羊をほふって、その血を家の入口の柱ともいに塗るように命じられた。さらに、その小羊の肉を焼き、種入れぬパンと苦菜を添えて食べるように民に命じられた。それは、残してはならず、完全に食べなければならないなかった。小羊は、主イエスの贖いを象徴している。主イエスを受け入れるのに、ある程度とか、一部だけということはない。その夜、主は△エジプトの国にいる人と獣とのすべての初子(ういこ)を打つたが、小羊の血は△あなたがたのおる家々で、あなたがたのために、しるしとなり、わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すとおっしゃった。それまでの災害の幾つかは、イスラエル人の住むゴゼンの地には及ばなかったが、最後の災いは、エジプトの全土に下され、主の言葉を信じて、小羊の血を塗った家には、この災いは下されなかった。神は、小羊の血を見て、「わたしは滅ぼすべきものは、既に小羊の血で贖われている」と判断されたのである。千五百年後、御子イエスが十字架につけられたのは、この過越の祭の時、小羊がほふられた日であったことを銘記したい。パウロが言うように、「わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにほふられた」(1コリント5・7)のだ。今も、主の言葉を信じて、小羊なる主イエスが私たちの罪の身代わりであることを信じる者は、決して滅ぼされることはない。十字架の血は、罪人がすでに贖われているといっているからだである。

である。ただ、小羊なるキリストの尊い血潮が私たちを覆う故である(ヨハネ1・29、1コリント5・7、1ペテロ1・18、19、ヨハネ1・7)。

## テキスト

12・2 この月をあなたがたの初めの月とし、これを年の正月としなさい。新しい暦の開始。この時が、民族としてのイスラエルの歴史の出発点となった。

3 小羊 後に、キリストを表わす象徴的表現として用いられるようになった(ヨハネ1・29、黙示録5・6、12、13等)。

5 小羊は傷のないもの レビ記においても、祭壇に献げられる供え物は、傷のないものであることが求められている(1ペテロ1・19参照)。

7 家の入口の二つの柱と、かもし 入り口であり、家の表札がかけられるところ。

8 種入れぬパン パン種を入れたパンは、腐敗しやすいので、長旅にはふさわしくない。これは、後に、心と生活の腐敗や、偽善的な教えを取り除くことの象徴として用いられた(1コリント5・6〜8、マタイ16・5〜12)。

苦菜を添えて 苦難の中で謙ることを教える。

11 腰をひきかき、足にくつをはき、手につえを取って、急いでそれを食べなければならぬ。あわただしい旅立ちの緊迫した様子を表わす。

13 わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すであらう。最後の審判の時においても、同

## 三、種入れぬパンを食べる

また主は、小羊の肉を食べるときに、種入れぬパンも食べるように命じられている。種(イースト菌)のはいったパンは、腐敗しやすいことから、パン種は悪意や邪悪を意味するようになった(1コリント5・8)。悪意をもったままで、小羊の肉を食べてはならない。また、発酵するのを待つことも許されない。ほふられた小羊が罪の贖いを象徴しているのと同様に、種入れぬパンは罪の悔い改めを象徴している。小羊の血は信仰をもって受け入れることが必要であることを表し、種入れぬパンは、一刻も早く罪と決別することが必要であることを表す。信仰と悔い改めは、クリスチャンの出発点であることが、ここからも判る。

## 結論

この日から、イスラエルの新しい暦、新しい歴史が始まった。パロの奴隷から解放され、本当の自由が与えられたからである。クリスチャンの人生にも新しい出発点がある。それは、過去の罪を悔い改め、主イエスが私の身代わりに死んでくださったと信じた時だ。小羊の血をイスラエル人が柱ともいに塗ったように、私たちも主イエスの贖いを高々と掲げよう。さらに、内にあっては、イスラエル人が小羊の肉を△その頭を足と内臓と共に△食べさせたように、私たちも主イエスを完全に受け入れよう。主イエスを人格的に受け入れることが、信仰なのである。

様である。

15 七日の間あなたがたは種入れぬパンを食べなければならぬ。過越の祭りに続く種入れぬパンの祭りの規定。

21 そこでモーセはイスラエルの長老をみな呼び寄せて言った。モーセはイスラエルの長老たちに、主の指示を伝達する。儀式の意味が確認されていることは注目値する(26、27節)。

29 夜中になって 恐るべき最後の災いは、一夜のうちに、エジプト中の家に襲いかかった。

31 パロは言った、「あなたがたはイスラエルの人々は立て、わたしの民の中から出て行くがよい」6・1での主の予告のとおりになる。

37 女と子供を除いて徒歩の男子は約六十万。恐らく、民全体では約200万人。

40 イスラエルの人々がエジプトに住んでいた間は、四百三十年であった。創世記15・13、使徒7・6に見られる4百年という数字は、概数と考えられる。

41 四百三十年の終りとなって、ちょうどその日に 神が定められた時が来たならば、主の御手は動き、道は開かれる。

13・9 これを、手につけて、しるしとし、目の間に置いて記念とし。後にユダヤ人は、申命記6・4〜9等と共に、この聖書の箇所を書いた羊皮紙を箱に入れ、腕と額につけるようになった。神の真の意図は、彼らが神の恵みと大いなるみわざを常に思い起こすところにあった。

聖書 出エジプト12・1～27  
タイトル 主の過越って何？  
中心聖句 わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すであろう。  
出エジプト12・13  
目 標 主の過越が、イエス様を信じ罪を悔い改めるなら、十字架の贖いを受けて、永遠の滅びの刑罰からまぬがれることを表していることを発見する。

#### 導入

神様は、イスラエルの民を救い出すために、エジプトに対して10の災いを送られました。その10番目は、現代のユダヤ人も祝っている過越の祭りの元になったことです。今日は、神様が用意された救いの方法を知り、現代の私たちも、罪と悪魔の支配から、どのようにして救われるのかを発見しましょう。

#### (起) ストーリーを語る

いよいよ10番目の災いが下されようとしています。モーセは、バロに最後の通告をしました。「神様は、エジプトの国にいるすべての初子を、バロの初子から家畜の初子まで、すべて打つとおっしゃいました。しかし、イスラエル人に対しては、何の災いもおきないのです。だから、早くイスラエルの民をエジプトから出して下さい」と。しかし、バロは心をかたくなにして、イスラエルの民

を解放しようとはしませんでした。

10番目の奇跡を起こそうとされた時、神様はまずモーセとアロンに、現在の3月から4月にあたる麦が穂をつける時期を、イスラエルの正月としないとおっしゃいました。それは、イスラエルの人々がこの時期が来ると、エジプトの奴隷から解放された奇跡を思い返し、また子孫にこの祭りの意味を教えて、忘れないためです。

そして次に神様が教えられた救いの方法は、全く傷のない1歳の雄の小羊を殺して、その血を家の2本の門柱とかもいに塗って印を付けるというものでした。そうすると、その家には既に犠牲が払われたので、殺されるべきものはもういないという印になったのです。

そして神様は、小羊を殺した家では、その肉を火で焼いて食べなさいとおっしゃいました。すると、既に払われた犠牲を、家族みんなが受け入れたので、さばきを受けずに済むのです。

さらに神様は、種なしパンと一緒に食べなさいとおっしゃいました。種とは、イースト菌のことです。これは、イースト菌を混ぜると腐りやすくなることから、罪の菌を持ったままではいけないことと、発酵を待つのでなく、一刻も早く罪を悔い改め、罪から離れるべきことを表しています。その夜のことで、主は、バロの初子から家畜の初子まで、エジプトのすべての初子を打たれました。死人のない家は一つもなく、バロや家臣も、エジプト中の人々が起きだして、激しく泣き叫びました。この災いに恐れおののいたバロは、ようやく夜中にモーセとアロンを呼び寄せ、エジプト

を出て行くように命令したのです。

#### (承) 学ぶべき真理

エジプトの奴隷生活が表しているのは、人は、罪と死の奴隷、悪魔と世の奴隷になっているということです。そして、そこから神様が救う方法は、過越と言う、傷のない小羊を犠牲にする方法です。これは、イエス様の十字架の犠牲を表しています。イエス様に罪の身代わりになってもらった人は、滅ぼされないということの表れなのです。

この羊を残さずに、種入れぬパンとともに食べなければいけません。これは、一刻も早く罪を悔い改めて、イエス様を信じ受け入れないと救われないことを表しています。イエス様を信じる人が、十字架の犠牲によって永遠の滅びの刑罰をまぬがれるのです。

主の過越は、人類が救われるために何が必要かを、イスラエルの歴史を通して、現代にいたるまで教えているのです。

#### (転) 生活への適用

さて、皆さんは自分が奴隷になっているなんて、考えもしなかったのではありませんか。しかし、罪を犯さずに、善悪を知る人はありません。全ての人は罪を犯して裁きを受ける罪の奴隷なのです。

#### 結論

ですから、神様が用意して下さった救いを受け取りましょう。早く罪を悔い改め、イエス様を信じ受け入れ、イエス様に罪の身代わりになってもらって、罪と死の奴隷から解放されましょう。

### ワーク A

●暗唱聖句 (5月5日～5月26日)

あなたがたのためになされる救いを見なさい。

(出エジプト14・13)

●導入のヒント

台風のとて、外に出ているとすごい風でふき飛ばされそうになります。でも家の中にあると平気ですね。罪人をさばく神様のみつかいは、家の入り口にぬられた小羊の血を見て、すぎこしていきましました。小羊の血は、イエス様の十字架の血です。イエス様を信じるなら、救われます。

●ワークについて

羊とパンのカードを、家に貼りましょう。カードを貼った家の戸は、赤くふちどって下さい。

### ワーク B

●質問1 過越のストーリーだけでなくイエス様の血潮の恵みをはっきりと伝えましょう。血潮を強調するために、種なしパンについてはワークではふれていません。

●質問2 私たちもみんな、滅びる者であることに気づきます。

●質問3 イエス様の十字架の血潮によって救われていることを確認しましょう。

●讃美歌 「どうしてかわかるかな」

(ふくいんこどもさんびか4番)

●今日のお祈り 「神様、イエス様の血によって私たちを救って下さることを感謝します。」

### ワーク C

●イラストは門柱と鴨居を表している。最後に、この鴨居を赤く塗っても良い。旧約時代の出エジプトの出来事が、2千年前の新約時代の主イエスの十字架を予表していることを、時間をとって話してほしい。1才の傷のない雄の小羊の血が流され、その犠牲の血(命)のゆえに、鴨居に血が塗られていたイスラエルの家の初子は死を免れた。現代の私たちも、主イエスの十字架の血潮によって罪ゆるされ、裁きを免れた。これは、何千年の前から神が計画されていたことを示し、感動を共有しよう。

### ワーク D

●質問1 神様の命令に従わない家の初子が打たれました。過越の細かな内容だけでなく、出来事の中心が理解できているかを確認してください。

●質問2 新約聖書での説明を確認し、十字架をはっきり信じるのが自分にとっての過越であることがわかるように助けてください。

●質問3 教会に来ていることが過越の家の中にいることではありません。十字架の救いを個人的にはっきりと信じていることです。

### 中高校へのヒント

●考えてみよう

1 エジプトに臨んだ第十の災いとはどのようなものでしたか。

2 イスラエルの民が第十の災いを免れることができたのはどうしてですか。神から選ばれた民だからでしょうか。

3 過越の小羊、種入れぬパン、苦菜はそれぞれ何を意味していますか。

4 毎年、イスラエルの民が過越の祭を守るのは、どのような目的からでしょうか。

●自分にあてはめてみよう

1 イスラエルの民がエジプトでバロの奴隷であったように、あなたも何かの奴隷ではないでしょうか。

2 罪の奴隷であるあなたのために、イエス・キリストは何をして下さいましたか。

3 新約の今は、どうすれば罪の奴隷から救われるでしょうか。しかし、その救いを拒むと、どうなるでしょうか。

4 イスラエルの民がエジプトの奴隷からの救いを記念して年の正月としたように、あなたにも明確な救いの記念日がありますか。

●話し合ってみよう

1 過越の祭を守るたびに、イスラエルの民は何を思ったでしょうか。

2 新約の今、過越の祭にあたるものは何でしょうか。また、それは何のために守るのでしょうか。



聖書 出エジプト13・17・14・31  
テーマ イスラエルを守られる主

序論

イスラエルの民は、神の偉大なみわざにより、意気揚々とエジプトから脱出した。しかし、彼らが約束の地であるカナンに着くまでには、多くの困難がある。しかし主は、その困難からも民を守ってくださる。脱出直後から繰り広げられる試練の連続から、主がいかに救い出してくださるかを見よう。朗読の箇所は14・10〜31に限って良い。

一、先祖への約束によって

ヨセフの招きでエジプトに移住したイスラエルの民だったが、ヨセフは、神がこの民を約束の地に連れ戻されることを確信していた。そして、そのときには自分の骨を携え出すように、遺言していたのである(創世記50・24・25)。この遺言の通りに、エジプト脱出にあたり、ハモセはヨセフの遺骸を携えていた。この遺骸は、イスラエルの民に神の約束を、思い出させたことだろう。エジプトは自分たちが永住すべき地ではなく、アブラハム、イサク、ヤコブに約束された地に帰るべきであり、ヨセフをエジプトに導かれた主は、必ず自分たちを守り、約束の地に連れ戻してくださると、信仰深い人々は思ったに違いない。

二、雲の柱と火の柱によって

雲は、聖書の中で神の臨在を象徴する場合によく用いられる。主がモーセと語られた時に、雲の

研究資料

(長田)

今日なされる救い

神からの恐るべき災いにより、エジプトから脱出することができたイスラエルの民であるが、エジプト人による追跡を受ける。後方からは、えり抜きのエジプト軍、前方には海、絶体絶命の状況の中、イスラエルの民はつばやき、叫ぶ。

しかし、そのような状況を許し、導かれたのは、主であった。それは、絶体絶命の状況の中でも救いの手を伸べるのできる、偉大なるご自身を明らかにするためであった(14・31)。

日頃信仰を口にしていても、いざという時に信仰が働かなければ無意味である。かつて歴史の中で働かれた主は、21世紀の今日も、同じく働いて下さる(ハブル13・8)。

テキスト

13・17 ペリシテびとの国の道は近かったが、神は彼らをそれに導かれなかった。民が戦いを見れば悔いてエジプトに帰るであろうと、神は思われたからである。神は、私たちが祝福を受けるための準備ができるまで、遠回りに見える道、荒野の道(18節)に導かれることがある。

18 紅海 直訳は、「葦の海」で、どの海をさすかについては、諸説ある。

19 ヨセフの遺骸 ヨセフが信仰によって語った指示が、数百年の時を経て実行された(創世記50・

柱が下った(33・9)。会見の天幕が完成したとき、雲はそこをおおい、この雲の動きに従って民は行動した(40・34・38)。神殿の奉獻式のときにも雲が満ち(歴代下5・14)、主イエスが変貌されたときも雲がおおった(マタイ17・5)。火もまた同様に、神の臨在を示している。例えば、燃える柴、シナイ山の情景(19・18)、エリヤの戦い(列王上18・38)、ペンテコステ(使徒2・3)など、あちこちに見られる。

また、ハ主は彼らの前に行かれ、昼は雲の柱をもって彼らを導き、夜は火の柱をもって彼らを照らし、昼も夜も彼らを進み行かせられた。これから始まる荒野の旅において、昼は灼熱の太陽から守るために雲が、夜は寒さから守るために火が備えられたとも考えられる。主は、イスラエルの民を導き守られることが、このような目に見えるもので明確に示されたのである。

三、奇跡によって

主がイスラエルを守られることは、紅海の奇跡によって、最も明確に示されている。主は、最短距離の地中海沿岸を通る道のみならず、当時あった三つの交通路のどれにも、民を導かれなかった。さらに、いったん歩み出した道を引き返させ、パロがハ彼らはその地で迷っていると思わせるようにされた。イスラエルの民は、逃げ場がないと思われるハ海のかたわらに宿営したのである。ちょうど奴隷を失ったことを後悔していたパロは、これぞ好機と思って、エジプトの全戦車を率いて、自らイスラエルを追跡した。しかし神は、すべて

25、ハブル11・22。

22 昼は雲の柱、夜は火の柱 イスラエルの旅路の間、常に雲の柱、火の柱が伴った。これは、彼らと共にあった主の臨在が、目に見える形で顕されたものである。それは、イスラエルの進む道を照らし(21節)、彼らを守り(14・19、20)、その旅路を導いた(民数記9・15・23)。

14・2 引き返して…海のかたわらに宿営しなければならぬ 主は、あえて逃げ道のないような場所にイスラエルの民を導かれた。

4 わたしがパロの心をかたくなにするから、パロは彼らのおとを追うであろう イスラエルの民にとっては、予想もしない悪い事態であるが(8、10節)、それは、「エジプトびとにわたしが主であることを知らせる」ため、主があえてなさったことであった。

7 えり抜きの戦車六百 エジプト最高の軍隊があとを追うが、主の偉大さを示す結果に終る。

10 目を上げてエジプトびとが彼らのおとに進んできているのを見て、非常に恐れた その瞬間、神の守りに対する彼らの信仰の目は失われていた。主にむかって叫び、信仰による叫びであるよりは、不信仰の叫び。続くモーセへの訴えの中では、神の救いを守りは全く期待されておらず、死んでしまふことを前提に、不満が述べられている。

13 恐れてはならない 不信仰による恐れを取り除け。

かたくな立って 信仰にかたくな立って。

主がきょう、あなたがたのためになされる救い(イ)

のことを御手に握られていた。

迫ってくるパロの軍勢を見て、イスラエルの民は非常に恐れて、モーセを責めた。しかしモーセは、大胆に宣言する。ハ恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救いを見なさい。主は、アブラハムにも、イサクにも、ヤコブにも、ハ恐れるなと語られた(創世記15・1、26・24、46・3)。モーセは、その同じ言葉で民を励まし、ハ主があなたがたのために戦われるから、あなたがたは黙していなさいと、宣言する。イスラエルとは、「神が戦われる」という意味だったことを思い出そう(創世記32・28)。結局、紅海が2つに分かれ、海の底が乾いた地となって現れ、イスラエルの民はそこを進む。パロに率いられたエジプトの軍団も追いつけて侵入するが、海が元にもどり彼らは滅びるのである。このことは、信じる者に救いがあり、世と罪と悪魔は滅び去ることを表している。主が戦われるのが、救いである。私たちは黙して聖言に従って導かれると、救いを見るのである。主は、いかなる困難な状況からでも、驚くべき奇跡を用いて救ってくださる方だ。

結論

恐れやつばやきや不信仰を起こしてはならない。イスラエルの民は10の奇跡、雲と火の柱による主の臨在を見だすのである。しかしそれでも困難があれば、つまずき、つばやき、反抗する。黙して主が戦われるのを見よ。そこに救いがある。私たちも聖言に従って、主の救いを見る者でありたい。

を見なさい 恐れおののく彼らに対する、神の手ヤレンジ。

14 主があなたがたのために戦われる 主が戦ってくださることを忘れ、自分の無力さのみを見るとき、恐れが来る(歴代下20・15)。

あなたがたは黙していなさい 不信仰は、恐れから来る騒がしさをもちだし、信仰は、平安から来る静けさを与える(イザヤ7・4、30・15)。

15 あなたは、なぜわたしにむかって叫ぶのか 民に対して信仰に立つよう励ますモーセ自身、揺れる心の中から主に叫んだであろう。しかし、主は、モーセのなすべきことを指示し、それを実行することを求められる。モーセがなすべきことをしたとき、主の栄光が表された。

19 イスラエルの部隊の前に行く神の使(イ) イスラエルの民が気づいていなかった御使いの存在。

20 かれとこれと近づくとなく 主は、彼らのために、目に見えないとりでとなられた(詩篇18・2、62・1・8、91・1・10)。

21 主は夜もすがら強い東風をもって海を退かせ 主の偉大な御手が表された瞬間。道なき所に道を作られる神(イザヤ43・19、1コリント10・13)。

25 主が彼らのためにエジプトびとと戦う エジプト人は、海の中の道で、戦車の車輪が動かなくなるに至って、初めて主が戦っておられることに気づくが、もつすでに遅かった。

聖書 出エジプト14・10-13  
タイトル 海が真つ二つ  
中心聖句 主がきよう、あなたがたのために  
なされる救を見なさい。  
出エジプト14・13  
目標 主の救いは、主が世と悪魔と戦っ  
てくださることによってもたらさ  
れることを発見する。

導入

イスラエルの民は、神様に教えられた過越によ  
って、エジプトの奴隷から救われました。しかし、  
パロとエジプトは、決してあきらめず追いかけて  
きます。主は、救われた者を再び奴隷にしようと  
する世と悪魔からも救ってくださいます。

(起) ストーリーを語る

神様は、イスラエルの民を紅海沿いに移動させ  
られました。そこで神様は、風間は焼けつく太陽  
から雲の柱によって陰を作り、夜は砂漠の寒さと  
暗さから、火の柱をもって明るく照らして暖め、  
イスラエルの民を守ってくださいました。このこ  
とで、イスラエルの民は、神様が一緒にいて導い  
てくださっているとはっきり分かったはずで  
す。一方、そのころエジプトでは、パロが、イスラ  
エルの民が荒野でさまよっていると勘違いして、  
彼らを連れ戻そうと計画していました。そして、  
戦車、騎兵、軍勢を整え、パロ自らがエジプトの  
全戦車を率いて、追跡を開始しました。

ワーク A

導入のヒント

もしブルーの水が分かれて道ができたなら、びっ  
くりですね。でも、海の水が分かれたことが本当  
にあったのです。モーセさんが神様にお祈りした  
とき、海が分かれました。そして、イスラエルの  
人々は、泥の道ではなく、乾いた道を歩くことが  
できました。神様は今でも、びっくりする方法で  
私たちを助けて下さいます。うれしいですね。

ワークについて

魚がいる所は水色に、真ん中は茶色に塗って  
ください。はじめは茶色に塗ったところを見えない  
ように折り曲げておきます。イスラエルの人々が  
通る時は道を開き、エジプトの軍隊が通る時はま  
たもとにもどしましょう。

ワーク B

- 質問1 み言葉を思い出して完成させましょう。
- 質問2 神様には何でもできます。奇跡を起こ  
されるだけでなく、心の中も変えて下さる方であ  
ることを知りましょう。
- 質問3 普段の生活の中での出来事を思い巡ら  
し、罪に負けないように神様に頼ることを伝えま  
しょう。罪に負けるなら神様は悲しまれます。
- 讃美歌 「主のちからを」  
(ブレイスワールド25番)
- 今日のお祈り 「神様、こわい時、悪いこと  
をしてしまいそうな時、どんな時もお祈りします。  
私を守り、助けて下さい。」

ワーク C

イスラエルの民は、エジプトの追手が追って  
くるのを見て大変恐れ、パニックになりました。後  
ろにはパロの軍隊、前方には大きな海が広がって  
います。民はモーセに文句を言います。「この荒  
野で死なせるために、エジプトから連れ出したの  
か?」「エジプトの奴隷のままでよかったのに」  
と。そのとき、モーセは民に向かって言いました。  
「恐れてはならない。しっかりと、今日、あな  
たがたのために行われる主の救いを見なさい」、  
「主があなたがたのために戦われるから、あな  
たがたは、黙っていないさい」と。この戦いは、イス  
ラエルの戦いではなく、神様の戦いです。神様  
が、パロやエジプトと戦われるのです。  
その夜は、雲の柱がイスラエルの後ろに移って、  
エジプト軍の目をくらませました。モーセは、神  
様から命じられた通り、手を海の上にのばすと、  
神様は、夜とおし風を吹かせられました。すると、  
なんと海が真つ二つに分かれたではありませんか。  
そして、海の中に乾いた地ができたのです。その  
乾いた地を、イスラエルの民は渡ります。そのとき  
海水は、彼らのために、右と左に壁のようになり  
ました。しかし、パロも戦車も騎兵も、その海の  
中の乾いた地に入って追いかけてきます。  
イスラエル人が海を渡り終えると、モーセは、  
神様から再び命じられ、手を海の上にのばしまし  
た。すると、なんと海が元に戻ってしまうのではあ  
りませんか。途中まで追ってきたエジプトの  
軍隊は、波にのまれて全滅してしまいました。  
こうして、イスラエルの民は、神様を恐れ、神  
様とモーセを信じたのです。

ワーク D

- この出エジプトの出来事は、神の全知全能の力  
だけによっている。先週の過越もそうだが、この  
紅海の水を分けて主が海を渡らせ、圧倒的なエジ  
プトの軍隊の猛追から逃れさせてくださったこと  
は、とても人間の力ではできない。人間が何かを  
するといふ余地を残していない。パロは多くの奇  
跡を見ても、エジプトの初子が死ぬまではイスラ  
エルを手放さなかった。手放した後も、それを後  
悔して、もう一度奴隷にしようと全力で追いか  
けてきた。救われた者に対してサタンはそのよう  
に追いかけ、からみついてくることを思い、自力  
を捨て神にゆだねることを確認しよう。
- 質問1 民は、自分たちが望んで脱出したにも  
かかわらず、エジプト軍の接近で恐ろしくなり、  
危機の責任をモーセに転嫁します。彼らの心の動  
きを、自分のこととして考えられるようにして下  
さい。主はつぶやかないで、信じることを求めら  
れます。
- 質問2 海の中に道ができましたが、安全を疑  
った人がいたかもしれません。渡り終え、エジプ  
ト軍の滅びを見た時、民は主を信じました。
- 質問3 信じていても不安になる事件が起きる  
と、すぐに信仰が揺らいでしまうという現実があ  
ります。主を信頼することを一緒に考えてみま  
しょう。

(承) 学ぶべき真理

私たちも罪を悔い改め、イエス様を信じて、罪  
と死から救われたら、それであとは何の問題もな  
いわけではありません。困難なことは起きますし、  
悪魔と世はあきらめずに、追いかけてきます。そ  
う、このパロとエジプトが表しているのは、悪魔  
と世なのです。そして悪魔と世は、救われた者を、  
再び罪を犯して神に裁かれる者にしようと、誘惑  
します。でも主の救いは、救われた者を再び奴隷  
にしようとする世と悪魔からも救うのです。

勝利の秘訣は、神様にゆだねて、神様に戦って  
いただくことです。いくら自分でシタバタしても  
勝てる相手ではありません。パニックをおこした  
り、つぶやいたり、文句を言ったりしてもいけま  
せん。神様は決して見捨てない方です。共にいて、  
勝利させて下さる方です。私たちは、神様を信じ  
て、ゆだねて、まかせて、神様に戦っていただく  
と勝利するのです。

(転) 生活への適用

皆さんも、教会に行っていないと、神様を信じて  
いても、悪いことに誘われることはありますし、  
困難に合うこともあります。そんな時どうしま  
すか。つぶやきますか。文句を言いますか。

結論

そんな時こそ祈りましょう。神様は決して見捨  
てず、必ず共にいて、神様が戦って勝利させて下  
さるのです。私たちは祈って、神様の導きどおり  
に歩んで、主の救いを見ましょう。

中高校へのヒント

●考えてみよう

- 1 主がイスラエルの民を遠回りの道に導かれた  
り、引き返らせて海のかたわらで宿営させられ  
たりしたのはなぜでしょうか。
- 2 イスラエルの民を導く雲の柱、火の柱は、何  
を象徴していますか。
- 3 迫りくるエジプト軍を目撃したとき、イスラ  
エルの民はどうしましたか。それに対して、モ  
ーセはどうしましたか。
- 4 イスラエルの民はどのようにしてエジプト軍  
の追跡から逃れることができましたか。
- 自分にあてはめてみよう
- 1 エジプトを脱出したイスラエルの民が直面し  
た危機とそこからの救出は、あなたの信仰生活  
にとつてどのような意味があるでしょうか。
- 2 あなたが試練や困難に直面したとき、どうし  
ましたか。また、どうするのがよいでしょうか。
- 3 遠回りと思えるような道(病いやけが、挫折  
等)に導かれたり、主に導かれた道と確信して  
進んだのに、思いがけない試練や困難に直面し  
たりしたことがありますか。その道は本当に  
遠回りで、マイナスだったでしょうか。
- 話し合ってみよう
- 1 主の導きはどのようなものでしょうか。
- 2 遠回りと思えるような道に導かれて得た恵み  
や、試練や困難の中で主の助けを得た経験があ  
れば、分かち合いましょう。



聖書 出エジプト15・22・16・36  
テーマ 荒野での試み

## 序論

紅海で驚くべき奇跡を経験したイスラエルの民は、約束の地への旅を順調に始めたかに見えた。しかし実際は、試練の連続だったのである。なぜそんなことになったのか、共に学んでみよう。朗読箇所は、16・1・12にしても良い。

## 一、メウでの試み

紅海から南東に向かって進んだ民は、シユルの荒野に入った。三日間歩いて一つの泉もなかったのだが、やっと水を発見した。しかし、その水は苦くて飲むことができなかった(メウとはヘブル語で「苦い」という意味である)。すると民は、だっだ三日で、あの大きな奇跡をなされた神の恵みを忘れ、へわだしたちは何を飲むのですか、とつぶやくのだった。民のつぶやきを聞いたモーセは、主に祈り、主から示された木を水に投げ入れた。すると水は甘くなり、飲めるようになった。主の言葉に従う時に、奇跡がおきるのである。主は、へもし、あなたがあなたの神、主の声に確かに聞き従い、主が正しいと見られることを行ない、またその命令に耳を傾け、そのおきてをことごとく守るなら、わたしはエジプトに下したような病気を何一つあなたの上に下さない。わたしは主、あなたをいやす者である(新改訳)と、おっしゃった。主は、民が主の言葉に従うかどうかを試み、主の言葉に従う者によつたとされたのである。

## 研究資料

(長田)

## 荒野の旅

イスラエルの民は、偉大な神のみわざにより、エジプト脱出に成功した。しかし、その後、彼ら待っていたのは、荒野の中を進む旅であった。そこには、神のどのような御心があつたのだろうか。40年間の荒野での生活を振り返りつつ、モーセが語った言葉(申命記8章)からまとめる。

①試み(2節)「あなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、」試練の中に置かれたとき、人の心の内側が明らかにされる。

②教え(3節)「人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによつて生きること、をあなたに知らせるため、」欠乏、試練の中で、人間に必要な不可欠なものが明らかにされる。

③訓練(5節)「主もあなたを訓練されることを心にとめなければならぬ。人は、試練の中で練られるとき、信仰、従順、品性が試され、訓練され、純粋なものとなる(ヘブル12・5・11)。

④祝福への備え(7・10節、16節)神は、これらのすべてを通して、欠けるところのない祝福に導いて下さる。

⑤主を覚える(11・20節)「忘れることのないように(11節)」「覚えなければならぬ(18節)」。人間にとつての究極の祝福は、神を覚え、神を主とし、神と共に歩むことである。私たちに對する神の最終的な目的はここにある。

## 二、シンの荒野での試み

エジプトを脱出してちょうど一ヶ月後、イスラエルの民はシンの荒野に着いた。この時も、彼らはモーセとアロンにつぶやいた。今度は、肉を食べたい、パンを食べたい、飢餓で死ぬよりエジプトの地で死ぬほうが良かったと言っているのである。モーセは彼らに厳しく言い渡す。へあなたがたのつぶやくのは、われわれにむかってでなく、主にむかつてである。主は紅海の水を分け、苦い水を飲めるようにされた方である。だから肉やパンに不足しても、心配しないであらう。それなのにつぶやくのは、主を信頼していないからである。

そして主は、その日の夕方にうずらの大群を飛んでこさせ、次の日の朝には「マナ」を降らせられた。どちらも、自然現象としても説明できるが、それがちょうどこの時に、しかも男だけで60万人(12・37)もいたイスラエルの民すべてに与えられたのは、全能の主のみわざであることに違いない。そして、多く集めた者も余ることなく、少なく集めた者も足りないことがなかった。神様の恵みは、一人一人に十分なのだ。そして、これは、へ人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによつて生きること、をわからせるためであった(申命記8・3)。

ここでへ主であることを知るであらう、という句が、6節と12節に二度繰り返されていることに注意したい。主は、これらの奇跡を通して、ご自身こそ主であることを民に知らせようとしたのだ。困難は、彼らの本心を暴露する。しかし、そんな彼らに、この方こそ我らの主であると、へ心

## テキスト

15・22 シユルの荒野 シナイ半島北西部の荒野。イスラエルの民は、この荒野で、まず水の欠乏に直面する。

23 メウ 「苦い」という意味。

25 モーセは主に叫んだ 民のつぶやきを聞くと、モーセは常に主のもとに行つて窮状を訴える(5・22、14・15、17・4、民数記11・11)。

主は彼に一本の木を示された 中世の注者は、ここに十字架の型を見出す。苦々しさに満ちた人生も、その中に十字架が立つと、甘くかわしい人生に変えられる。

彼らを試みて おきてを与え、その遵守を条件に、病からの守りを約束された主は、彼らの従順を試される。

27 水の泉十二と、なつめやしの木七十本 試練の後に備えられた喜び。

16・1 エジプトの地を出て二か月目の十五日 エジプトを出たのが、第一の月の十五日であるので、出発してちょうど一か月後。

シンの荒野 場所は諸説あり。ここでのイスラエルのつぶやきは、食料の不足の問題であった。

3 あなたがたは、餓死させようとしている エジプト軍が追つて来た時と同様、再び死を前提とした不信仰のつぶやき(14・11、12)。

4 天からパンを降らせよう 神は常に民の必要に應えられる。飢え渴く者に対して、主は今も、日毎の糧を与えると共に(マタイ6・11)、聖言の

に据え(申命記8・18新改訳)させるために、試練は与えられたのである。

## 三、民に対する試み

民は40年間にわたつて、荒野を旅することになる。その期間の終わり頃、モーセは民にこう語っている。へあなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたすべての道を覚えなければならぬ。それはあなたが苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった(申命記8・2)。主は、民を試みるために荒野に導かれ、様々な苦難を通して、彼らが本当に主に信頼するように成長させようとしたのである。主イエスも、荒野で試みられたことを思い出す。神を信じていても試みはある。しかし、それは神が見捨てられたからでも、神がいらいしやらないからでもない。私たちが、神を人生の主とするために与えられたチャンスなのである。

## 結論

民数記14・22では、民は十度も主を試みたことと記されている。ほとんどのイスラエルの民が主を信じなかったため、カナンの地に入れなかった。神の救いとは、罪から、悪魔から、世から救われることであるとともに、神を人生の主とすることである。自分の思い、願い、考えを超えて、主の言葉に従っていくことによって、神の祝福を得いく人生に入ることが、救いなのである。

パンを与え(マタイ4・4)、また、命のパンである御子をお与え下さる(ヨハネ6・32・35、48・51)。

日々分を日ごとに 神の恵みは、食いだめがきかない。主は日毎に私たちの信仰を求められる。

5 六日目には 安息日に関わる約束(26節)。

恵みの中にも、主の試みがある。

6、7 夕暮れには主であることを知るであらう。朝には主の栄光を見るであらう。夕暮れのうずら、朝のパン(マナ)を通して、神はご自身の栄光を表わされる(16・8、12、13)。

7 つぶやくのを聞かれたから 8、9、12節でも繰り返される。不信仰のつぶやきに対して、主は栄光あるみわざをもつて応えられる。

18 多く集めた者にも余らず、少なく集めた者にも不足しなかった 神の恵みは、すべての人に過不足なく与えられる。

20 ある者は朝までそれを残しておいた 次の日の労を厭つてのことであらうか。モーセの指示への背きである。残されたものは、翌日虫がつき、臭くなった。

27 民のうちには、七日目に出て集めようとした者があつた 安息日に對する主のご配慮を無視した行動。主に背いての労働は無益に終る。

31 マナ 「何」を意味する言葉(16・15)。ぎょうりゅうの木と呼ばれる樹木の樹液と見る説、マナ虫と呼ばれる虫の分泌物と見る説などもあるが、その与えられ方には、超自然的な要素が多い。いずれにしても、主の奇跡のみわざ。

聖書 出エジプト16・1-12  
タイトル エジプトが恋しい！  
中心聖句 こうして彼らがわたしの律法に従うかどうかを試みよう。  
目 標 主の救いは、神様を人生のあらゆる場面で主とすることであることを発見する。

導入  
紅海を渡ったイスラエルの民は、神様に導かれて、再び旅をはじめました。しかし、彼らは大きな奇跡をいくつも見た直後なのに、困難なことがあるとすぐにつぶやきだしたのです。

(起) ストーリーを語る

紅海を渡って3日間、イスラエルの民はまったく水を見つけたせませんでした。3日目に、彼らはやっと探し当てて喜んだのですが、その水は苦く、とても飲める代物ではありませんでした。そのため、彼らは「わたしたちは何を飲むのか」とつぶやき始めました。そこでモーセは、神様に教えられた木を、その水の中に投げ入れました。すると水が甘くなり、飲めるようになったのです。イスラエルの民は、これまでエジプトで起こされた10の奇跡を体験し、ほんの3日前には海が二つに分かれる奇跡によってエジプトの軍隊から救われて、神様の偉大さを身をもって知ったはずでした。しかし、少しの苦しみや我慢しないといけ

ないことがあると、すぐつぶやいたのです。そこで神様は、「あなた方がわたしの声に従うなら、エジプトびとに下した病気を下さない。わたしは主であってあなたをいやす者です」と約束されました。神様は、イスラエルの民が約束を守り、神様の声に従うか、試みておられたのです。

イスラエルの民は、エジプトを脱出して一か月後に、シンの荒野に到着しました。ここでもまた彼らは、モーセとアロンに向かって文句を言い始めました。今度は食べ物のことです。「エジプトで食べていた肉やパンが食べたい。空腹で死ぬくらいなら、エジプトの奴隷だった方がよかった」とまで言うのです。ついこの前まで、奴隷の苦しみ

が耐えられずに叫んでいた民とは思えません。そこでモーセは、神様に教えられたとおり彼らに向かつて言いました。「あなたは、私に対してではなく、神様に対してつぶやいているのです。でもあなたがたは、夕方には神様が主であることを知ることになります。神様は彼らの声に応えられました。夕方になると、民はモーセを責め立てた。次に似た薄い煎餅のような物が降ってきました。神様は、朝、その日の自分の分のマナを集めるようにおっしゃいました。そしてこのマナは、荒野を旅した40年間、毎日降りつづけました。それは、多く集めた人も余ることなく、少なく集めた人も足りないことはありませんでした。このことは、人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きることを見せています。ここでも神様は、イスラエルの民が約束を

守って、神様に従うかどうかを試みておられるのです。

(承) 学ぶべき真理  
荒野の旅は、この後40年続き、そこでイスラエルの民は試みにあいます。それは、彼らが神様の声に従うかどうかを見、神様を人生のどのような場面でも主とすることを学ばせるためでした。

(転) 生活への適用

皆さんは、先週、このおかずは嫌いだとか、おやつが少ないと、つぶやきませんでしたか。自分の思いどおりでないことはたくさんあります。あなたは、自分の願いや思いと、神様がとおっしゃることが異なったとき、どうしますか。神様に従うか、それとも自分の思ったようにするか。神様の聖言に反して自分の思ったとおりになると、せっかくの神様の祝福を受け取れません。神様の言われることと自分の思いが異なったとき、神様の聖言に従うことが、神様を主とすることなのです。

結論

神様の救いは、罪と死からの救い、悪魔と世からの救いとともに、人生のどのような場面でも、神様を主とすることによって、神様の祝福をしっかりと受け取ることにあります。皆さんにも、がまんしないといけないこと、つらいことが起きます。そんな時に神などいないと思ってしまうかもしれません。神様は主であること知らせようとしておられるのです。そんな時こそ、神様の声を聞いて従い、神様の祝福をしっかりと受け取りましょう。

中高校へのヒント

●考えてみよう

- 1 メラで飲み水がなかったとき、イスラエルの民はどうしましたか。それに対して、モーセはどうしましたか。
- 2 メラを通過すると、どのようなところに着きましたか。
- 3 シンの荒野で、主はどのような奇跡を行われましたか。また、その目的は何でしょうか。
- 4 イスラエルの民は荒野で何度もつぶやきましたが、そのつぶやきの本当の原因はどこにありましたか。

●自分にあてはめてみよう

- 1 あなたは最近どのようなことでつぶやきましたか。そのつぶやきの本当の原因はどこにあったでしょうか。
  - 2 試練がないことや、すべて自分の思いどおりになることが本当に幸いでしょうか。
  - 3 主が言われることと自分の思いとが異なる場合、あなたはどっしますか。また、どうするのがよいでしょうか。
- 話し合ってみよう
- 1 主が私たちに試練をお与えになるのは何のためでしょうか。
  - 2 試練にあったとき、どのような態度をとればよいでしょうか。
  - 3 信仰によって試練を乗り越え、祝福を得た経験があれば、分かち合ひましょう。

ワーク A

●導入のヒント

お出かけしたとき、「ジュースが飲みたいよ」、「おながへったよ」なんて泣いたことはありませんか。イスラエルの人々も、神様を信じないで、文句ばかり言っていました。でもそんな人々に、神様は不思議なことをして、ご自分が生きておられることを示して下さいました。私たちは、神様のお心を悲しませたくないですね。いつも神様を信じていきましょう。

●ワークについて

上の池は、苦い水です。茶色の色紙をはってください。下の池は、甘い水です。ピンクの色紙をはりましょう。

ワーク B

- 質問1 神様のことは間違いは決してありません。また、神様のことは力があるのです。
- 質問2 人間の力ではどうしようもない時、神様の力を知り、信じるものへと変えられます。
- 質問3 神様がわざわざ試練を与えられたのは、その時だけでなく、どんな時も、神様を信じ従う者になって欲しいからです。
- 讃美歌 「みことはきいて」
- (ふくいんこどもさんびか39番)
- 今日のお祈り 「神様、苦しみを通して、神様を信じることを教えて下さり感謝します。どんな時も、みこばに従えるようにして下さい。」

ワーク C

●かつて、エジプトでの労苦から逃れるためにイスラエルの民は祈った。民の祈りは聞かれ、神はモーセを立ててエジプトから脱出させてくださった。しかし、エジプト軍が背後に迫り、目の前には紅海が迫ってくる。民はモーセを責め立てた。また、その後も荒野の生活が苦しくてつらいと神とモーセにつぶやいた。モーセの荒野での訓練も40年だったし、イスラエルの民も荒野の40年を過ごした。人間の内側にある肉のしぶとさ、サタンの執拗さのゆえに、人間の救いがその人の内側に根付くために、試練と困難は避けて通れない。キリスト教信仰は「救い＝ラクチン」という短絡的な利益宗教ではないのである。

ワーク D

- 質問1 食べ物、毎日生きていくためにどうしても必要です。すぐに責任転嫁するのはよくないですが、問題の解決を神様の前に持ち出すことは大切です。疑いなくなる不安が、神様に目を向け、信じるためのチャンスにもなります。
- 質問2 日ごとの糧を毎日集めることは、いつも神様の約束によって生かされていると確認することになります。
- 質問3 困難を神様に向かうためのチャンスにできるように。



聖書 出エジプト19・1～20・17  
テーマ 十戒の意義

## 序論

イスラエルの民は、主から奇跡的に水・肉・パンを与えられ、荒野の旅を続けた。そして、エジプト脱出から1ヵ月半の後、モーセが主の声を聞いたシナイの荒野に入った。ここで主は、イスラエルの全会衆に、十戒を与えられたのである。聖書朗読は20・1～17だけでも良いだろう。

## 一、聖なる民となるために

主はすでにアブラハムに対し、あなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう（創世記12・2）と約束されていた。その恵みの契約を具体化するのが、十戒である。主は、あなたにのべた声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、……わたしの宝となる（申命記28・10）と約束された。さらに祭司の国、聖なる民となることも約束された。アブラハムへの祝福は、イスラエルが十戒に従って聖なる民となるなら、他の国民にも及んでいく。そして大地のすべてのゆかりは、あなたによって祝福される（創世記12・3）のだ。だから、イスラエルが聖なる民となることは、全世界に神の祝福が広がるために、どうしても必要だった。しかし、後の歴史が示す通り、彼らは十戒を守れなかった。それは、人は戒めによって機会を捕え、……あらゆるむさぼり起させた（ローマ7・8）からだ。だが、そのことに気づいた人は、罪からの救いを求めるように

## 研究資料

(長田)

## 聖霊と律法

初代教会に聖霊が降った日は、ユダヤ人の五旬節の日であったが、この日は、ユダヤ教において、律法授け記念日でもあると考えられていた（19・1解説参照、詳細は『新聖書注解』等）。

シナイ山で神が十戒を与えられた時、火と煙が立ち込めた。その情景を見たイスラエルの民は、恐れおののいた。今も、神の言葉が、主の臨在を示す火の中から語られるとき、人々は心探られ、罪が明らかにされ、悔い改めに導かれる。聖霊は、罪を明らかにする（ヨハネ16・8）。神は、実に焼き尽くす火である（ヘブル12・29）。

同時に、聖霊の火は、明らかにされた罪を、赦し、きよめる火でもある（イザヤ67、使徒15・8、9）。律法によってはなしとげられない事を、神は聖霊によって完成させて下さる（ローマ8・3、4）。私たちは、血潮と御霊の恵みの中で、平安に満ちた天の御国（シオンの山）へと導かれるのである（ヘブル12・18～24）。

## テキスト

19・4 驚の翼に載せてわたしの所にこさせた神は、驚の翼のような力強いみ腕によって、イスラエルの民を、エジプトから救い出された。

5 宝 申命記7・6参照。

契約を守るならば シナイ山で結ばれたゆえ、シ

なる。そして、律法はキリストに連れて行く養育掛（ガラ3・24）の役目を果たしたのである。

主は、御自分がきよいお方であるゆえ、民をきよめるように、また民がシナイ山に登らないように、モーセに命じられた。シナイ山は、神の臨在の象徴である雲と火によって包まれた。一度は山に登ったモーセに、再び下って民を戒めるように厳命されたのも、主の絶対的なきよさを、明確に民に教えるためにほかならない。

## 二、十戒前半―対神関係の戒め―

シナイ山でモーセに与えられた十戒の前半の4戒は、神との関係を正しく保つためのものである。8月から詳しく学ぶので、ここでは前半に共通する重要な要素だけを取り上げよう。

主は最初に、あなたにあなた自身の神、主であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である（と仰せられた。これを信じるならば、①この方以外のものを神とするはずはなく、②刻んだ像を拝するはずがない。また、③こんな偉大なお方の名を軽々しく唱えることもないし、④週に一度は仕事をやめてこの方を礼拝するものも当然だ。申命記5・15では、主が強い手で奴隷だった自分たちを導き出されたからこそ、しもべやはしために休みを与えるべきことが命じられている。自分を愛してくださった主を、自分も愛するなら、全ては無理なくできる戒めである。

## 三、十戒後半―対人関係の戒め―

後半の6つは、神にかたどって創造された人間、ナイ契約とも呼ばれるこの契約は、律法の遵守を条件に、神がイスラエルの民を自分の特別な民とするためのものであった。

6 祭司の国となり、聖なる民となる 新約における神の民も、同様の召しと評価を頂いている（1ペテロ2・9、黙示録1・6、テトス1・14）。

11 三日目 ユダヤ人の伝承では、この日を第三の月の6日に当たると解釈（19・1参照）、エジプトを出て50日後と考えられた。

18 主が火のなかであって、その上に下られたからである。…全山はげしく震えた 旧約における聖霊降臨日（使徒2・1～4）。

20・2 あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である イスラエルの民を自分の民として救い出し、召されたお方は、主である。そのお方が、今、律法を与え、民との契約を結ぼうとしておられる。

3 なにもをも 唯一まことの神のみを神とせよとの第一戒に、例外は認められない。この戒めは、人としての生き方の根本を規定する。

4 刻んだ像を造ってはならない 偶像の作製を禁ずる。

どんな形をも まことの神は霊であるから、礼拝の対象となるような形あるものを造ってはならない（申命記4・15～18）。

5 それにひれ伏してはならない 偶像を礼拝することを禁ずる。

それに仕えてはならない 偶像への奉仕（偶像への供え物の世話や手入れなど）を禁ずる。

の人格（霊）の尊厳を覚えて愛する戒めである。

⑤両親は、自分を誕生させ、成長させるために神が備えてくださったのだから、敬うのが当然であり、⑥神のかたちに造られた人間を自分勝手に殺すことはできない。⑦神が一体とされた夫婦関係だから、それを壊してはならないし、⑧人が所有する物は神が与えたものだから、盗んではならない。⑨神は全てをこ存じなのだから、偽証するのはおかしいし、⑩神が必要なものを与えてくださるから、むさぼる必要もない。これらの戒めを守るなら、自分だけでなく、他人も幸福になる。神の祝福が、自分にも他人にも及ぶのである。これこそ、「聖なる民」にふさわしい生き方である。

## 結論

律法を子どもに教えたなら律法主義的な子どもになるから、律法を教えないというのは、大間違いである。主が見て良いとし、正しいとされる事を行うならば、あなたにも後の子孫にも、長くさいわいがあるであろう（申命記12・28）と、聖書は律法を教えることの意義を示している。ただ間違っではないのは、律法を守ったから救われるという考え方である。律法は救いに導く養育掛であり、罪の自覚を与えるものである。律法によって罪を自覚し、福音に触れて悔い改め、主イエスを信じて十字架の贖いを受け、人は救われるのである。そのために、律法を教えよう。少年期に、何が罪であるかを明確に知って悔い改め、信仰によって聖霊と共に歩んで、きよくされることを子どもたちにも知らせたい。

ねたむ神 神は、私たちにに対して、競争相手を許さない特別な愛を求められる（1コリント10・22、ヤコブ4・5）。

父の罪を子に報いて、三、四代に及ぼし この罪は、本人のみならず、その家庭にも影響を及ぼす。

6 恵みを施して、千代に至る この戒めを守ることは、永遠的な祝福をもたらす。

7 主の名を、みだりに唱えてはならない 神の名を口にする時に、不敬虔な態度をもって口にしてはならない。

8 安息日を覚えて、これを聖とせよ 安息日を他の日とは区別された特別の日とせよ。

11 主は七日目に休まれたから 安息日の戒めは、神ご自身の6日間の天地創造と、7日目の休みに基づく（創世記2・1～3）。

12 あなたと父と母を敬え 神が与えられた両親であるがゆえに（エペソ6・2）。

13 殺してはならない 神が、人を神のかたちに造られたゆえに（創世記9・6）。

14 姦淫してはならない 性は、結婚の枠の中でのみ用いられるようにと、神から与えられた賜物であるゆえに。

15 盗んではならない 神は人の所有を認めておられるゆえに。

16 偽証してはならない 神は真実を求められるゆえに。

17 むさぼってはならない 神が与えられたもので満足しないことは、罪の根である（1テモテ6・10）。

聖書 出エジプト20・1-17  
タイトル 神様の宝物になるう  
中心聖句 もしあなたがたが、まことにわたしの声に従ひ、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。出エジプト19・5  
目標 十戒は、神様の祝福を受け取り、それをあふれ流れさせるために与えられたことを発見する。

導入  
今日は、神様がイスラエルの民に教えられた十戒という10の戒めのことを学びます。人が神様と仲良くし、他人と仲良くしてゆくのにどうしても必要なルールを、神様は教えて下さったのです。

#### (起) ストーリーを語る

イスラエルの民はシナイ山のふもと、の荒野にやってきました。そこで神様は、モーセをシナイ山に呼んで、これからは、神様の声に従ひ、約束を守って、全ての国と国民の中で、神様の宝になり、祭司の国、聖なる国民とならなければならぬと語られました。宝とは、神様の祝福を受け取って高い価値があること、祭司の国とは、他の国民を神様にとりなすこと、聖なる国民とは、神様の祝福を他の国民に与える御用をすることです。その日、シナイ山は雷と稲妻と火と煙で、全山煙っていました。雲と火は、神様がそこにおられることを示していました。

#### ワーク A

##### 導入のヒント

赤信号の時に道をわたったら、自動車にひかれて死んでしまいますね。「赤信号でわたってはいけません」というのは、私たちを守るためのきまりです。神様は、私たちを愛して、私たちがみんな一緒に楽しく暮らせるように、10のきまりを与えて下さいました。そのきまりを守るなら、みんな幸せに生活できます。それだけでなく、私たちが神様の宝物にもなるのです。

##### ワークについて

十戒の一つ一つに色を塗りましょう。違った色で塗り分けてもいいでしょう。その後、切り抜いて、紙皿にはってください。ひもをつけて壁掛けにすることもできます。

#### ワーク B

- 質問1 10の戒めは、人を神様の宝物にするために与えられたものであることを、きちんと話してあげて下さい。
- 質問2 神様は、神様の声に従ひ、神と人とを愛する人を宝物として下さいます。
- 質問3・4 私は(ほくは)神様の宝物になれるかどうか考えてみましょう。
- 讃美歌 「せいしよはとつとい神のみことば」(ぶくいんこどもさんびか50番)
- 今日のお祈り 「神様、いつも神様の宝物でいられるように、イエス様を信じ、みことばを守れる子でいて下さい。」

#### ワーク C

●モーセの十戒は、世界中の法律の元になっている。律法の基礎も、このモーセの十戒。それは、きよく正しいもので、我々に行き着くべき目標を指し示すが、そこへ行く力を与えてはくれない。律法は、キリストの十字架の福音のところに人間を連れて行く養育掛であると聖書は言う。この課とワークでは、モーセの十戒(律法)は人間には守れないものであるから、キリストの十字架に行くのだという点には言及せず(一部、説教例で触れられているが、神が人間を幸せにするために神の宝物にするために) お与えになった基準であることを学ぶ。

●モーセの十戒は、世界中の法律の元になっている。律法の基礎も、このモーセの十戒。それは、きよく正しいもので、我々に行き着くべき目標を指し示すが、そこへ行く力を与えてはくれない。律法は、キリストの十字架の福音のところに人間を連れて行く養育掛であると聖書は言う。この課とワークでは、モーセの十戒(律法)は人間には守れないものであるから、キリストの十字架に行くのだという点には言及せず(一部、説教例で触れられているが、神が人間を幸せにするために神の宝物にするために) お与えになった基準であることを学ぶ。

#### 中高校へのコメント

##### 考えてみよう

- 1 主は、イスラエルの民がどのような存在となるよう期待されておりましたか。また、それは何のためでしょうか。
- 2 十戒を二つに分けてみましょう。それぞれを要約すると、どうなりますか。
- 3 イスラエルの民は十戒を守り、主のご期待に應えることができましたか。
- 自分にあてはめてみよう
- 1 あなたが教会に導かれたのは、何のためでしょうか。あなたがどのような生き方をすることを主は望んでおられるでしょうか。
- 2 あなたはこれまで十戒を完全に守ってききましたか。また、これから完全に守ることができそうですか。
- 3 十戒を完全に守れない人間のために、神は何をして下さいましたか。
- 話し合ってみよう
- 1 どうして主はイスラエルの民に十戒を与えられたのでしょうか。
- 2 新約の今、十戒にはどのような意義があるのでしょうか。
- 3 十戒によって罪を示され、悔い改めに導かれた経験があれば、分かち合ひましょう。
- 4 あなたが十戒を実践していく上で、難しさを覚えることは何ですか。どうしたら実践できるようなのでしょうか。

#### (承) 学ぶべき真理

人が、神様の祝福をちゃんと受け取る神の宝となるためには、神様との関係が正しくなければなりません。神様と正しい関係をもち、神様を愛する人になるために、十戒は与えられたのです。また人が、神様の祝福を他の国の人々にまで与える務めをはたす祭司の国、聖なる国民になるには、人と人の関係が正しくなければなりません。人と人の関係を正しくもち、隣人を愛する人になるために、十戒は与えられたのです。

#### (転) 生活への適用

あなたは、神様を難しいことを命令してそれを守るかどうか天で監視している、イジワルサイサンだと思っていないせんか。神様は、あなたが神様の祝福であふれ、その祝福が人々に流れ出るような、神と人を愛する者になってほしいのです。

#### 結論

今の時代は十戒を守るという方法ではなく、イエス様を信じて心にお迎えするという方法が与えられています。イエス様が心に住んでいる人は、その霊の成長に従って、神と人を愛する者になるのです。今の時代の十戒の役目は、罪を自覚させ、悔い改めに導く養育掛です。しかし、十戒の目的は昔も今も、神と人を愛する者になることに変わりはありません。皆さんも、十戒によって罪を自覚し、イエス様を信じて罪を赦され、神と人を愛する者になりましょう。



聖書 出エジプト32・1～33・23  
テーマ 破れ口に立つて

## 序論

モーセが十戒を民に語ったとき、民は、**「わたしたちは主の仰せられた言葉を皆、行います」と**約束した(24・3)。その後、再びモーセはシナイ山に登り、そこで幕屋に関する定めを教えられていた。しかし、その期間が40日40夜続いたために、山麓にいた民は、**「あのモーセはどうなったのか、わからない」と**言い出す。そして、早くも十戒を破り、アロンに偶像の神を造らせた。今週はこの時にモーセがしたとりなしの祈りについて学ぶ。朗読箇所は、33・12～23に限ってもよい。

## 一、神の怒りをなだめる祈り

偉大な指導者モーセが不在で、気弱になった民は、目に見える偶像を造った。アロンは、民の求めに応じて、**「あすは主の祭である」と**、真の神である主と、金の子牛を同一視する始末だった。民もアロンも、明らかに十戒の第一戒と第二戒に背いている。主は、まだ山上にいたモーセに向かって**「わたしの怒りは彼らにむかって燃え、彼らを滅ぼすつくすであらう」と**おっしゃった。

その時モーセは、3つの理由をあげて、主の怒りをなだめようとした。第一に、偉大な御業でエジプトから導き出したイスラエルの民は**「あなた」**の民であること。第二に、エジプト人が主が**「あ」**の意をもって彼らを導き出し、**「わたし」**を侮るようになること。第三に、アブラハムが父祖への誓い

## 研究資料

(長田)

## とりなしの働き

「すべての人のために：願いと、祈と、とりなしと、感謝とをささげなさい」(1テモテ2・1)。「すべての聖徒のために祈りつづけなさい」(エペソ6・18)。

「とりなし」とは、英語の「intercede」の語源が示すように、「間に進む、入る」という根本的な意味がある。二つのものの中に入って、二つのものの間に、一致と平和をもたらす働きが、とりなしである。

すべてのクリスチャンは、「平和をつくり出す人」(マタイ5・9)として、とりなしの働きに召されていると言えるが、特に、神と人との間の和解と一致が進むためのとりなし(IIコリント5・18、20)、また、祈りにおいてのとりなし(1テモテ2・1)に召されていると言える。

モーセのとりなしの働きを見るとき、この働きに必要なものが示されてくる。

第一に、人々に対する愛である。神は、罪を犯したイスラエルの民を滅ぼすかわりに、モーセを大いなる国民とすることを提案された。モーセの命がけのとりなしは、そこから始まった。自分のことだけを考える人なら、これは理解できない。

第二に、神の御心を知り、御心と一つになっていることである。「人がその友と語るように、主はモーセと顔を合わせて語られた」(33・11)。モー

セが果たされなくなるのである。

詩篇の作者は、このことを**「主の御心におこたえられたモーセは破れ口で主のみに立ち、み怒りを引きかえして、滅びを免れさせた」と**記す(106・23)。怒っておられる神の前に立つて祈ることは、簡単ではない。これこそ、真のとりなしの祈りだろう。主は下そうとされた災いを思い直された。

## 二、自分を身代わりにする祈り

山から下ったモーセは、子牛の周りで踊る民を見て、怒りのあまり神の言葉が記された二枚の石板を投げつけて砕いてしまった。そして、言い訳をするアロンを頼まず、**「主につく者はわたしのもとにきなさい」と**民に悔い改めを呼び掛けた。彼の属する部族であるレビ人がそれに応え、彼らは悔い改めな者たちを殺した。悔い改めな者は、必ず裁かれなければならないのである。

しかしその翌日、モーセは民をとりなすために再び山に戻る。彼は**「あなた」**がたの罪を償うことが、できるかも知れないと考えていた。彼は、罪の赦しのためには、償いが必要であることを知っていて、民の罪が赦されないなら、**「あなた」**が書きしるされたふみから、わたしの名を消し去ってください」と祈った。主は10節で、彼を**「大いなる国民とする」と**言われたが、モーセはそれを返上して祈ったのである。けれども主の答えは、**「あすはわたしに罪を犯した者は、これをわたし」**のふみから消し去る**「というものであった」**。モーセであっても罪は償えない。正しい裁きを神に委ねるのが正しい罪に対する態度だ。モーセは、裁

せは、神に対しては、イスラエルの民のためにとりなしたが、イスラエルの人々に向かっては、彼らの罪に対する神の御怒りを、自分の胸に抱きつつ厳しく語った(32・19)。安易なヒューマニズムではなしえない働きである。

第三に、神と人との間の親密な交わりに対する飢え渇きである。民が滅ぼされないことだけではなく、主の臨在が民と共にあるものでなければ、彼の心は満足しなかった。私たちも、神の大いなる臨在が教会の中に力強く顕されるリバイバルを、切に祈り求める者でありたい。

## テキスト

32・4 これはあなたがたをエジプトの国から導きのぼったあなたの神である。目に見えないお方である主を、目に見える像と同一視している。第二戒に対する明らかな違反。

10 わたしの怒りは彼らにむかって燃え、彼らを滅ぼすつくすであらう。即座の滅亡の宣告。

11 **「なだめて言った。直訳は、『神の顔をたたいた』**。怒りをとどめてあわれみを求める嘆願の意。嘆願のポイントについては、聖書講解参照。

14 **「主はその民に下すと言われた災いについて思い直された。主は、人の態度を見て、計画をも変えて下さるお方(ヨナ3・10)。」**ここに、とりなしの祈りの意義がある。

24 火に投げ入れると、この子牛が出てきたので、子どもじみた偽りの言い訳(4節)。

30 あくる日、モーセ2回目のとりなし。

きを神に委ね、ともかくカナンの地にイスラエルの民を導くことを命じられた。

## 三、神の臨在を求める祈り

さらに主は、イスラエルの民がかたくなであるゆえ、ひとりの使いをつかわしては下さるが、**「あなた」**がたのうちにあって一緒にいるのほらないとおっしゃった。それは、イスラエルがかたくなで、主に滅ぼされてはいけなからである。

三たびモーセは、今度は天幕にて、とりなしの祈りをする。まず、道を示して下さいと祈ると、主は**「わたし自身と一緒にいく」と**いう約束を与えられた。そして主が一緒に行かれないと、何によってイスラエルがきよくされ、何によって諸国の民に証しができますかと祈ると、そのこともしようにとの答えがあった。神の臨在によってのみ、イスラエルは**「大地の面にある諸民と異なるもの」**、つまりきよい民となることのできるものである。

このように祈った後、モーセは神の栄光を見ることができた。主の顔を直接見ることはできないが、主は約束の地までこの民と一緒に行ってくださると、モーセは確信したのである。

## 結論

不信仰な民のために、モーセは3度にわたって神の怒りをとどめ、身代わりとなり、神の臨在を示して下さいと祈った。思えば、主イエスも神の怒りをとどめ、身代わりとなり、神の臨在を示すため、この地上にいられた。モーセは旧約時代に、この主イエスと同じ働きをしたと言える。

あなたがたの罪を償うことが、できるかも知れない。彼は、自らの永遠の命を投げ出してでも、民の赦しを願い求めようとした(32節)。キリストの心をもった者の命がけのとりなし(ローマ9・3参照)。

33・3 あなたがたのうちにあって一緒にいるのほらないであらう。モーセのとりなしにより、民族として約束の地に入ることは許されたが、御使いが先立ち、主自身は伴わないことを告げられる。4 民はこの悪い知らせを聞いて憂い。神が一緒に行かれないと聞き、民は自らの罪の結果の大きさを知る。クリスチャンが罪を犯し、その結果の大きさを知るのも、主の臨在が消えた時である。

13 わたしがもし、あなたの前に恵みを得ますならば、モーセ3回目のとりなしは、民のために加えて、彼自身のためにも、と主に迫る。

14 わたし自身が一緒に行くであらう。そしてあなたがたに安息を与えるであらう。約束の地までの臨在の約束。主の臨在は、私たちに安息を与えつつ、究極的な安息に至らせる。

15 もしあなたがた自身が一緒に行かれないならば、わたしたちをここからのほらせないでください。モーセは、どこまでも主の臨在を確認しようとする。これなしに主の民としての幸せはない。

18 あなたの栄光をわたしにお示ください。民として、主の臨在の約束を頂いた今、モーセ個人として、さらに主に近づく飢え渇きを持つ。とりなしの働きが進むにつれ、自分が主とのさらに深い交わりの必要を覚えるようになる。

聖書 出エジプト33:12-23  
タイトル とりなすって何？  
聖言 しかし主のお選びになったモーセは破れ口で主のみ前に立ち、み怒りを引きかえして、滅びを免れさせた。詩篇106:23  
目標 とりなしによって救われることを発見する。

導入

皆さんは人をとりなしたことがありますか。友だちがガラスを壊してしまったら、一緒にあやまってあげたりすることです。モーセは、罪を犯したイスラエルの民を、神様にとりなしました。

(起) ストーリーを語る

モーセがシナイ山に登って、神様から十戒を与えられていた時のことです。イスラエルの人々は、モーセの帰りが遅いことを不安に思い「さあ、私たちに先立っていく神を造って下さい」と、アロンにせまりました。そこでアロンは、みんなの金の耳輪をはずさせ、それで子牛の像を造りました。するとイスラエルの民は、その金の子牛を神として拝み、お祭りを始めたのです。このため神様は、モーセに急いで山を下るように命じられました。激しく怒られた神様は、イスラエルの民を滅ぼし、祝福の約束はモーセとその子孫に与えようとおっしゃいます。しかしモーセは、「イスラエル人がエジプトから助け出されたのは、結局滅ぼされるだ

めだったと、人々にうわさされるようでは、神様の恥になります。この災いを思い直して下さい」と祈りました。そこで神様は、モーセの言葉を聞き入れ、裁きを思い直して下さいました。山を下りたモーセは、イスラエルの民が偶像の神を祭っているのを見て怒り、十戒の書かれた石の板を砕き、金の子牛も火で焼いて粉々にしてしまいました。そして、いきさつをアロンから聞きましたが、アロンは弁解するばかりです。そこでモーセは、自ら宿営の門の前に立ち、「神様につく者は集まるように」言いました。すると、レビ人の子らがモーセの言葉に従って集まり、「神に従わない者を打て」との主の言葉に従って、神に従わない三千人を打ちました。そして次の日、モーセはもう一度山に登り、神様の前に出て、「彼らの罪を赦して下さい。もしかなわなければわたしの名を命の書から、消し去って下さい」と祈りました。しかし、神様の答えは、「わたしのさばきの日にわたしが彼らの罪を裁く」というものでした。その後、神様は自分が一緒に行くイスラエルの民をいすれ滅ぼすことになるから、一緒に行かないけれども、約束の地を目指して出ていくようにおっしゃいました。これを聞いたイスラエルの民はたいへん悲しみました。

今度は、モーセは、宿営の外の会見の幕屋に、一人で入って祈りました。モーセは、神様がモーセを選んで恵みを与えるといわれた約束と、イスラエルが神様に選ばれた民であることを思い出して下さいと祈りました。すると神様は、「わたし自身が一緒に行く。そしてあなたに安息を与える」と答えて下さいました。さらに彼は、「あなたが一

緒に行かないならば、私たちを行かせないで下さい。私たちが神様の恵みを受けていることが分かるのは、神様が一緒にいて下さるからです」と祈りました。そこで神様は、すべての善きものと恵みを与えて下さると約束されたのです。

(承) 学ぶべき真理

イスラエルの民はどれだけ神様から恵まれても、神様を信じていない民でした。神様が怒り、滅ぼすとおっしゃるほどです。モーセは、その怒りをなだめ、身がわりとなり、神様が一緒にいて下さることを求めました。これを「とりなし」といいます。しかし、赦されたのは主につく者です。

イエス様も、神様の怒りをなだめ、私たちの罪の身がわりとなって十字架にかかり、神様がいつも共にいて下さるしるしの聖霊様を送って下さいました。今の時代は、イエス様がとりなして下さるので、イエス様につく者は赦されるのです。

(転) 生活への応用

弟がお父さんのパソコンを触って、お父さんはカンカンに怒って、出て行けと言っています。弟はあなたの後ろで縮こまっています。あなたはどうかやって弟をとりなすことができますか。パソコンを元にもどす？ いっしょにあやまる？ 弟も反省していることを伝える？ どうするでしょうか。

結論

あなたは、主につく者でしょうか。犯した罪を悔い改めて、イエス様を信じる人は、イエス様にとりなしていただいて、神様の怒りと裁きから救われます。そして今度はモーセのように人をとりなす人になれるのです。

中高科へのヒント

●考えてみよう

- 1 イスラエルの民が、偶像を造るようにアロンに要求したのはどうしてでしょうか。また、なぜアロンは民をいさめないで、要求に応じたのでしょうか。
- 2 イスラエルの民が犯した罪は、十戒のどれに對する違反ですか。
- 3 モーセはイスラエルの民のために3度とりなしましたが、それぞれのとりなしはどのような根拠に基づいていますか。

●自分にあてはめてみよう

- 1 あなたがモーセの立場であったならば、どうしたでしょうか
  - 2 今あなたが教会に導かれているのはどうしてでしょうか。誰かのとりなしがあったからではありませんか。
  - 3 あなたは誰かのために真剣に主にとりなしたことがありますか。あなたにしかとりなすことができない人がいるのではないのでしょうか。
- 話し合ってみよう
- 1 新約聖書中にも、モーセのように破れ口に立ってとりなした人が幾人かいます。誰がどのようにとりなしたのでしょうか。
  - 2 モーセのとりなしと主イエスのそれとを比較して、共通点や相違点を挙げてみましょう。
  - 3 とりなしの祈りが聞かれたという体験があれば、分かち合いましょう。

ワーク A

●暗唱聖句 (6月2日〜7月14日)  
強く、また雄々しくあれ。(ヨシヤ1:9)

●導入のヒント

皆さんは、お友だちに、大事な人の悪口を言われたらどうしますか。言い返したり、意地悪したりしますか。モーセさんは、イスラエルの人たちが神様に背いたとき、この人だちを助けてくださるようにと、神様にお祈りしました。イエス様も、私たちのために十字架の上で祈って下さいました。私たちも、人を本当に愛する人になりましょう。

●ワークについて

絵本を作りましょう。色を塗り折って下さい。

ワーク B

●質問1 神様のいやがられることをする、また、神様に背くことが罪です。モーセのとりなしの祈りを子どもたちに理解できることばで話してください。

●質問2 私たちの罪のためにとりなしてください。イエス様を知りますか。

●質問3 私たちも人のためにとりなすことができます。子どもたちに、自分にできることを、自由に考えさせてください。

●讃美歌 「じゅじかのうえの」

(こどもさんびか37番)

●今日のお祈り 「神様、イエス様がとりなしてください。私の罪を赦して下さい。感謝します。私も人のためにとりなせるようにして下さい。」

ワーク C

●イスラエルの民は、神のあわれみと導きを得てエジプトでの奴隷生活から贖い出された。そのリーダーとしてモーセが立てられていた。しかし民は、荒野での厳しい生活のゆえに神とモーセに対してつばやき、モーセのいない間に偶像礼拝の罪を犯した。モーセは、民のこの罪を自分を犠牲にしてまでもとりなし、聞き入れられた。それは、主イエスの十字架のあがないの死と同じ性質のものであり、予表(型・モデル)である。私たちは、罪を知らずに罪を犯して滅びに向かっていった者であるが、イエス様の十字架の身代わりの死によって救われた。今度は、私たちが他の人のためにとりなしの祈りをする番である。

ワーク D

●質問1 モーセは、神様の約束を信じて、神様に近づきました。

●質問2 モーセは自分の身をかけて、民をとりなしました。イエス様も、私たちのために命を捨てて、十字架で身代わりになって、とりなしてくださいました。

●質問3 私たちは、とりなしによって救われました。今度は私たちが人をとりなすことを考えましょう。



聖書 民数記13・17・14・25  
テーマ ヨシヤアとカレブ

## 序論

エジプトを出て2年目の2月20日(10・11)、民はシナイ山麓を出発し、何日か後にバランの荒野にあるカデシに到着した。そして、そこから約束の地カナンを探るために、12人の偵察隊を派遣した。ところが、偵察隊の中の10人が悲観的な報告をする中で、ヨシヤアとカレブは信仰的な見方を示す。二人はどの点で違っていたのだろうか。

朗読箇所は14・4・25だけにしても良い。

## 一、約束の地の状況

モーセの命令を受けた偵察隊は、バランの荒野の北にあるチンの荒野から、ガリラヤ湖の北に位置するシホブまで、南北三百キロに及び地域を40日かけて探った。そしてアブラハム・イサク・ヤコブなどの墓があったヘブロン付近、エシコルの谷から、大きなぶどうやその他のくだものを携えて帰還したのである。

偵察隊は、△そこはまことに乳と蜜の流れている地です△と良い面を伝えると同時に、△その地に住む民は強く、その町々は堅固△だと、占領するためには困難が伴うことも報告した。祝福は大きい、戦いもまた避けられないのである。

## 二、二つの違った見方

偵察隊の10人は困難な面を強調し、△わたしたちはその民のところへ攻めのぼることはできません

## 研究資料

(長田)

## 信仰の力

信仰は、神のみわざを進めるために大きな力を与える。逆に、不信仰は、神のみわざを妨げるために、大きな力を発揮する。

ベリシテ軍を前にし、ゴリアテの挑戦を受けたイスラエル軍は、恐れにとられ、萎縮していた。しかし、主の御名を掲げ、信仰に立って、少年ダビデが戦いを挑んだとき、イスラエルに大勝利が訪れた。

カナンの地を偵察した12人のうち、ヨシヤアとカレブだけが、その地を勝ち取れるとの信仰を示した。残りの10人は、不信仰によって勝利の不可能を確信し、その確信をイスラエルの人々に広げることになった。その結果、彼らは、約束の地を得るために、40年余計に必要とすることになった。

神に導かれ、神の約束を頂いているのなら、信仰に堅く立って前進し、勝利を与えられるべきである。

## テキスト

13・20 時は、ぶどうの熟し始める季節であったパレスチナで初ぶどうが熟すのは、7月中旬から8月中旬。

23 一ふさのぶどうの枝を切り取り、これを棒をもって、ふたりでかつぎ 巨大なぶどうは、その

ん。彼らはわたしたちよりも強いからです△と言いつつ、その住民の前では、△自分が、いながらの悲観的な見方を示している。彼らは、自分たちの弱さだけを見ていたのだ。その結果、民はすっかり気落ちして、「エジプトで死んだらよかった。荒野で死んだらよかった。別の指導者を立ててエジプトに帰ろう」と、モーセとアロンにつぶやく始末であった。

しかし、カレブとヨシヤアは、同じ事実に対して、違った見方をしていた。△もし、主が良しとされるならば、わたしたちをその地に導いて行つて、それをわたしたちにくださるでしょう。主がわたしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません△と、自分たちの力ではなく、主の導きと力を信じて、民に訴えたのだ。

二つの見方の違いは、「わたし自身が一緒に行くであろう」という主の約束を信じているか、いなかで生まれてきた。しかしこれを信じていることができなかった民は、ヨシヤアとカレブを石で撃ち殺そうとしたのである。

## 三、主なる神の応答

そのとき主は、モーセに仰せられた。△わたしはもろものしるしを彼らのうちに行つたのに、彼らはいつまでわたしを信じないのか△と。紅海を分け、雲の柱と火の柱で導き、マナを与えられたにもかかわらず、民はまだ主が彼らを守つておられることを信じていなかったのだ。怒られた主は、△疫病をもって彼らを撃ち滅ぼすとモーセ

地が肥えていること象徴として見なされた。(24・26、27節)

24 エシコル ヘブロンの方にある谷と言われる。この辺りは、今日でも立派なぶどうを産することである。

27 乳と蜜の流れている地 肥沃な土地の意。主の約束の言葉においても用いられた表現(出エジプト3・8、13・5等)。

30 カレブは…民をしめて 強い民、堅固な町々、多様な地形と多様な民族の存在…これらの報告は民の心をさわつかせた。

31 彼らはわたしたちよりも強いから 彼らの目は、敵の強さと自分たちの弱さだけを見て、偉大な神の御力を忘れていた。

32 探った地のことを…悪く言いふらして 肥沃な地であることを認めたにも関わらず、不信仰による恐れから、消極的な点を過度に強調し始める。

33 ネビリム 創世記6・4参照。確かに大柄な人々であったろうが、「いなこのように思われ」との報告には、彼らの誇張がある。

14・2 つぶやき その内容は、荒野の生活で、繰り返されてきたもの(出エジプト14・11、12、16・3)。不信仰はつぶやきをもたらす。

6 ヌンの子ヨシヤアとエフネの子カレブ

に語られたが、彼は再度とりなしの祈りをする。この祈りは、先週学んだ「神の怒りをなだめる祈り」に似ているが、最後に△どうぞ、あなたの大きないつくしみによって、…この民の罪をおゆるしください△と訴える点が違っている。

主は彼の祈りに答えて、民の罪を赦された。しかし、これは贖罪ではなく、猶予である。主は、△罰すべき者は、決してゆるさ△ない、正義の神でもあるゆえ、△十度もわたしを試みて、わたしの声に聞きしたがわなかった人々はひとりも、わたしがかつて彼らの先祖たちに与えると誓った地を見ないであろう△と宣告された。その結果、当時20歳以上だったイスラエルの民は、この後39年間荒野を放浪し、ヨシヤアとカレブのほかは約束の地に入国できなくなったのである。

## 結論

「主がわたしたちと共におられます」。これがすなわち信仰の分岐点である(『小島伊助全集』6巻65頁)。主の約束は祝福に満ちたものであるが、「棚からぼたもち」ではない。「主がわたしたちと共におられる」という信仰を堅くもって、しっかりと受け取ることが必要である。それは自分の力、自分の行いによることではない。主と共にあって、主に導かれ、約束を信じて挑戦し、獲得していくのである。

私たちの生活にも様々な試練や困難がある。しかし、それを避けてはならない。臨在信仰こそ、どんな困難をも乗り越える勇気を私たちに与えるものである。

12人のうち、彼ら二人だけが信仰を示したので、約束の地に入ることが許された。彼らにとつて、攻め行かないことは、主に背くこと(9節)であり、他の人々の意見は不信仰による恐れからのことであることを見抜いていた(9節)。

10 会衆はみな石で彼らを撃ち殺そうとした人は、不信仰の恐れに満たされる時、信仰の言葉否定するために様々なことをする。

11 いつまでわたしを侮めるのか 偉大な神を信じないことは、神への侮辱である。

12 疫病をもって彼らを撃ち滅ぼし、あなたを彼らよりも大いなる強い国民としよう モーセに対する再度の提案(出エジプト32・10)。

13 モーセは主に言った 民の滅亡の宣告を受け、モーセは、かつてのように、民のために主にたのみを訴える。訴える要点は、この地の民は主が力なきものと見なすであろうこと(13・17節)、主は怒ることおそく、いつくしみに富んだお方であるはずのこと(18、19節)。

20 わたしはあなたの言葉のとおりにゆるそう モーセのとりなしにより、民全体の滅亡は免除される。

22 十度もわたしを試みて 民の不信仰とつぶやきは、何度も繰り返された。主は罪を赦されるお方であるが、悔いをもって繰り返される罪に対しては、明確に報いられるお方でもある。神は侮られるべきお方ではない(ガラテヤ6・7)。

24 違った心をもって 不信仰の言葉に直面する時、本物の信仰の真価が表れる。

聖書 民数記14・4～25  
タイトル 挑戦しよう！

聖句 わたしたちはすぐにのぼって、攻め取りましょう。わたしたちは必ず勝つことができます。

目標 神様の臨在を信じ、聖言に従って挑戦することによって、約束の祝福を受け取れることを発見する。

民数記13・30

#### 導入

イスラエルの人々は約束の地を目の前にしていました。しかし、その約束を受け取れなくなろうとしていたのです。せっかく神様が祝福しておられるのに、どうして受け取らないのでしょうか。

#### (起) ストーリーを語る

約束の地を目指したイスラエルの民は、すぐ手前のパランの荒野まで来ました。そして、まず約束の地を偵察する人々を12部族ごとに一人選びました。そこでモーセは、カナンの地の住民が強いが弱い、多いが少ないか、またその町が天幕か城壁か、その土地が肥えているかやせているか、木があるかないかを偵察するように命令しました。そして、ちょうどブドウが熟す頃なので、取ってくるようにも命令したのです。そこで彼らは、エシコルの谷で一つのブドウの房を取りました。それは、なんと二人が竿で担がなければならぬほど大きくて重く、立派な実だったのです。他に

ザクロとイチジクもいっぱい採りました。

40日後、12人は偵察を終えてパランに帰ってきました。そこで彼らは、全会衆に果物を見せ、報告しました。「カナンの地は祝福された素晴らしい土地です。しかし、その民は強くて、しっかりした城壁があり、背の高い巨人の子孫が住んでいます。山地も海辺にもたくさん敵がいます」と報告したのです。しかし、そんな中で偵察隊員の一人であったカレブは、「私たちはすぐにのぼって、攻め取りましょう。私たちは必ず勝つことができます」と言いました。しかし、一緒に偵察に行ったヨシユア以外の人は、相手は強いからとてもめだと言いはります。そして、イスラエルの人たちに、「カナンの地は大きな人が住んでいて、自分がイナゴのように思えた。そこに住む者に殺されてしまつ」と、悪く言いふらしました。それを聞いた民は、夜明けまで大声で泣き叫ぶ始末です。そして、とうとうエジプトに帰ろうとまで言い出したのです。

偵察に行った二人、ヨシユアとカレブは、これに我慢できず、「私たちが探ってきた土地はとても良い土地です。神様が行くようにされたのなら、必ずその土地を下さるはずですよ。神様に背かず、その民を恐れてはいけません。神様が困難を取り除いて下さいます。私たちには神様がついておられるのだから恐れてはいけません」と言いました。しかしイスラエルの民はヨシユアとカレブを右打にしようとするのです。このとき、神様は会見の幕屋でモーセに現れ、民の不信を怒られました。モーセは、まだもとより祈り、民の罪のゆるしを願いました。すると神様は、モーセの祈りを聞かれ、赦して下さいました。しかし、神様を何度も試み、従わなかった大人は、約束の地に入ることはできず、ただヨシユアとカレブだけは入ることができるおっしゃったのです。

#### (承) 学ぶべき真理

ヨシユアとカレブは、目に見えることに動かされませんでした。神様の約束を信じて、神様の計画どおり進もうとしました。この二人は、たとい反対する人の数が多くても、神様に従えたのです。それは、神様が共にいて下さること、約束を必ず守られることを確信していたからです。

#### (転) 生活への適用

あなたは、みんながやっているから、一緒に悪いことをしてしまつたことがありますか。みんながいじめていたら、一緒にいじめてよいでしょうか。みんなが悪口を言っていたら、一緒に悪口を言つてよいでしょうか。みんなと違うことでも、神様がしなさいということはする、神様がしてはいけないということはしてはいけません。

#### 結論

どんなに困難なことでも、神様の約束なら、神様と共にいて、約束を実現して下さいます。大切なのは神様を信じて挑戦することなのです。神様を信じないで取り組まないなら、せっかく神様が約束された祝福でも受け取れません。神様を信じて挑戦するなら、神様が勝利を与えてくださり、約束の祝福を受け取ることができるのです。

#### 中高校へのヒント

##### ●考えてみよう

- 1 偵察結果に基づく判断が大きく2つに分かれました。それぞれの判断とその根拠は何ですか。また、判断の相違の原因はどこにありましたか。
- 2 偵察結果とその判断を聞いたイスラエルの民はどうしましたか。
- 3 イスラエルの民の不信は、どのような結果を招きましたか(14・30、34節も参照)。

- 自分にあてはめてみよう
- 1 あなたが偵察隊の一人であったならば、またイスラエルの民であったならば、どうしたでしょうか。
- 2 あなたは少数派であっても、ヨシユアとカレブのように信仰によって判断し、行動することが出来ますか。
- 3 あなたが不信に陥ったのは、どのようなときですか。その原因はどこにありましたか。

- 話し合ってみよう
- 1 聖言の約束どおりにならない原因として、どのようなことが考えられるでしょうか。聖言の約束を自分のものとするには、どうしたらよいでしょうか。
- 2 不信に陥りそうになったとき、どうしたらよいでしょうか。
- 3 不信によって失敗した体験や、信仰によって試練や困難を乗り越えた体験があれば、分かち合ひましょう。

#### ワーク A

##### ●導入のヒント

お友だちが、「神様なんていないよ」と言ったらどうしますか。他のお友だちも、同じように言うたらどうでしょうか。ヨシユアとカレブは、決して神様を疑いませんでした。私たちも、私たちが愛して罪から救ってくださるイエス様を裏切りにくありませんね。

##### ●ワークについて

ふどうの実は、色紙で貼り絵します。肩にかつぐ棒を割りばしで貼り、2人の人たちに色を塗ります。

#### ワーク B

##### ●質問1 お話を思い出して答えましょう。

- 質問2 神様は、神様を信じて、困難なことにも挑戦する人を喜ばれます。

- 質問3 神様を信じて挑戦するとはどういうことかに気づかせます。先生方の体験談も話してあげて下さい。

##### ●讃美歌 「イエスさまにたよるぼくたちに」

(ふくいんこどもさんびか12番)

- 今日のお祈り 「神様、神様を信じて、チャレンジします。どうか助けて下さい。」

#### ワーク C

##### ●この調査命令(13・1、2)は神御自身から出ていることに注目しよう。そして、遣わされた12人は同じものを見出し、その報告(27～29節)は、

- ①カナンは乳と蜜の流れている地である、②カナンの民は強く町々は堅固である、というものであった。しかし、この事実を前にしてどう行動すべきかについて、意見は真っ二つに分かれた。ヨシユアとカレブの2人は進めよと言ひ、他の10人は恐れてエジプトに帰ろうと言ふ。会衆は不信な10人の考えに賛同してしまつた。この違いは、14・8～9にあるように、これは主がよしとされることだ、主から出たものであることだ、信仰の目でとらえるか否かによって生まれる。

#### ワーク D

##### ●質問1 乳と蜜の流れる地のようすや、そこに住む人々の恐ろしさなどの理解を助けて下さい。

- 質問2 イスラエルの民の気持ちを考えながら、恐れが信仰を弱らせることに気づかせてください。しかし、信じる者には約束が伴います。
- 質問3 心を揺るがす出来事に取り囲まれる現実をみながら、信仰をもって踏み出す大切さを考えて下さい。



聖書 ヨシユア1・1～9  
テーマ ヨシユアの備え

## 序論

40年間の荒野の生活の後、イスラエルの民は、ヨルダン川を越えれば約束の地という所にまで来た。しかしその川を渡る前に、モーセは、地上の生涯を終えた。彼の後継者として立てられたのがヨシユアである。主は、ヨシユアがこの重要な働きにあたることができるよう、備えておられた。

## 一、戦士としての備え

主はヨシユアに、△このヨルダンを渡り、わたしがイスラエルの人々に与える地に行きなさい△と命じられた。そこには強い先住民がおり、彼らと戦わねばならない。だから主は、以前からヨシユアを戦いに用いておられた。

出エジプト17・8～14を見よう。紅海の奇跡の後、民が直面したのはアマレク人との戦いであった。この時、民を率いて戦ったのが、ヨシユアである。モーセの祈りの手があげられているとき、イスラエルが勝ち、疲れて祈りの手が下がったとき、アマレクが勝った。戦いの備えは、祈りである。この出来事によって、ヨシユアは戦いの背後に祈りが必要なことを悟ったであろう。モーセは、主イエスが弟子たちを訓練のために派遣したように、ヨシユアに実践を経験させたのである。

## 二、従者としての備え

主はまた、△わたしは、モーセと共にいたように、あなたと共にいる△と仰せられた。ヨシユア

## 研究資料

(長田)

## 後継者ヨシユア

「ダビデは、その時代の人々に神のみ旨に仕がって仕えた」(使徒13・36)とあるが、どんなに偉大な信仰の先人も、自分の生きる時代において、神の召命に応えだに過ぎない。神は、それぞれの時代に必要な働き人をお召しなさる。

モーセは、40年の長きにわたって、イスラエルの民を指導したが、やがて地上での生涯を終える時が来た。モーセ亡き後、イスラエルの民をカナンの地に導くという神の約束を達成させるために、神は、モーセの後継者としてヨシユアを定められた(民数記27・15～23)。

モーセの従者として、モーセと行動を共にし(出エジプト24・13)、戦いの統率者として(出エジプト17・10)、幕屋から離れない人物として(出エジプト33・11)、信仰の人として(民数記14・5～9)、霊の人として(民数記27・18)、歩んできた彼であるが、彼が召されていた働きは、困難で厳しいものであった。モーセの死の直前の任務確認においても(申命記31・7、8、14、23)、死後の任務遂行命令においても(ヨシユア1・1～9)、強く、勇敢であるように励まされ、主が共におられることの保証が与えられる必要があった。ヨシユアは、そのような神の召命に、見事に応えていった。私たちは、この時代における神からの召命に、どのように応えようとしているであろうか。

これから歩むべき道は、モーセの歩みに従ったものでなくてはならない。ヨシユアは、荒野での40年間、まさにモーセの従者として過ごし、その生き方を学んだのである。ちょうど、12弟子たちが主イエスの生き方を学んだように。

出エジプト24・12～13を開こう。シナイ山で十戒が与えられたとき、ヨシユアはモーセと共に山に登っていた。また、モーセが会見の幕屋にいる間、ヨシユアは幕屋のそばにいたようである(33・11)。そして、主の霊がすべての民に与えられるべきことも、モーセから学んでいた(民数記11・26～29)。このような経験があったからこそ、彼は△あなたと共にいる△と言われる主の言葉をそのまま受け入れることができたのだ。モーセは、主イエスが弟子たちを側においたように、ヨシユアを側に置いて、神の御声を聞かせたのである。

## 三、指導者としての備え

さらに主は、△あなたはこの民に、わたしが彼らに与えると、その先祖たちに誓った地を獲得させなければならぬ△とも言われた。ヨシユアは、モーセ亡き後、指導者として民を導かねばならない。そのために主は、偵察隊の一人として彼を備えておられた。彼はカレブと同じ心を持ち、「主と共にあるゆえに約束の地を獲得できる」と民に強く訴えた(民数記14・5～9)。神の言葉に従うなら敵を恐れる必要がないことを、ヨシユアは固く信じていた。他の者と違った心を持っていたのだ。また、カナンの地を探ったゆえに、その地理を理解していたことも、これ以後の戦いのための備えとなったであろう。モーセは、主イエスが

## テキスト

1 モーセが死んだ後 これからという時の指導者の死。あらかじめ告げられていたことは言え(民数記27・12～19、申命記31・2、3)、ヨシユアは、この時どのような思いだったろうか。

モーセの従者 ヨシユアは、若くからモーセの従者であった(民数記11・28)。モーセのつきそいの役割を持ちつつ、モーセの指導下で、民のリーダーとしての役目を果たすこともあった(出エジプト17・9)。

ヨシユア 本来ホセア(「救い」の意)と呼ばれたが、モーセによってヨシユア(「主は救い」の意)に改名された(民数記13・16)。ギリシャ語の発音では、イエスである。

2 ヨルダンを渡り 約束の地を得る前に、大きな信仰の決断を求められている。

3 足の裏で踏む所はみな 神の約束において征服が保証されている。その約束が成就していくためには、一足一足前進しながら、勝利し、獲得していかなければならない。

5 モーセと共にいたように、あなたと共にいる モーセが指導者として立つことができたのは、ただ、主が共にいるとの約束のゆえであった(出エジプト3・12)。この約束のゆえに、ヨシユアも指導者として十分立つことができる。

わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない これから待ち受けている現実的な困難の中で、この約束の言葉がどれほどヨシユアを支え

弟子たちに権威を与えたように、ヨシユアを偵察隊に入れ、権威を与えたのだ。

## 四、後継者としてのヨシユア

以上のすべての備えがあったゆえに、ヨシユアはモーセの後継者となることができた。主が彼を任命されたのである。民数記27・18～23を見よう。これは、まだモーセが生きている時、ヨルダン川の東のモアブの野での出来事である。ヨシユアは△神の霊のやどっている△人だったからこそ、後継者に任じられた。また、申命記34・9には、△ヨシユアは知恵の霊に満ちた人であった△とも記されている。重要なのは、神の霊、知恵の霊に満たされることである。決して人間の才能ではない。どんなに弱くても、知恵がなくても、主は神に信頼している人を任命し、神の働きをさせてくださる。ヨシユアはまさにそのような人であった。

## 結論

ヨシユアは、モーセのように王宮で教育を受けた人物ではなかった。しかし主は、その時代にふさわしい人を用いられる。主イエスも弟子たちを身近に置き、遣わし、権威をもたせるために任命された(マルコ3・14)。今いる教会の子どもたちも、将来の神の働きの後継者たちである。彼らを、神の国の戦士として備え、従者としてそばに置いて聖言を解き明かし、指導者として権威を与えて訓練していこう。すると、彼らも神の霊に満たされた後継者に育っていくのである。

たことだろ。

6 強く、また雄々しくあれ ヨシユアの使命の中心は、戦いの指導者となることであった。戦いにおいて、弱く臆病であることは致命的である。この励ましは繰り返しヨシユアに与えられねばならなかった(申命記31・6、7、23、ヨシユア1・6、9、18)。

7 モーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲がってはならない 指導者は、外部の敵との戦いだけでなく、内側における戦いにも勝利をおさめていなければならぬ。それは、指導者として立ち続けるための必須条件である。

8 昼も夜もそれを思い 神の御心に従う生活は、漫然として得られるものではない。一瞬一瞬が勝負である(詩篇1・2)。

9 強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おのいてはならない 神の国のための厳しい戦いにおいて、常に主からの言葉として聞いていく必要がある3つのこと。第一に、強くまた勇敢であるようにとの励まし。第二に、主が共におられるとの約束。第三に、恐れおののきを取り除くようにとの命令(Ⅱテモテ1・6、8、マタイ28・20、10・26、28、31)。

聖書 ヨシユア1:1-9  
タイトル 新しいリーダーは誰だノ  
中心聖句 わたしはあなたに命じたではないか。強く、また雄々しくあれ。  
ヨシユア1:9  
目標 神様は、働き人に必要なすべてを備えておられることを発見する。

#### 導入

40年間の荒野の生活の後、モーセは、地上の生涯を終えました。神様の約束を信じないでカナンの地の巨人や城壁を恐れた大人たちも、みんな約束の地に入ることなく死んでゆきました。けれどもヨシユアとカレブは、神様の約束を信じて進もうとしたので、カナンの地に入ることができました。そしてヨシユアが、神様に選ばれ、新しい指導者として任命されました。

#### (起) ストーリーを語る

―約束を信じる― 神様は、ヨシユアに「強く、また雄々しくあれ。あなたはこの民に、わたしは彼らに与えると、その先祖たちに誓った地を、獲させなければならぬ」(6節)とおっしゃいました。ヨシユアの役目は、約束の地の獲得です。しかし、そこには強い先住民がいて、彼らと戦わなければなりません。ですから神様は、以前からヨシユアを戦いに用いておられました。例えば、紅海を渡った後のことです。イスラエルの民は、アマレク人と戦わなければならませんでした。こ

の時、民を率いて戦ったのが、ヨシユアです。この戦いでは、モーセの祈りの手があげられているとき、イスラエルが勝ち、疲れて祈りの手が下がったとき、アマレクが勝ちました。この出来事によって、ヨシユアは、人の目には勝てるはずのない敵でも、神様は約束したことを必ず成し遂げてくださることを知ったのです。

―聖言を信じる― 神様はまた、「強く、また雄々しくあれ。わたしはモーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲がってはならない。それはすべてあなたの行くところで、勝利を得るためである」(7節)とおっしゃいました。ヨシユアは、荒野での40年間、まさにモーセの従者として過ごし、神様の聖言を学びました。シナイ山で十戒が与えられたとき、ヨシユアはモーセと共に山に登っていました。また、モーセが会見の幕屋にいたるとき、いつもヨシユアは幕屋のそばにいました。ヨシユアは、いつもモーセのそばにいて、神様の言葉を聞いて、聖言に従うところに勝利があることを知っていたのです。

―臨在を信じる― さらに神様は、「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おのいてはならない」(9節)とおっしゃいました。神様はかつて、偵察隊の一人としてヨシユアを選ばれました。そしてヨシユアはカレブと共に不信仰な民と異なる心を持ち、「神様が共におられるゆえに約束の地を獲得できる」と訴えたのです。ヨシユアは、神様が共におられるなら敵を恐

れる必要がないことを固く信じ、挑戦していく人でした。

#### (承) 学ぶべき真理

以上のすべての備えがあって、さらにヨシユアは「神の霊のやどっている」人だったからこそ、新しい指導者に任じられたのです。指導者として重要なことは、人間の才能ではなく、神様の約束を信じ、神様の聖言に従い、いつも神様と共にいて、神様に導かれていることなのです。

#### (転) 生活への適用

あなたは一人で眠れますか。一人でお使いに行けますか。じゃあ一人でお留守番ができますか。さらに小さい子の面倒までみるができますか。お兄ちゃん、お姉ちゃんになって、リーダーになっていくには、神様の聖言により、正しいことを知っていること、神様と共にいて勇気をもって正しいことを行えることが必要です。

#### 結論

新しく立てられたヨシユアへの任務は、恐れず臆せず、約束の地を勝ちとることでした。勝利の保証は神の約束の言葉と、神様が共にいて下さることです。神様が私たちに約束されるときには、必ず神様が共にいて、戦って下さいます。ですから私たちは、恐れず勇敢に進めるのです。みんなと同じではなく、ひとりぼっちだと思つときでも、神様は私たちと共にいて下さり、必要な勇気と力を下さいます。雄々しく、強く、神様を信じて挑戦しましょう。

#### 中高校へのヒント

##### ●考えてみよう

- 1 偉大なモーセの後継者に任命されたとき、ヨシユアはどのように思ったでしょうか。
- 2 主はヨシユアに対してどのような命令と約束を与えられましたか。
- 3 これまでのヨシユアの生涯を振り返ってみましょう。それらはイスラエルの指導者となったヨシユアにどのように役立ったのでしょうか。
- 4 ヨシユアがイスラエルの指導者としての重責を全うできたのはどうしてでしょうか。

##### ●自分にあてはめてみよう

- 1 あなたがヨシユアのように責任の重い立場に置かれたならば、どうしますか。
- 2 これまでのあなたの生涯を振り返ってみましょう。それらの体験があなたの将来にどのような生かされていくと思いますか。
- 3 より良い将来のために、今あなたがなすべきことは何でしょうか。
- 話し合ってみよう
- 1 主の働きに用いられるのはどのような人でしょうか。
- 2 どうしたら、いかなる時にも恐れることなく、強く、また雄々しくあることができるのでしょうか。
- 3 過去の出来事や体験が、現在の信仰生活や立場に役立っているということがあれば、分かち合いましょう。

#### ワーク A

##### ●導入のヒント

皆さんが、怖くなったときや困ったときに、助けてくれるのは誰ですか。そう、イエス様ですね。神様は、ヨシユアを励ましてくださったように、私たちのことも、みことばによって励まし、勇気をくださいます。神様を信じて行きましょう。

##### ●ワークについて

みことばを切り取って円の中に入ります。そして円に色を塗り、星型や折り紙でかざりをつけ、切りぬいて紙皿に貼りましょう。みことばは、右から、口語訳、新改訳、新共同訳の順で掲げています。用いている訳を選んでください。

#### ワーク B

●質問1 今日のみことばを思い出して完成させましょう。

●質問2 ヨシユアは、神様がいつも共にいてくださること、神様の約束はまちがいないことを信じていました。強さの秘訣は、人間の力にあるのではなく、神様にあるのです。

●質問3 自分の力でできなくても、神様が共にいて下さるなら大丈夫なことを伝えて下さい。

●讃美歌 「おおしくあれつよくあれ」

(ふくいんこどもさんびか82番)

●今日のお祈り 「神様、私も神様を信じます。神様が私と一緒にいて、私を強くして下さい。」

#### ワーク C

●モーセの後継者としてヨシユアが立てられた。彼はモーセの従者だった。師でありリーダーであるモーセと共に、荒野の実際の生活を生きてきた。たき上げられてきた人である。神はその時代にふさわしい器を育てて用意され、立てられる。時代、器、生まれ育ちは違っても、リーダーに共通する条件は「信仰」だ。神が共にいてくださるという臨在信仰と、神の言葉に従う従順信仰である。この1-9節のみ言葉の約束は、今も次の時代も、救い主イエスを信じる信仰を持っている者に与えられている。教会の子どもたちや教会学校のお友だちは、次の時代の後継者である。備えられている人々を育てていこう。

#### ワーク D

●質問1 ヨシユアを任命したのは神様です。約束の地を獲得させることが使命です。

●質問2 律法を守り行うことが勝利の秘訣です。律法を「神様の言葉」と説明してください。いつもみ言葉を忘れないで持つこと。み言葉の暗唱も大切なことを教えてください。

●質問3 神様は、「がんばりなさい」と励ますだけでなく、いつも共にいて助け、また教えて下さいます。

●質問4 神様が責任をもって守り育てて下さる事を信じましょう。



聖書 ヨシユア3・1～17  
テーマ ヨルダン川を渡る

## 序論

指導者となったヨシユアは、まず、ヨルダン川の対岸にあるエリコの町に斥候を遣わした。彼らの報告で、町の住民は、主がイスラエルのためになされた不思議を聞いて、震えおののいていることがわかった。ヨシユアは、主は必ず再び不思議を行われると確信した。それこそ、主の戦いである。彼はイスラエルの民を率いてシッテムを出立し、ヨルダン川の岸辺に向かった。

## 一、主に従う民として

紅海が分けられた時と比べて、ヨルダン渡河の場合は、主の契約の箱が大きな役割を果たしている点が特色だ。神のつえを持ったモーセはもはやいなかったが、十戒の記された石の板が入っている箱が主の臨在を象徴していたのである（この箱には、他にマナの入った金のつばと、芽を出したアロンのつえが納められていた）。

ヨルダン川の岸辺に着いてから3日目、つかさたちは民に、△祭司たちが、あなたがたの神、主の契約の箱をかきあげるのを見るならば、△そのあとに従わなければならない△と命じた。すなわち、主に従って歩めと命じたのだ。その結果として、△あなたがたは行くべき道を知ることができる△。これは、約束の地で新しい生活を始めるイスラエルの民にとって、最も重要なことだった。これから占領すべき約束の地は、ヨシユアとカシ

プ以外に、だれ一人として知る者がいない。しかし、主が先立って歩まれるなら、道は必ずひらかれる。それは物理的な道だけでなく、毎日の生活のあり方を表す道である。神の臨在のある方向へ進んでいくのが、救われた者が約束の地を獲得する道なのだ。

## 二、聖なる民として

しかし、つかさは続いて、△あなたがたと箱との間には、おおよそ二千キュビトの距離をおかなければならない△と言った。それは、しっかりと神様に導かれて進むためである。民が自分の罪深さを自覚し、聖なる神を恐れ、侮らないための知恵であった。

荒野で神に逆らった民たちは皆、荒野で死んでしまった。今イスラエルは、新しい民となって約束の地に入ろうとしている。だからこそヨシユアは、△あなたがたは身を清めなさい△と言った。聖なる民としての自覚をしっかりと持ち、聖なる神にふさわしく生きていかなければ、約束の地に入っても、何の意味もない。

聖なる民のために、主は不思議を行われることを、ヨシユアは固く信じていた。彼はその日、大きな期待をもって床についたであろう。何がおきるか、全く予想してはいなかっただろうが。

## 三、行動する民として

翌日、ヨシユアは祭司たちに言った。△契約の箱をかき、民に先立って渡りなさい△。この時期は、ユダヤ暦の正月であり、太陽暦では4月頃

## 研究資料

(長田)

## 道を開く信仰

私たちの信仰生涯の中で、神様は、霊的な恵みや与えられた使命の達成等を約束して下さっているはずなのに、前に立ちふさがるものを前にして、前進できないことがある。そのような時に道を開くのは信仰である。

約束の地カナンを目の前にしても、イスラエルの人々の前にはヨルダン川があった。未知の世界に足を踏み入れようとする恐れ、目の前にあるものを見てしりごみする不信仰を横に置き、神の命令に従い、契約の箱を担ぐ祭司たちの足が川の水の中に踏み入れられたとき、川の水はせきとめられ、ヨルダン川を渡ることができた。

どんな時にも、私たちの前に道を開くのは、約束の地へと導いて下さる神への信仰以外にない。

## ヨルダン渡河の奇跡の意味

イスラエルの民が紅海を渡った時の奇跡と同様の奇跡が、カナンの地に入ろうとするこの時、ヨルダン川において繰り返される（4・23）。

私たちの群れの伝統においては、紅海を渡る出エジプトは、入信時の救いの経験を、ヨルダン川を渡り、約束の地カナンに入ることは、第二の転機としてのきよめの経験を表すものと受けとめられてきた。信仰生涯の中で、古い生き方からの明確な聖別（ローマ6・6、エペソ4・22～24）を

頂かなければ、エジプトでの生活を恋い慕い、つぶやきと不信仰に満ちた荒野での生活を続けることになる。

歴史的には、この時の奇跡は、以下のような主の目的によって行われた。第一に、モーセの後継者ヨシユアの権威を確認すること（7節）、第二に、イスラエルの民の中における主の臨在の継続の確認を与えること（10節）、第三に、カナンの地から七つの民族を追いつとの約束が、この後実現するとの保証を与えること（10節）、第四に、全地の民、特にヨルダン川の西に住む民に、主の御力を知らせること（4・24、5・1）等。

目の前にある妨げと見えるものが、主の手にあつては、かえって計画実現のために大きく用いられる。

## テキスト

3 契約の箱 ヨルダン川を渡る際、契約の箱がまず川の中に担ぎこまれた。私たちの先に立つのは、常に主の臨在でなければならない。

4 あなたがたは前にこの道をとおったことがないからである。迷いやすい私たちも、大牧者なる主が先頭に立たれるならば、進むべき道を知って、安全に進むことができる（ヨハネ10・4）。

あなたがたと箱との間には、おおよそ二千キュビトの距離をおかなければならない。親しく神と交わることが許されているとしても、聖なる主に対する畏れの心を失ってはならない（ピリピ2・12、ヘブル12・28）。二千キュビトは、約一千メートル

である（4・19）。ヨルダン川は、雪解け水と春の雨のため、かなりの水量だったと思われる。その川の中に足を踏み入れるには、大きな決断が必要だったろう。しかし、祭司たちはヨシユアの命令に従って一歩踏み出した。奇跡はその時おこった。△箱をかく祭司たちの足が水ぎわにひたると同時に、△塩の海の方に流れくた水は全くせきとめられた△のである。

モーセと共に紅海を渡った時は、海が分かれ、乾いた地ができてから渡った。しかし今回は轟々と流れるヨルダン川に足を踏み入れた時、ヨルダンの水は立ち上がった。主の救いを得るとは主が既になしとげてくださった救いの御業を受け取ることだが、約束の地を勝ち取るとは主と共に踏み出すことだ。その時、神の御業を見るのである。

重要なのは、神を信じて一歩を踏み出すことである。その時、主は奇跡をおこされる。踏み出さねば、ヨルダンを渡ることも、約束の地を得ることもできない。バックストンも「自分の足で踏みませんならば、自分のものとはなりません」と記している（『バックストン説教集』31頁）。信じて行動することこそ、神の民に必要なのである。

## 結論

私たちも、主に従う民、聖なる民、行動する民となりたい。その時、乳と蜜の流れる豊かな神の国は私たちのものとなる。エジプトに逆戻りすること、荒野の反抗と不信仰とつぶやきの生活を繰り返す必要もない。今日決心して、主と共に一歩を踏み出すなら、主の御業は始まる。

ル弱。

5 身を清めなさい 栄光の主を拝そうとするときには、自らに汚れたところがないかを点検する必要がある。

7 きょうからわたしはすべてのイスラエルの前にあなたを尊いものとする この日の奇跡の目的の一つ（4・14）。

10 生ける神があなたがたのうちにいてになり、必ず追い払われることを、次のことによって、あなたがたは知るであろう この時の奇跡の目的の一つは、イスラエルの民に、主の臨在の確認、カナンの地を与えることのお約束の保証を与えることであった。

13 全地の主 11節にも見られ、繰り返されている。全地の支配者、自然法則さえも支配し、コントロールされる主であることを明らかにする。

祭司たちの足の裏が、ヨルダン川の水の中に踏みとどまる時 奇跡が起る瞬間が予告され、その予告は、厳密にそのまま実行される（15節）。ヨルダン川は、4月の刈入れから5月にかけて、ヘルモン山の雪解けと、春の雨とで、岸まであふれるのが普通。

16 アダム 「赤土の所」の意。エリコの北25キロのところにあるテル・エ・ダーミエと考えられる。

うず高く立ち 流れ来る水がとどめられ、どんなせり上がっていく。川の水をさえぎる見えない壁ができたような状況であろう。

聖書 ヨシユア3:1-17  
タイトル 一歩ふみ出せ！  
中心聖句 箱をかく祭司たちの足が水ぎわにひたると同時に、上から流れくだる水はとどまる。  
ヨシユア3:15、16  
目標 信じて救われた人は、神様とともに挑戦して、約束のものを獲得できることを発見する。

#### 導入

ヨシユアを新しいリーダーとして、新しくされたイスラエルの民は約束の地に入ろうとしています。しかしそのための第一歩は、刈り入れの期間になって、岸一杯にあふれんばかりに流れるヨルダン川を渡ることでした。

#### (起) ストーリーを語る

イスラエルの民は、カナンの地を目の前にして、ヨルダン川のほとりに宿営しました。三日後、私たちはその宿営を行き巡り、「祭司が神様の契約の箱をかきあげるのを見たら、全員そこから出発して、契約の箱の後に従いなさい」、「そうするならば、これから進む道が分かるようになる」と、人々に命じました。これは、神様を信じて救われた人は、神様に導かれて、神様といっしょに進進するということを表しています。

そして、ヨシユアは民に向かって、「あなたがたは身を清めなさい。あす、主があなたがたのうちに身を清めなさい。あす、主があなたがたのうちに身を清めなさい。」

#### ワーク A

##### 導入のヒント

神様を信じる力は、すごい力です。神様に従って一歩踏み出すなら、神様は私たちの信仰を見て、働いてくださいます。神様がそうするとおっしゃったことは、必ずその通りになります。皆さんはどれくらい信じていますか。祭司が、水のいっばい流れている川に足を入れたぐらい、信じていきましよう。

##### ワークについて

①と③と④は水色で塗り、②は茶色で塗ります。④を切りぬぎ、②ののりしろにはりつけ、祭司が渡り始めたら、④を動かして茶色の道が見えるようにしましよう。

#### ワーク B

- 質問1 絵をみて、川の名前を書きましよう。
- 質問2 お話を思い出して、神様はどんなときにみわざを行われたのかを考えましよう。
- 質問3 神様を信じていても、私たちがなにもせずじっとしているなら、みわざは進みません。神様に命じられたように行動を起こしましよう。
- 讃美歌 「明日に向かいチャレンジ」  
(プレイスワールド58番)
- 今日のお祈り 「神様、神様と一緒に、勇気を出して一歩踏み出せるように助けて下さい。」

に不思議を行われるから」と命じました。

次の日、ヨシユアは祭司に向かって、民の先頭に立ってヨルダン川を渡るように命じました。祭司たちはヨシユアの命令に従って、契約の箱をかき上げ、民の先頭に立ってヨルダン川に進んで行きます。そこで、神様はヨシユアに「今日から、あなたをイスラエルの人々の前に尊い者とする」とおっしゃいました。これは、神様がモーセと共に示されたように、ヨシユアと共に示されることを民に示すという意味です。そして、ヨシユアは、民の前で、神様の言葉を伝えました。「生きておられる神様が、あなたの方の中におられて、敵を必ず追い払われる」、「そのしるしとして、契約の箱を担いでいる祭司の足が、ヨルダン川の中に踏みとどまるとき、ヨルダン川はせき止められ、流れてくる水は堰をなして高く立ち上がる」と。

こうして、イスラエルの民はヨルダン川を渡るために天幕を出発しました。祭司たちは、契約の箱を担いで先頭を進みます。そして、なんと祭司の足がヨルダン川の水際に浸ると同時に、上から流れてくる水はせき止められたではありませんか。ヨルダン川は、はるかかなたまで立ち上がり、かわいた川底があらわれました。そして、祭司たちは契約の箱を担いだまま川の中に立ち続け、民の全員がかわいた川底を渡り終えたのです。

#### (承) 学ぶべき真理

モーセに導かれてエジプトを脱出したときのことを思い出してください。紅海が二つに分かれた時、先に海が分かれて、そこをイスラエルの民は

#### ワーク C

●モーセの時の紅海の事件と同様、足を川にふみ入れたら水がせき止められるなどということは、常識では考えられない。これは神の全能と、その神のみ言葉を信頼してこそできる行動である。

●第2問は、当然②が正解であるが、〇してすぐ次へ進まずに、その状況を一緒に想像しながら、ヨシユア、祭司、民の気持ちを考えてみよう。水が分かれても「当然」と表情一つ変えなかったとか、聞いてはいたが「おっどろいたなあ、もう」と目を丸くした、とか…。自分がヨシユアだったら、祭司だったら、と考えてみよう。

●第3〜5問は、日常生活レベルでの信仰の行動を考え、見極めようとするものである。

#### ワーク D

- 質問1 契約の箱は神の臨在のしるしです。神様がいつも先立って導かれることを学びましよう。
- 質問2 身をきよめることは、神様から臨れようとする心を持たないで、ただ神様に信頼して歩むためのスタートです。
- 質問3 祭司が川にふみ出したとき、流れが止まりました。祭司の信仰の決断をじっくり考えて下さい。
- 質問4 子どもたちの決断が信仰の決断になっているか。神様の信仰が働いているか。これらのことを考えましよう。

渡りました。これは、信仰による救いを表しています。神様がすでに下さった御業があって、それを受け取ることが信仰です。しかしヨルダン川がせき止められたときは、祭司たちが川に一歩踏み入れたとき、ヨルダン川はせき止められたのです。これは、神様を信じる者が神様とともに一歩ふみ出して前進するところに、神様の祝福が待っているということを表しています。

これからイスラエルの民は約束の地を獲得してゆかなければなりません。そこには城壁の町があり、巨人や武器を備えた敵がいます。神様が彼らに自動的に勝たせて、約束のものを与えて下さるのではありません。民が神様とともに、神様に導かれて、踏み出していくなら、約束のものを獲得することが出来るのです。

#### (転) 生活への適用

私たちも、神様を信じて、永遠のいのちが与えられたら、それでいっちょあがりではないのです。そこから、いつも神様と共にいて、神様に導かれる生活が始まります。そして、自分のわがままが正されていったり、仲良くできなかった子と仲良くしてゆけたり、お父さんやお母さんの言うことを聞けなかったのが、素直に聞けるようになっていくのです。

#### 結論

皆さんは、神様といっしょにいますか。神様に導かれていますか。神様と共に挑戦していますか。あなたの取るべきものを知り、挑戦しましよう。そこに神様の祝福が待っています。

#### 中高校へのヒント

##### 考えてみよう

- 1 イスラエルの民に先立って進んだものは何ですか。このことは何を意味していますか。
  - 2 イスラエルの民がヨルダンを渡ったのはどのような時期でしたか。また、どうしてそのようなことができたのでしょうか。
  - 3 紅海渡渉とヨルダン渡河とを比較して、共通点や相違点を挙げてみましょう。
  - 4 紅海渡渉とヨルダン渡河は、私たちの信仰生活にとってどのような意味をもっていますか。
- 自分にあてはめてみよう
- 1 あなたがイスラエルの民に先立って進む祭司であつたならば、ヨシユアの命令に対してどうしたでしょうか。
  - 2 主からなすべきことを示されていないながら、一歩踏み出すのをためらっていることはありませんか。そのための原因は何でしょうか。
  - 3 あなたの人生に、ヨルダン川のような試練や困難が立ちだかってきたら、どうしますか。
- 話し合ってみよう
- 1 イスラエルの民がヨシユアの命令に恐れなく従えたのはどうしてでしょうか。
  - 2 ヨルダン川のような困難や試練を打破する秘訣は何でしょうか。
  - 3 信仰によって思い切って一歩踏み出した結果、道が開かれたという体験があれば、分かち合いましよう。



聖書 ヨシユア6・1～8・29  
テーマ エリコとアイ

## 序論

ヨルダン川を渡ったイスラエルの民は、堅固な城壁に囲まれたエリコの町を攻撃せねばならなかった。しかしその前に、主は40年ぶりに神の民のしるしである割礼を施すよう命じられる。敵前で自分の身を傷つけるのは、これからの戦いが人間の力によってなされるものでないことを教えるためであった。また、割礼を受けた者が祝う過越の祭が40年ぶりに行われた。その翌日からマナの降るのがやんだのは、新しい時代に入ったことを示している。ヨシユア自身も、主の軍勢の将に会うことによって、主が先頭に立って戦ってくださると確信したに違いない。出エジプト3・5でのモーセと同様、ヨシユアは自分が立っている地が聖なる所だと知ったのである。

かくして戦いは始まるが、エリコとアイの二つの町で、結果は正反對だった。今日は、何故原因でそうなったのかを学ぼう。朗読箇所は6・15、21と7・2～5に限っても良いだろう。

## 一、エリコの場合

エリコ攻撃の時に主が命じられたのは、軍事的行動ではなく、宗教的行動だった。特に、7日目は安息日と思われるので、この日の行動は、礼拝としてさげられたに違いない。戦争自体が礼拝行為になっているのは、エリコの戦い以外には見られない(『新聖書注解』)。主の箱をかついで町

の周囲を回るといふ行動を見て、敵は不思議に思っただけであらう。余りにも馬鹿らしいので、戦う気にならなかったかもしれない。その結果、エリコの町からの攻撃がなかったで、味方の血を流すことなくしてエリコを占領することができた。この出来事は、主が軍勢の将である明確なしるしであった。前日の経験があったからこそ、ヨシユアは、主の言葉にそのまま服従できた。人の目にはどんなに馬鹿げたことのように見えても、主の言葉に従うことこそ、勝利の秘訣なのである。

## 二、アイの場合

しかし、ヨシユアが八この町と、その中のすべてのものは、主への奉納物として滅ぼされなければならぬと命じたことは、守られなかった。そのことが、次の町アイの攻略で悲惨な結果を招くことになる。いつの世も、主の聖言に従わないことが、祝福を受け取れない原因となる。

エリコの西北西八キロの所にあったアイは、小さな町だった。勝利に酔っていた彼らは、主の計画を伺おうともせず、偵察隊の報告を聞いてアイをなめてかかり、3千人の兵士で攻め上った。しかし結果は大敗北である。ヨシユアの切実な祈りに、主は八立ちなさい。あなたはこうして、そのようにひれ伏しているのかと答えられた。敗北の時に、「神は祈りを望みたまいます。敗北の原因を探るように求めたまいます」(『バックストン説教集』35頁)。

敗北の原因は、民の一人が八奉納物を取り、盗み、かつ偽って、それを自分の所有物のうち入れ

たことだった。そこでヨシユアは、その罪を犯したアカンを探し出し、彼を罰したのである。その後、ヨシユアは主の言葉に従って、再度アイを攻撃した。主が示された方法は、エリコの場合と全く違っていた。いくさびとを総動員し、さらに前の夜に3万人の伏兵を置くという、巧妙な軍事作戦である。この作戦中、ヨシユアは、あなたの手にあるなげやりを、アイの方にさし伸べなさいとの主の言葉に従い通した。これは祈りを意味している。エジプト脱出の後、アマレク人との戦いの時にモーセがしたこと、ヨシユアもしたのだ(出エジプト17・8～16)。聖言に対する従順によって、イスラエルの民はアイも攻略することができたのである。

## 結論

エリコの場合とアイの場合を比較してみると、様々な違いがある。しかし、神に従ったときに勝利を得ることができた点では、全く同じだ。神の御旨を祈り求め、それを知ること、また神の計画が自分の経験から見えて不思議であっても、自分の思いや願いとどんなに異なっていたとしても、それに従うことが勝利の秘訣である。

逆に、敗北の原因は不従順である。一人の不従順が民全体に影響を及ぼす。罪は、取り除かれねばならない。罪を取り除き、聖言に従うことが、イスラエルの民がきよさを維持する原則であった。そうすれば、彼らは祝福を受け取ることができ、その祝福は異邦人にも及ぶのである。

## 研究資料

(長田)

## 勝利の秘訣

イスラエルの民がヨルダンを渡った後の二つの戦いは、私たちに、勝利の秘訣はただ神に従うこと以外にないことを教える。

エリコとの戦いにおいて、神に従うことは愚かしくさえ見えだに違いない。1日に1回、ラッパを鳴り響かせつつ、黙って城の周囲を回ること、7日目に7回まわること、最後に、大声をあげて叫ぶこと等に、どんな合理的意味を見出すことができるであろうか。しかし、そのことを果たした時、イスラエルの民は圧倒的勝利を得た。

小さな町アイとの戦いにおいては、イスラエルは余裕の勝利であろうと考えた。しかし、一人の人の不従順が隠されていたため、戦いはじめに敗北に終わる。その罪が正しく処置されて初めて、戦いに勝利を得ることができた。

現代の教会の働きにおける勝利も、一人ひとりが聖霊の御声に耳を澄まし、そこに従っていくこと以外にない。「これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである」(ゼカリヤ4・6)。

## テキスト

6・1 かたく閉ざして 彼らは、イスラエルの背後にある主の偉大な働きを聞いて震えおののいていた(2・9～11、5・1)。

2 エリコを、あなたの手にわたしている 主

にあつては、戦いの前に勝敗は決している。

4 七人の祭司…七日目…七度町を巡り 7の数字は、完全を意味する(ラッパの数も6節)。中途半端でなく、完全な従順こそが勝利の鍵。

10 あなたがたは呼ばわってほならない 時が来るまで、いたずらに騒ぐことなく、静かに主を待ち望むことは、勝利の秘訣である(イザヤ7・4、30・15)。

17 奉納物 新改訳聖書では、「聖絶」と訳されている。ヘブル語「ヘーレム」の訳語。ここでは、カナン地の偶像宗教によって迷わされ、きよい民であることを損なわないように、滅ぼし尽くすべきものとの意。

18 滅ぼさるべきもの ここも、「ヘーレム」。滅ぼすべきものを滅ぼさないなら、イスラエルの民全体が滅ぼされるべきものとなる。

20 大声をあげて呼ばわったので、石がきはくずれ落ちた 主に従った故に、主が石垣を崩された。

7・1 アカン 「わざわいをもたらす」の意。

3 ただ二、三千人を上らせて、アイを撃たせなさい。彼らは少ないのですから…偵察隊のこの言葉には、エリコ勝利による慢心が色濃く伺える。小事に当たる時にも、主の御心を注意深く伺うことが大切である。

5 民の心は消えて水のようにになった 数の上では大敗北というわけではなかったが、慢心があっただけに、精神的なショックが大きかった。

11 イスラエルは罪を犯し 絶望の内に嘆き訴えるヨシユアに、敗北の原因が告げられる。神の側

に約束への不真実があつたのでなく、イスラエルの側の罪が原因であつた。

13 その滅ぼされるべきものを、あなたがたのうちから除き去るまでは、敵に当たることはできないであろう 敗北の原因が罪にあるならば、罪を悔い改め、取り除く以外に勝利の道はない。

19 あなたのしたことを今わたしに告げなさい。わたしに隠してはならない 罪は、まず神の御前に明るみに出されなければならない。

22 使者たちが天幕に走っていつて見ると 罪の処置は迅速に行われるべきである。

26 アコル 「アール」(「悩ます」の意)の変形(25節)。

8・1 恐れてはならない、おののいてはならない 罪が正しく処理されたなら、もはや恐れることなく、勝利の確信をもって進むことができる。

2 あなたはまず、町のうしろに伏兵を置きなさい 主は勝利のための具体的方法を無限に持っておられる。私たちは、その時々、主の方法を教えて頂かなければならない。

6 彼らは言うであろう、『この人々はまた前のように、われわれの前から逃げていく』 私たちが罪を悔い改めて進むとき、主は過去の失敗をも用いて、勝利を与えて下さる。

18 あなたの手にあるなげやりを、アイの方にさし伸べなさい 伏兵に対する合図であると共に、全軍に対して、アイを滅ぼし尽くすようにとの主のご命令を指し示すものであった(26節)。

聖書 ヨシユア6・1-8・29  
タイトル 失敗のわけ！  
中心聖句 その滅ぼされるべきものを、あなたがたのうちから滅ぼし去るの  
なければ、わたしはもはやあなた  
がたとは共にいない。  
ヨシユア7・12  
目標 罪と高慢によって、神の祝福を受  
け取れなくなることを発見する。

導入

約束の地を獲得していくことが、ヨシユアとイスラエルの民のこれからの仕事でした。しかし、それを妨げることが次々に起きてきます。

(起) ストーリーを語る

イスラエルの民が、ヨルダン川を渡ってやってきたのは、頑丈な城壁のあるエリコの町です。この町はしっかりした城壁に囲まれており、門を固く閉ざしていました。神様はヨシユアに、この町を攻め取るため、非常に変った方法を教えられました。それは、武装した者を先頭に、その後を角笛(ラッパ)を持った祭司、その後を契約の箱を担いだ祭司、最後に再び武装した者で、エリコの町の城壁の外をぐるっと回るのです。そして6日間、一日一回だけ黙って歩き、7日目には、7回、回ります。その後、祭司が角笛を長く鳴らし続けるのが聞こえたら、民が一斉に大声を上げると、エリコの城壁が自ら壊れ落ちるといいます。そ

れから神様は、以前にイスラエルの偵察を助けたラハブの一家を助けること、町を占領したら、すべての物は、神様への捧げ物として、自分の物にしてはならないことを命じられました。

イスラエルの民は、この言葉のとおりに従いました。黙って6日間、一日一回、城壁の回りを歩きました。そうしてとうとう7日目です。7回、町を回りました。そして祭司が角笛を長く鳴らし続けるのが聞こえました。民は一斉に大声をあげます。すると、何と城壁がガラガラと崩れていくではありませんか。神様は約束どおり、その町を占領させてくださいました。

こうして大勝利を得たイスラエルの民は、次のアイの町の占領に自信を持って向かいます。ヨシユアは、アイの町を偵察に行かせました。彼らは、アイは小さい町なので、全員で行かなくても、2、3千人で大丈夫だと報告しました。ところが、いざ3千人で攻めてみると、まったく歯が立たず、彼らはアイから逃げ帰ってきたのです。ヨシユアは衣を裂いて、神様に祈りました。すると神様は、惨敗した原因が神様の命令に逆らって、エリコの町の奉納物を盗んだからであることを告げられました。次の朝、ヨシユアは、神様の命令に従って、イスラエルの民を部族ごとに集め、くじを引かせました。すると、ユダの部族の中の、アカンに当たったのです。ヨシユアがアカンに問うと、アカンは盗んだ外資、銀や金の延べ棒を隠していることを白状しました。そして彼らが、彼の住まいから発見されました。そのためアカンと家族は、家畜や持ち物とともに、アカルの谷に引いて行か

れ、石打ちに処せられ、火で焼かれました。

そこで神様は改めてヨシユアにアイを攻める方法を授けられました。ヨシユアは、神様に教えられたとおり、3万人の大勇士を選び、夜の間に出行きました。そして、伏兵5千人を隠しておいて、正面からアイを攻めました。それから一旦はまた、逃げるふりをしました。アイの人々は、調子にのってイスラエルの兵を追いかけ、まんまと町からおびき出されてしまいました。そしてヨシユアの合図で、隠れていた伏兵は、誰もいないアイの町を攻め、火をつけます。逃げるふりをした3万人の大勇士は反転して、町から出てきた兵を挟み撃ちに、アイの町を滅ぼし尽くしました。

(承) 学ぶべき真理

神様は、約束のものを何とかして与えたいのですが、人の方がそれを受け取らないことがあります。それは、神様の聖言を聞かず、自分勝手に行動するからです。罪を犯して、神様と交わらず、高慢になって神様の声を聞かないからです。

(転) 生活への適用

プログラムを作るときさえ順序がありますね。自分勝手なことをしていたら失敗します。

結論

神様の祝福を受け取るにも順序があります。まずしなければならぬことが、罪の悔い改めです。罪を悔い改めて、きよくされて、神様の前に正直に出るようになるなら、神様の聖言を聞くことができます。そうして、聖言に従うことによって、約束のものを受け取ることができるのです。

ワーク A

導入のヒント

神様は、思いもよらない方法で助けてくださる方です。でも、私たちが信じて従わなかったら、神様のわざを見ることはできません。どんなことも信じて、そのように従って行きましょう。

ワークについて

劇遊びをしましょう。ラッパを作ります。バスオオルを頭に巻き、ひもでしばります。箱を担いだ教師を先頭に、ラッパをふきながら城役の子の周りを回ります。7回まわったら、城役の子が倒れるのもおもしろいでしょう。

ワーク B

●質問1 戦いに負けた原因が、民のひとりであるアカンの罪にあることを知ります。

●質問2 神様は、罪を何よりもきらわれます。神様の言うことを聞かないことも罪です。どんなに小さくても、罪があるなら、神様は共にいて下さいません。

●質問3 子どもたちの心の中に実際に罪があるなら、神様は共にいて下さらず、助けてもらえないことを伝えましょう。罪があると答えた子どもと一緒に祈ってあげて下さい。

讃美歌 「みことばよくきいて」

●今日のお祈り 「神様、私の心の中の罪を告白します。どうか赦して、私と共にいて下さい。」

ワーク C

●第1問では、2つの町との戦い方の違いを調べる。町自体は、エリコのほうが強固で強く、大きく、人数も多い町であることを、聖書を見ながら確認する。「この大きな町エリコに大勝したのだから、小さなアイの町など簡単にやつつけられると思うのは当然だね。君ならどう思う?」「でも、実際はどうだったかな?」と問うてみよう。

●第2問。アイに負けた理由は、①自分の力でやろうとしたこと、②盗みという罪を犯していたことだね。その罪を悔い改めて、取り除いた時に、勝利を収めることができたんだね。小さなことでも大きなことでも、勝利は自分の力によるのでなく、神の力によることがわかるね。

ワーク D

●質問1 エリコ攻略は信仰による勝利でした。しかし勝利という喜びが間違った安心に向かうとき、傲慢やおごりになりやすいものです。

●質問2 エリコでの経験が正しく生かされず、アイ攻略を安易な考えで進めてしまいました。さらに、別の罪も招きます。これらのことの悔い改めなしに、勝利はありません。

●質問3 神様の祝福を閉ざすものを考えて下さい。

中高校へのヒント

考えてみよう

1 エリコとの戦いを前に、イスラエルの民は割礼を受けて過越の祭を行い、ヨシユアは足のくつを脱ぎました。これらは何を意味する行動ですか。

2 堅固なエリコを難なく占領できたのはどうしてですか。

3 アイとの戦いで予想外の敗北を喫したのはどうしてですか。

4 アイとの二度目の戦いで勝利できたのはどうしてですか。

●自分にあてはめてみよう

1 主の御心や方法が、自分の理解を超えたものだったら、あなたはどうしますか。

2 あなたの信仰生活において、予想外の勝利を得たのはどのようなときですか。逆に、予想外の敗北を喫したのは、どのようなときですか。また、その原因はどこにありましたか。

3 敗北した後、あなたはどうしましたか。

●話し合ってみよう

1 敗北したままで、勝利できないのは、どのような場合でしょうか。

2 勝利し続ける秘訣は何でしょうか。

3 信仰の戦いに勝利した体験や敗北した体験、敗北を勝利に変えることができた体験があれば、分かち合いましょう。



聖書 士師6・1-7・25  
主題 ギデオン

## 序論

ヨシユアの指導の下に、イスラエルの民は約束の地を占領したが、神の言葉に従わず、先住民を追いつきなかつた。その結果、彼らは次第に先住民の偶像を拜むようになってしまった。そこで神は、周囲の異民族によって、彼らを苦しめられた。この時、彼らはようやく神に叫び求め、神は、士師と呼ばれる指導者を遣わされたのである。しかし、イスラエルの民は、平和がもどると、またしても背信の道をたどり、同じパターンを何度も繰り返す有様であった。かくして、士師記には、合計12人の士師が登場する。その内、今週はギデオン、来週はサムソンを取り上げ、約束の地で墮落した選民を、神がどのように救われたかを学びたい。朗読箇所は、6・11-40にしてもよい。

## 一、自分の弱さを知る

ミデアン人は、ヨルダン川の東からモアブの野にまで広く住んでおり、しばしばカナンの地に侵入して収穫物を略奪していた。ギデオンは、彼らに見つかからないよう、石灰岩をくりぬいて造った酒ぶねの中で、収穫した麦束を打ち、穀と実を分けていた。このことから、ギデオンは最初から勇敢な人ではなく、むしろ臆病だったことがわかる。しかし主の使いは、そんな彼に「大勇士よ、主はあなたと共にいます」と声をかけられ、また「ミデアンびとの手からイスラエルを救い出しな

さい」とも命じられた。しかし彼は、自分は弱い者だからそんなことはできない、と断ろうとした。神は、自分の弱さを認める者を用いられる。モーセも、イザヤも、エゼキヤもそうだった。主の使いが「大勇士よ」と言ったのは、主イエスがシモンをペテロ（岩）と呼ばれたのと同じような意味があるのではないだろうか。

## 二、神の強さを知る

ギデオンが、「わたしと語るのがあなたであるというしるしを見せてください」と言ったのは、神を疑ったのではなく、自分を疑ったのである。彼が貧しい中からやりくりして用意したごちそうは、み使いのつえによって、焼きつくされた。彼は、このしるしから、このことが主から出たことであると知った。ミデアン人と戦う直前にも、ギデオンは、羊の毛の上にだけ露が下ったり、下らなかったりするよう、主に願った。神が、わたしの手によってイスラエルを救おうとされることを、確かめようとしたのである。彼は、主の力によらなければ、決して勝てないことを知っていた。しかし、その戦いが自分の勝手な欲望や妄想であつてはならない。本当にそのことが神から出たことかどうかを確かめることは、不信仰ではない。私たちも、神のみこころを慎重に聞いてから、行動すべきである。

## 三、神の言葉に従う

イスラエルの民は、ミデアン人から救い出される前に、まず聖別されねばならなかった。それは、

## 研究資料

(長田)

## 大勇士ギデオン

「あなたがたのすきを、つるぎに、あなたがたのかまを、やりに打ちかえよ。弱い者に『わたしは勇士である』と言わせよ」(ヨエル3・10)。  
神は、ご自身の戦いのために、どんな弱い者をもお用いになることができる。彼が、主に信頼し、主に従う者であるならば…。ギデオンは、まさにそういう人物であった(ヘブル11・32-34)。ミデアン人の手がイスラエルを圧迫し、苦しめる中、彼は、ミデアン人の目を避けて、酒ぶねで麦を打つような小心な人物。しかし、神は、彼に「大勇士よ」と語りかけ、彼をイスラエル救済のリーダーとしてお召しになる。彼は、自分の無力を承知の上で、主と共にいて彼に勝利を与えろとのみ言葉に立って、その召しを引き受け、与えられた使命を見事に果たしていく。  
神は、現代も、教会の中に、神のために勇気をもって戦うギデオンを求めておられる。

## テキスト

6・1 … 悪をおこなったので、主は彼らを七年の間ミデアンびとの手にわたされた。人々の間に罪がある時、主は、悪魔が人々を苦しめることをも許されることがある。  
7 イスラエルの人々がミデアンびとのゆえに、主に呼ばわったとき、士師記では、イスラエルの

罪、周辺諸民族によるさばき、悩み、救いを求める叫び、というサイクルが繰り返される(3・15、4・3、10・10等)。

11 主の使 普通の人のような姿で現れているが、14節などでは、「主」とも呼ばれる。

酒ぶね ぶどう酒を醸造する際に、ぶどうの実を踏み、圧搾する槽。自然の石灰岩床に掘り込まれた深さ60センチほどの箱型の穴で、底の小穴から液が下方の受容槽に流れ込む。

12 大勇士よ 11節で示されているギデオンの姿からは予想もつかない主の言葉。神の召しは、人間の考えをはるかに超えている。

主はあなたと共におられます 主と共にいて下さることは、主の働きへの召しの前提であり、召しのための保証である(出エジプト3・12、ルカ1・28等)。

13 どうしてこれらの事が ギデオンは、イスラエルが神の民でありながら、みじめな状態であることの不合理を訴えている。主の栄光が現されることへの飢え渇きのある人を、主はお用いになる。  
14 あなたはこのあなたの力をもって行って イスラエルの現状を訴えるギデオンに対し、主は「あなたが救え」と迫られる。

16 わたしがあなたと共にあるから、ひとりを撃つようにミデアンびとを撃つことができるでしょう 主は、弱く小さい者であることを訴えるギデオン(15節)に対して、主と共におられることによって、いかに弱い者が強い者となるかに、目を向けさせておられる。

まずギデオンの身近な所から始まった。彼は、父親のもっていたアシラ像を切り倒し、またバアルの祭壇も打ちこわした。相当の勇気が必要だったと思われるが、彼は神の言葉に実直に従ったのである。これは神から出たことだという確信があったのだ。町の人々はこれを知って怒ったが、父親は彼の味方になった。臆病な息子が大きく変わったことに気づいたからに違いない。

ミデアン人との戦いにおいても、彼は神の言葉に百パーセント従った。敵の兵力は13万5千人もあるのに(8・10)、こちらは3万2千人。しかし主は、あなたと共にいる民はあまりに多いと仰せられる。そして1万人に、ついには3百人にまで減らされたのである。イスラエルの民が、あなた自身の手で自分を救ったのだと言わないために、主はそう命じられたのだ。

ギデオンは、主の言葉に従って、ラッパとからつぽとたいまつで、敵と戦った。エリコの攻撃と似ている。勝利は武器ではなく、主の言葉への従順によってもたらされるのである。

## 結論

イスラエルの民は、神の命令に背いて、すべてのカナン人を討ち滅ぼすことをしなかった。しかし神は、カナン人を強制排除されることもなかった。それは、イスラエルが主の道を守ってそれに歩むかどうかをわたしが試みるためだったと記されている(2・22)。神はギデオンのように、神の言葉に慎重に従うことによって敵に勝利し、きよくされていくよう導いておられるのである。

17 しるしを見せてください ギデオンは、自らの信仰が励まされるために、たびたびしるしを求め(6・36、37、39)、主の方からまた、彼のためにしるしを与えなされた(7・9-15)。この時も、ギデオンが備えた肉とパンを焼き尽くすことにより、彼は、自分と語るのが主の使いであるとの確信を得た(19・22)。

25 父のもっているバアルの祭壇を打ちこわし 主は、大きな戦いへの前哨戦として、小さな働きを求められた。小さな働きを忠実に全うするかどうかで、主への信仰と従順が試され、将来の働きのために備えられていく。ギデオンは、人々への恐れと戦いながらも(27節)、与えられた使命を果たす。

34 主の霊がギデオンに臨み 臆病なギデオンも、聖霊に満たされた時、ミデアンびとへの戦いを召集することができた。聖霊は、弱く臆病な人をも強くし、大胆になさる(IIテモテ1・7)。  
7・2 あなたと共にいる民はあまりに多い 主は、人間の力が誇られる可能性のあるところでは、大きな働きをなさらない。

3 恐れおののく者は帰れ 主のための戦いにおいて、恐れはまず第一に排除すべきもの。  
7 水をなめた三百人の者をもって 主は、常に悪魔の働きに対してすきを見せない人々を用いられる。

15 立てよ、主はミデアンの軍勢をあなたがたの手にわたされる 主から直接勝利の確信を与えられた者だけが、確信をもって人々を立ち上げることができる。

聖書 士師6・11～40  
タイトル その力のまま行け！  
中心聖句 あなたはこのあなたの力をもって行って、ミデアンびとの手からイスラエルを救い出さない。

士師6・14  
目標 聖言どおりに挑戦すると、弱い者でも神様に用いられ、敵を打ち破れることを発見する。

導入

カナンの地を占領したイスラエルの民は、ヨシユアの死後、だんだん神様に従わないで、カナン人たちの信じる偶像を拜むようになってゆきました。それは、神様が全部を滅ぼしなさいとおっしゃっていたカナン人を滅ぼさずにいたためです。その結果、敵に支配されることが多くなってきました。民はそのたびに神様に祈り、神様は士師と呼ばれる指導者をおこして、民を救われました。

(起) ストーリーを語る

カナンの地にはミデアン人がいて、イスラエル人は彼らに作物をたびたび奪われていました。そのためギデオンという若者は、ミデアン人に見つからないように、こっそり酒ぶねに隠れて麦を打っていました。そこに突然主の使いが現れて、「大勇士よ、主はあなたと共にあられます」と告げたのです。これを聞いたギデオンはとても驚きました。主の使いは、「あなたは、その力をもって行っ

て、ミデアン人からイスラエルを救い出さない」と伝えました。ギデオンはもって驚いて、「とんでもない。自分はマナセ部族でも一番小さく弱いのです」と言って断りました。しかし主は、「わたしが共にいるから、ミデアン人全員をも、たった一人のようにして負かすことができる」と太鼓判を押されたのです。そこで彼は、このことが自分の思い違いでなく、本当に神様からの命令であることを確認するために、しるしを求めました。主の使いは、ギデオンの用意した山羊の肉とパンの供え物を岩の上に置かせ、岩から火を燃え上らせて、それを焼き尽くすしるしを見せました。そこでギデオンは、この約束と命令が神様からのものであると確信しました。

その夜ギデオンは神様の命令どおり、自分の父が祭っていたバアルの祭壇を打ち壊し、アシラ像を切り倒しました。しかし、父や村人は結局ギデオンを責めることができませんでした。

そして、いよいよミデアン人との戦いのために、ギデオンは仲間を集めました。そこで彼は、もう一度、神様のしるしを求めました。一度目は、地においた羊の毛だけが露で濡れるように、次は反対に羊の毛だけを乾かして、地面が露で濡れているようにすることです。神様は、ギデオンが求めたしるしをそのとおり与えて下さいました。

ところが、戦う相手のミデアン軍は13万5千人、対するギデオンたちは、3万2千人でした。にもかかわらず、神様は兵を減らしなさいとおっしゃいます。それはイスラエル人に「神の手ではなく、自分の力で自分を救った」と言わせなためでした。まず、恐れおののく者を帰らせました。する

と1万人になってしまいました。そして、水を飲むとき膝を突いて飲んだ者を帰らせました。残ったのは3百人です。そして、戦いの夜を迎えました。神様が教えて下さったように、武器はラッパと、たいまつを中に入れた空の壺です。100人ずつ3組に分かれ、敵を囲み、合図で一斉にラッパの音を響かせ、壺を砕きました。夜の闇に突然の騒音とたいまつが広がったので、ミデアン軍はすっかりあわててしまい、同志討ちを始めました。そしてとうとう逃げ出してしまったのです。ギデオンたちは、たった3百人で13万5千人のミデアン軍に勝利することができたのです。

(承) 学ぶべき真理

神様は、ギデオンのように弱い人も用いられます。神様が共にいて、力を与えてくださるからです。神様の戦いでは、人数の多さや肉体の強さで勝敗は決まりません。それは、聖言を慎重に聞くこと、間違いない神様の御心とわかったら、そのとおり挑戦することによって決まるのです。

(転) 生活への適応

あなたは、本当の強さを持っていますか。ケン力が強いといったことでなく、神様に聞いて、挑戦する勇氣のことです。では、いじめられている子がいたら、助けてあげますか。

結論

神様を信じている人でも、自分の力を信頼し、神ならぬものを神とすると墮落してゆきます。しかし、自分の弱さをちゃんと知って、神様の聖言を慎重に聞き、それに挑戦してゆくとき、どんな敵にも打ち勝てるのです。

中高校へのヒント

●考えてみよう

- 1 イスラエルの民がミデアンびとに苦しめられるようになったのはどうしてですか。
- 2 ギデオンはどのような性格の人だと言えるでしょうか。
- 3 ギデオンが二度も主にしるしを求めたのはどうしてですか。
- 4 主がギデオン軍を3百人にまで減らされたのはどうしてですか。

●自分にあてはめてみよう

- 1 主はギデオン軍を減らすよう命じられましたが、あなたがギデオンの立場であればどうしたでしょうか。
  - 2 あなたが臆病になっているところ、弱さに失望しているところはありませんか。なぜ臆病になったり、失望したりするのでしょうか。
  - 3 主はあなたの臆病や弱さをどう見ておられるでしょうか。
  - 4 臆病や弱さを乗り越えて、信仰の戦いに勝利するためには、どうしたらよいでしょうか。
- 話し合ってみよう
- 1 主の御心を知るためには、どうしたらよいでしょうか。
  - 2 主はどうして人に弱さを与えられるのでしょうか。
  - 3 主によって弱さを克服し、勝利した体験があれば、分かち合いましょう。

ワーク A

●導入のヒント

イスラエルの人たちは、何度も神様を裏切っていたのに、困ったことが起こると、「神様、助けてください」と叫びました。神様はそのたびに、いろいろな人々をおくって助けてくださいました。ギデオンさんもその一人です。ギデオンさんは、こわがりだったのですが、神様を信じて従ったので、たくさん敵に勝つことができました。私たちも神様を信じて、強くなりましょう。

●ワークについて

サイコロを作りましょう。色を塗ってください。順にサイコロを振り、読める子に字を読んでもらうのも良い。たいまつが出た人があがりです。

ワーク B

- 質問1 士師として神様に用いられたギデオンですが、臆病で無力でした。だからこそ神様に頼り、神様に従ったのです。
- 質問2 勝利の力は人間でなく、神様にあります。
- 質問3 子どもたちは生活の中で神様に助けていただく必要を感じているでしょうか。「神様がいないくても平気」と答えた子どもには、「こんなときはどうか？」と質問してみてください。

●讃美歌 「ちいさいときから」

(ふくいんこどもさんびか38番)

ワーク C

●今日のお祈り 「神様、私は小さくて弱いですが、だから神様のことに従います。神様の力によって勝利を与えてください。」

●「このあなたの力」を説明する必要がある。ギデオンのこの力は見栄えの良い力ではなく、11節にあるように、敵の目を避けて酒ぶねの中に隠れているような力。「力」というより「弱さ」といったほうがぴったりである。そのギデオンが大臣を果たせた秘訣は、16節「わたしがあなたと共にあるから」という神の御臨在と神の力。「自己の無能、神の全能」とよく言われる。『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる』。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。(Ⅱコリント12・9)。

ワーク D

- 質問1 ギデオンはこっそり隠れていたが、何度か神様の命令を確かめるような弱い人でした。
- 質問2 神様は「あなたのその力」をもっていくようにとギデオンが自身が否定している力さえも用いられました。
- 質問3 弱さや自身のなさも神様は「存じの上で、導かれます」。



聖書 士師13・1～16・31  
主題 サムソン

## 序論

サムソンについては、ギデオンと同じく4つの章を用いて詳述される。サムソンは、12番目の士師である。彼はギデオンと対照的に、豪胆で剛力の持ち主であった。しかし、この強さが彼に不幸をもたらしたことに注目したい。彼の生涯は、両親の祈りによって与えられた聖別を失っていくプロセスとすることができ。子どもたちを養育すべき立場にある教師たちにとっても、意義深い箇所である。朗読箇所は、14章に限ってもよい。

## 一、聖別された誕生

イスラエルの民が再び悪を行なったのでペリシテ人の手に陥っていた頃、信仰深いマノアの子として、サムソンは誕生した。誕生の前に現れた主の使いの言葉によって、彼は、ナジル人として育てられた。ナジル人の特徴は、①酒を飲まない、②汚れたものを食べない、③髪をそらない、というものであった。民数記6章では、②が「死体に近づかない」という条件になっているが、身を汚さないという意味では同じと考えてよいだろう。

信仰深い両親から生まれる子は幸いだ。誕生前から祈られ、誕生後も祈りの中で育てられる。しかし、どんなに両親の信仰があつても、子どもがそれを受け継がない場合もある。

## 研究資料

(長田)

## 聖別による力

「もし人が卑しいものを取り去って自分をきよめるなら、彼は尊いきよめられた者となる。主人に役立つものとなり、すべての良いわざに間に合うようになる」(IIテモテ2・21)。

主のための奉仕において、力ある働きをするための必須条件は、世のもの、肉の思いから聖別されることである。どんなに賜物が豊かであり、一時的に力ある働きができたとしても、聖別された生活がなければ、主の働きに用いられ続けることはできない。サムソンの生涯は、明確に私たちにそのことを教えている。

## テキスト

13・1 ペリシテびと この時代(士師時代後期)より、サムエル、サウルの時代まで、イスラエルの最大の強敵となった。

5 生れた時から神にささげられたナジルびと ナジル人は、民数記6章に記される3つの誓願(聖書講解参照)により、自らを神にささげた者。一定期間だけのナジル人もあったが、サムソン、サムエル(サムエル1・11)、バプテスマのヨハネ(ルカ1・15)などは、生涯ナジル人として生きたと考えられる。

8 わたしたちがその生れる子になすべきことを教えさせてください 父マノアのこの祈りは、子

## 二、聖別をそこなう生活

サムソンが青年になったとき、彼はハペリシテびとの娘で、テムナに住むひとりの女を見た。彼女と結婚したいと言った彼は、「異教徒の妻を迎えるのはやめよ」と父母は諭すが、彼は聞き入れようとはしなかった。

さらに彼は、父母に内緒で、自分が殺したライオンの死体から蜜をとって食べた。これは、②の条件を破る行為だった。

また、当時のならわしに従って、結婚式のふるまいをした。当然どう酒も出され、サムソンも飲んだに違いない。①の条件も破られたのだ。聖別された生活をすべきなのに、彼は一つ一つそれを失っていった。ついには、酔った勢いで出したなぞ解きがきっかけで、彼はペリシテの町に暴虐を働くことになる。女が泣いて求めるので、なぞの答えを打ち明けたことは、後のデリラの場合と同様、彼の本質的な弱さをあらわしている。

ペリシテ人との戦いは、さらにエスカレートしていく。主の霊が激しく彼に臨んだので、彼は剛力でペリシテ人に向かっていった。しかし、彼の生活に祈りはなかった。いや正確には、15・18に一度だけ祈っているが、それは水を求める勝手な祈りでしかない。

そしてサムソンの悲劇は、デリラという女を愛したところでクライマックスに達する。ソレクの谷に住んでいた彼女は、多分ペリシテ人だったろう。彼女は賄賂に動かされて、サムソンの力の秘密を探り出そうとした。3度はこまかしたサムソンも、彼女の執拗な迫りに耐えきれず、ついに真

相を話してしまう。ナジル人の条件③であった長い髪の毛をそられてしまった彼には、もう何の力もなかった。サムソンは、主が自分を去られたことを知らなかったVのである。

神を信じる人の力は、神の臨在による。聖別を損なっていくなら神の臨在が失われ、そして力も失っていくのだ。サムソンは、約束の地でのイスラエルの姿をそのまま表している。

## 三、聖別を回復した最期

「目の欲に従った彼は目をくりぬかれた」(小島伊助全集126頁)。聖別を失った彼は、ペリシテ人の笑いものにされるために、ダゴンの神殿に引き出される。しかし、彼の髪はふたたび伸び出していた。そして、主の霊が再び彼に臨み、彼を強くしてVくださいと祈り、神殿の柱をへし折ったのである。彼はペリシテ人とともに死んでしまった。しかしここに、祈りにこたえ、回復を与えられる神の憐れみを見ることができよう。神は、悔い改めて再び神に従う者に、回復を与えようとしておられるのである。

## 結論

サムソンの生涯は、イスラエルの姿を描いている。きよい神の民でありながら、そのことを忘れ、汚れてしまった民にも、神の憐れみは残されている。悔い改めて、「もう一度、強くしてください」と祈る態度が必要なのだ。ギデオンのように慎重にみこころを聞いて従うこと、またサムソンのように悔い改めて神の憐れみを求めることが、約束の地で墮落してしまった者の回復の道である。

育てに当たろうとするすべてのクリスチャンの祈りであるべきだろう。

14 わたしが彼女に命じたことは皆、守らせなければなりません 子育ての第一は、親自身の聖別(罪から遠ざかること)と、子の聖別(罪から遠ざかること)である。

18 わたしの名は不思議 イザヤ9・6で預言される男の子の名も、「霊妙なる議士(不思議な助言者、新改訳)」、「不思議、助言者」と分けて訳すことも可能。主のみわざは、常に不思議。

25 主の霊は：初めて彼を感動させた 新改訳では「揺り動かした」とある。主の霊による力が彼の内に働き始めた。

14・4 父母はこの事が主から出たものであることを知らなかった テムナの女に関わる一連の出来事(14・1～15・19)には、その後顕著になる彼の弱さに関連する面が多々見られるが、主の霊の激しい働き(14・19、15・14)と共に、すべてのことの背後に主の摂理の御手が働いて、ペリシテ人に対する勝利につながるものとなった。

15・16ろばのあご骨 主の霊の働くところ、何の変哲もないものであっても、大きく用いられる。

16・1 サムソンはガザへ行って この短い挿話は、サムソンの異常な力と同時に、彼の働きの破綻の原因となるべき弱さをも、明確に示している。

4 デリラ おそらくはペリシテ人の女性。

5 彼の大力はどこにあるのか ペリシテ人たちも、彼の異常な力が、単に肉体の強靱さだけにによるものでないことに気づいたのであろう。

13 わたしの髪の毛七ふさを：1度目(7本の新しい弓弦で縛る)、2度目(用いたことのない新しい綱をもって縛る)のうそに対して、3度目のうそは、彼の髪の毛に力の秘密があることをもらしてしまっている。

16 女は毎日その言葉をもって彼に迫り促した 明確な聖別がなされていないところでは、悪魔は執拗な誘惑を繰り返す、ついにその力を奪うことに成功する。

17 もし髪をそり落とされたなら、わたしの力は去って弱くなり、ほかの人のようになるでしょう 聖別を失うことの結果を知っているながら、彼はそれを防ぎ得なかった。

20 「わたしはいつもこのように：」彼は主が自分を去られたことを知らなかった 主が去ってしまったことに気づかない者の悲劇。

21 両眼をえぐり：青銅の足かせをかけて彼をつないだ 聖別を失うことの結果は、霊的な目が閉ざされ、神を親しく見ることができなくなる。悪魔の束縛下にあつて、クリスチャンとしての力強い歩みを失うこと。

22 髪の毛は：ふたたび伸び始めた 獄中の生活のみじめさの中で、心碎かれ悔い改めて、神に訴え叫ぶ日々があつたであろう。そのような日々の中から、神の新しいみわざが備えられる。

28 ああ、神よ、どうぞもう一度 最後に、神から与えられた使命を、死の代償を払ってでも(30節)果たそうとして、神に訴える。彼の魂の叫びに対して、主はあわれみをもって応えられる。

聖書 士師14・1-20  
タイトル 約束を破っていくと……  
中心聖句 その子は生れた時から神にささげられたナシルびとです。  
目 標 神の約束を破って神から離れても、悔い改めるなら回復することを発見する。  
士師13・5

導入  
人はどのようにして神様から離れ、どのように回復されるのでしょうか。

(起) ストーリーを語る

ある日、主の使いがマノアの奥さんに現れて、男の子が生まれると告げました。そして、その子はナシル人と呼ばれる神様のご用のために働く人になると言い、ナシル人の守るべき約束を教えました。それは、ぶどう酒や濃いお酒を飲んではいけない、汚れた食べ物を食べてはいけない、髪の毛をそってはいけない、という3つでした。これを守るなら、その子はイスラエルを救い始めるというのです。夫のマノアにも、神様はナシル人の規定を教えました。そして、男の子が生まれ、サムソンと名づけられました。

ある日、主の使いがマノアの奥さんに現れて、男の子が生まれると告げました。そして、その子はナシル人と呼ばれる神様のご用のために働く人になると言い、ナシル人の守るべき約束を教えました。それは、ぶどう酒や濃いお酒を飲んではいけない、汚れた食べ物を食べてはいけない、髪の毛をそってはいけない、という3つでした。これを守るなら、その子はイスラエルを救い始めるというのです。夫のマノアにも、神様はナシル人の規定を教えました。そして、男の子が生まれ、サムソンと名づけられました。

刺ったことがないのが力の秘訣だということを、うち明けてしまいます。そこでデリラはサムソンを眠らせ、髪をそってしまい、ペリシテ人を呼んで彼をつかまえました。こうして、サムソンは、ナシル人の3番目の約束も破ってしまったのです。主は彼を去られ、彼の力は失われてしまいました。そして、ペリシテ人に目をえぐられ、なぶりものにされ、牢に入れられてしまったのです。しかし、牢で再び彼の髪の毛は伸び始めました。彼は本心に返って、神様に悔い改めたのです。ペリシテの祭りの日、サムソンは見せ物として牢から引き出されました。その時、彼は神殿を支える2本の柱をわきにかかえて祈りました。「主よ、私をみこころにとめてください。一時でも私を強めてください」と。そして力をこめて柱を引くと、神殿はそこにいた人の上に崩れ落ちたのでした。

(承) 学ぶべき真理

わがままや弱さによって神様との約束を破っていくなら、神様から離れてゆきます。しかし心から悔い改めるなら、回復されるのです。

(転) 生活への適用

嘘をついたり、ごまかしたり、しょっちゅう喧嘩をしていると、段々と慣れてしまつて平気になつてしまいます。自分が悪いことに気がついたら、すぐに悔い改め、神様と人にお詫びしましょう。

結論

罪は神様の祝福を失わせます。しかし神様は、1度失敗したらダメだとおっしゃる方ではありません。失敗した者が、心から悔い改めて、やり直しをすることも待っていて下さいます。

ワーク A

導入のヒント

サムソンさんは、誘惑に負けて罪を犯しました。悪魔はいろいろなものを使って、私たちをイエス様から離そうとやってきます。サムソンさんのようになりたくありませんね。それでも神様はサムソンさんをあわれんでくださいました。私たちは、イエス様から目を離さないで、神様の愛を信じて、従って行きましょう。

ワークについて

1. A ペープサートを作り、お話ししましょう。
2. B 神様から力をもらっていました。
3. A 約束を破ったので力がなくなりました。
3. A 悔い改めて力が戻りました。

ワーク B

- 質問1 四角の中の質問の答えと思う矢印の方向に進んで、ゴールを目指してください。
- 質問2 ナシル人としての神様との約束を、サムソンはやぶつたために祝福を失いました。子どもたちと神様との約束とは、具体的にどんなことでしょうか。
- 質問3 祝福を失っても神様に叫んだサムソンのように、私たちが失敗しても、悔い改めて祈るなら、神様は見捨てられないことを伝えましょう。
- 讃美歌 「わたしはしゅのことばです」  
(こどもさんびか51番)
- 今日のお祈り 「神様、私たちが神様との約束を守る事ができるように助けてください。」

ワーク C

●マタイ18・22 「わたしは七たびまでとは言わない。七たびを七十倍するまでにしない。」七の七十倍」とは、無限を意味すると言われている。神はわれらを無限に赦してください。律法や行いによって正しくなろうとしないで、また、「失敗したからもうだめだ」というサタンのわなに陥らないで、神の無限の赦しはキリストの十字架で成就していることを確認しよう。この恵み(神が無条件に愛し赦してください)が分かたら、あえて罪の楽しみを煮たりせずに、神さまとの愛の関係に生きるようになる。

ワーク D

- サムソンがなぜ失敗をしたのか、好奇心旺盛の子どもにはわかりやすいかもしれません。ナシル人の自覚が十分ではないように思えます。
- 神様との約束を大事にしないで、自分の興味や人の目を気にしてしまう弱さを考えて下さい。
- どんなに大きな罪を犯した人でも、悔い改めるなら、神様は赦し、受け入れてくださいます。

中高校へのヒント

●考えてみよう

- 1 サムソンはどのような性格の人だと言えるでしょうか。
- 2 ナシルびとを守るべき規定にはどのようなものがありましたか。
- 3 サムソンはその規定をどのように破りましたか。
- 4 サムソンの怪力の源はどこにありましたか。
- 自分にあてはめてみよう
- 1 あなたは力の源はどこにあると思いますか。また、その力を保つためにはどうしたらよいでしょうか。
- 2 あなたは誘惑にどう対処していますか。また、誘惑に勝利するためにはどうしたらよいでしょうか。
- 3 あなたは罪を犯したとき、どうしていますか。主との関係を回復するためにはどうしたらよいでしょうか。
- 話し合ってみよう
- 1 サムソンはどうしてあのように墮落したのでしょうか。
- 2 サムソンのような人が、ヘブル書11章の信仰者列伝の中に登場するのはどうしてでしょうか。
- 3 罪を犯して力を失ってしまった体験、またそこから回復された体験があれば、分かち合いましょう。









# 聖書 出エジプト20・7 テーマ みだりに主の名を唱えるな

## 序論

第二戒は、行動において唯一の神を礼拝すべきことを命じているが、第三戒は、言葉においても神を敬えとの命令である。これまで主は、「天地の主なるいと高き神」(創世記14・19)、「全能の神」(創世記17・1)、「有って有る者」(出エジプト3・14)などと紹介されてきた。それらは共通して、人間を超越した存在であることを意味している。そんな重要な方を、たとい口先だけであっても、軽く扱ってはならない。

名前は、その人自身を代表するものである。自分の名前を間違えて呼ばれたとき、嫌な気分になった経験があるだろう。人間が神の御名を自分勝手に用いたり、神の御名を否定したりするなら、それは神をさげすむことにほかならない。

## 一、知らないで唱える

多くの日本人は、天地を創造された全能の神という概念をもっていない。神と人との境界線がいまいなのだ。だから、優れた人を神に祭り上げる傾向が強い。菅原道真や楠木正成もその例である。その延長で、お客さまを大切にすることを「お客様は神様です」と言ったり、チームを優勝に導いた投手を「神様、仏様、稲尾様」とほめそやしたりする。本当の神を知らない、神の名をみだりに唱えても何の痛みも感じない。「アーメン、ソーマン、冷やソーマン」とからかうのも、「アー

メン」の意味を知らないからである。

最近、陰陽師なるものがにわかにとりざたされている。呪ったり、祓ったり、祭ったりする人のことである。その元は、呪いに対して祓い、祟りに対して祭るという陰陽道の考えである。しかし本来、人は人を呪えないし、死者や神が祟るというのも、死者や神に対するさげすんだ見解である。人が神になったり、神が呪いや祟りをするというのは大間違いである。人は一度死ぬこと死んだ後に裁かれることが定まっておき、幽霊も地縛霊も背後霊もない。

もう一つ付け加えるなら、「お陰様で」とよく言うのも考えものである。「神様の恵みで、神様の憐れみで」という意味なら正しいが、お陰様ではない。私たちが文化的にあたりまえにしてしまっていることも、よく注意しないと、みだりに神の名を唱えてしまっている場合がある。

たとい無知からであっても、ただの人間を神にしてしまつことは、神の名をみだりに唱えることになる。もし今までに、人間のだれかを「神様」と呼んだことがあったなら、今すぐ悔い改めねばならない。そして今後は、真の神以外のものを「神様」と呼ばないように注意しよう。

## 二、ふざけて唱える

「利益宗教の神々は、人間が自分の願いをかなえてもらうために造られたものだから、思いがかなわない時には、ひどい扱いを受ける。例えば、「てるてる坊主」の童謡では、晴れなければ首がちよんぎられることになるのだ。真の神を、それ

と同じように考える人が多い。自分の思うようにことが運ばないと、「神も仏もあるものか」とつぶやく。英語では、「オー・マイ・ゴッド」とか「ジーザス」とか、ふざけて神の名を口にする。これこそ、主の名を、みだりに唱えてはならないという戒めを破ることだ。

## 三、敵意をもって唱える

平気な顔で、「神などいない」とか、「神がいるなら、見せてみろ」とか言う人がいる。「イエス・キリストなんか、くそくらえ」と、あからさまに御名を冒瀆する場合もある。そう言われて、心を痛めたこともあるだろう。こういう人に対しては、論議しても無駄なことが多い。ではどうすれば良いのか。第三戒の後には、次の警告が続いている。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう。だから主のさばきにお任せしよう。いや一歩進んで、それらの人々が自分の罪に気づき、悔い改めるようにとりなしの祈りをしよう。それこそ主が求められていることである。同時に、私たちの信仰生活においてどんなに大きな試練があっても、「神様は私を捨てられた」と思うことがないように心がけよう。

## 結論

第三戒は、唯一の神を日常会話の中でも敬うことを求めている。神の名を、自分の都合の良いように用いたり、冗談に用いたりしてはならない。注意深く偶像の影響を排除し、神に対して誠実な態度をもつことが必要なのだ。

## 研究資料

(足立)

第一戒が礼拝の対象について、また第二戒が礼拝の方法について記しているのに対して、第三戒は、神を真に礼拝する中においての口による告白を取り扱っている。

神の名前は、主の聖なるタイトルを単に発音する以上の内容を表している。まず神のご性質、存在、ご人格である(詩篇20・1、ルカ24・47、ヨハネ1・12)。また神の教えや教理である(詩篇22・22、ヨハネ17・6、26)。そして神の倫理性である(三力4・5)。

主の名を、みだりに唱える 神の名を誤用すること、悪用することの意味する。すなわち何の目的もなく使用することである。みだりに(ラッシヤウ)という言葉は、物をぶつける、やかましい音をだてるという語句(シャアー)からきている。これは、機械的に神の名を呪文のように繰り返して唱え、人間が神に指示し、強制しようとする異教的な習慣を暗示しているかのようである。主の契約の民が軽率に神の名を口にすることは、イスラエルがしばしば陥る民でもあった。この戒めは、しばしば主の民に求められている、みこころにかなった誓約を除外するものではない(例 申命記6・13、詩篇63・11、イザヤ45・23、エレミヤ4・2、12・16、ローマ1・9、9・1、1コリント15・31、ペテロ1・8、黙示録10・5・6)。主が徹底して自分の名にかなわないことについて

の厳粛さを求められるのは、いのちに至る神の名の正しい呼び方を求めておられるからである。だからこの第三戒は決して消極的なものではなく、積極的なものである。そしてこの戒めは、神の名を呼ぶことを禁止しているのではなく、神を礼拝する者として、姿勢を正して、御名を呼ぶことを求めている。そこで神の御名を唱える真実な態度を聖書そのものに尋ねることが大切である。

## 出エジプト20・24

祭壇の建設に関する規定において、「わたしの名を覚えさせる」という表現がでてくるのは興味深い。祭壇を築くことは、直接的には礼拝を司る祭司の務めである。祭壇が築かれ、そこで主の名が忘れられないようにする。御名を覚えて礼拝する民を、主はご臨在をもって祝福される。

## 民数記6・27

6・24・26はアロンの祝福と呼ばれる大変有名な箇所である。ここで「わたしの名」と呼ばれているのは、主の名である。主の名を直接口にするのはアロンとその子たち、即ち祭司である。しかしその時、民を祝福するのは神ご自身に他ならない。神から職務を与えられた者が、主の御名に基づき民を祝福するとき、その言葉を聞く者は祝福される。洗礼、聖餐、祝福など教会の祝福は、神の名に根拠があり、御名の権威に根ざしている。

## 列王上8・29

列王上8章は、ソロモンの献堂の祈りと呼ばれる箇所である。この8章には、名という言葉が集めて出てくる(8・16、17、18、19、20、29、

41、42、43、44、48)。このことは主の御名とご臨在とが結びついていることを示している。神ご自身は、地上のどこかに住まわれるお方ではない。ソロモンは、「わたしの名をそこに置く」という約束の言葉(参照 申命記12・5)を信じて神殿を献げた。神の名が置かれるとは、その神殿のどこかの石に主の名が刻まれるという事ではない。彼の祈り(8・28・30)にあるように、それは祈るところである。真実の祈りがあるところに、神の御名に基づく主の臨在があらわれるのである。

## ヨハネ12・28

一粒の麦としてご自分のことを語られた(12・24)のち、主イエスは、「父よ、み名があらわれますように」と祈られた。これに対して父も、「わたしはすでに栄光をあらわした。そしてさらにそれをあらわすであろう」と答えられた。これらは十字架への言及である(12・33)。

## ヨハネ17・6

ヨハネ17章は、主イエスの大祭司の祈りである。「わたしに賜った人々に御名をあらわしました」。ここでの御名は、換言すれば主イエスが弟子たちに天の父を紹介したということ。17章全体には、父という名が連続して出てくる(17・1、5、11、21、24、25)。主イエスは父なる神の御名を紹介した(参照 主の祈りマタイ6・9、ルカ11・2)。マタイ18・20

主のご臨在を確かなものにするのは、集う人数ではなく、主の名によって集まること。

使徒4・7・12 教会の拠って立つところ。

聖書 出エジプト20・7  
タイトル みだりに唱えるって何？  
中心聖句 あなたは、あなたの神、主の名を  
みだりに唱えてはならない。  
出エジプト20・7  
目標 神のみ名みだりに唱えることは、  
神様を大切にしない偶像礼拝  
であることを発見する。

#### 導入

今日は、十戒のお話の2回目です。先週の戒めを覚えていますか。神様は唯一ですから、他の神があつてはならないし、他の神を造ったり、礼拝してはいけないことでした。これから、十戒の3番目の、神の名をみだりに唱えてはいけないということを学びます。みだりに唱えるって、いったいどういうことなのでしょう。

#### 一、大切にしない

皆さんは、名前を間違つて呼ばれたことがありませんか。どんなにカッコイイ人の名前と間違えられても、うれしいものではありません。名前は、たった一字違つただけでも、自分の名前ではなくなります。また名前は、呼び捨てにされたり、頼みごとの時だけ丁寧に呼ばれたりしても、いやですね。名前を呼ぶときに、その人を大切にしているか、軽んじているかが表れるのです。

私たちだって、思わぬところで神様のお名前を軽々しく呼んでいることがあります。外国の映画

などで、驚くことが起こったら「オー・マイ・ゴッド」と叫ぶ場面がよくあります。それは、決して神様を信じて呼んでいるわけではありません。また、日本人の場合なら、賭け事などをしてるときに、自分が勝ちたいから「神様、仏様」と言って願ったりする場面を見かけます。みだりに神様の名を唱えるとは、このように、軽々しく神様の名を使うことです。ふざけたり、なれなれしく神様の名を呼んだり、神様の名を勝手に使うことを、みだりに唱えるといえます。それは、神様を大切にしないことの現れです。そして、自分の都合で神様の名を勝手に用いるのですから、自分の方が神様より偉いことになります。これは、自分が神の立場に立つてしまつて、他の神があつてはならないという十戒の第一戒を破るようになるのです。神様は「御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない」と警告されています。軽い気持ちで、ふざけて神様の御名を用いてはいけません。それは、自分を神とすることになるのです。

皆さんも、神様の名をみだりに唱えないように気をつけましょう。真剣に祈り、心から賛美し、真面目に礼拝するときに、神様の御名を唱えるようにしましょう。

#### 二、人に神の呼び名を与える

人間はどんなに偉い人であっても、神ではありません。しかし、しばしば人間は、素晴らしいスポーツ選手や上手な歌手なんかを、神様と呼んだりします。例えば、ベシをサッカーの神様とか、マイケル・ジョーダンをバスケットの神様とか呼

びます。彼らは本当に神でしょうか。決してそんなことはありません。ただそのスポーツが人並みはすれてうまいというだけで、天地を造つたわけではありません。

#### 結論

名前をみだりに唱えるか否かで、大切にしているか、軽んじているかがわかります。神様の名をみだりに唱えることは、結局、神様を軽く見ることで、偶像礼拝になります。天地を創造された唯一の神様に対して、祈ったり、礼拝したり、賛美するときにだけ「神様」と呼びましょう。

### ワーク A

#### 導入のヒント

皆さんは、神様を馬鹿にしたような言葉を使つていませんか。神様は、私たちを造り、愛してくださっている方です。そして、私たちの罪を赦すために、イエス様を十字架にかけてくださいました。こんなに愛してくださっている神様を悲しませるようなことは、たとえ小さなことでも言うてはいけませんね。神様を信じて敬いましょう。

#### ワークについて

それぞれの形より少し大きめに折り紙を切り、わくにしましょう。それを台紙に好きなように貼つて、みことばを覚えましょう。新改訳は、少し違った表現ですので、注意してください。

### ワーク B

●質問1 今日のみことばを覚えて完成させましょう。

●質問2 神様の名前をみだりに唱えるとは、具体的にどういふことなのかを知らしましょう。

●質問3 軽い気持ちで言うってしまったことばでも、神様の前には罪です。子どもたち自身のことばで、告白し、悔い改めの祈りをささげましょう。

#### 讃美歌

「すばらしい神様」

●今日のお祈り 「神様、私たちは神様のお名前をみだりに唱えるのではなく、神様を愛して、心を込めて呼べるようになってください。」

### ワーク C

●信仰者は祈る時に「神様」と呼ぶ。祈りはいく

らでも、たびたび、頻繁に、なすべきである。その時「神様」と呼びかけることは、信仰をもって真実に呼びかけるのであるから、「みだりに」ではないし「唱えている」でもない。

●第2問で、実生活で自分や友だちが口にいる「みだりに唱える」ことについて自覚したい。よく言われる「オー・マイ・ゴッド」なども「みだりに唱える」ことであろう。悪気はなくても信仰ある者は言うべきではない。分級の中で生徒や教師が自分の名前をふざけて言われてみての感想（嬉しいとか馬鹿にされてとか）を話し合つてはどうか。

### ワーク D

●質問1 名前をふざけて使われた人の人格は、傷つきます。軽々しく名前を言うべきではないことを考えましょう。

●質問2 「何とかの神さま」という言い方が簡単に使われています。人を立てるために、神を引き下げるのです。

●質問3 何気ないところで口に出ている言葉に注意するようにつけてください。

### 中高校へのヒント

#### 考えてみよう

- 1 名前にはどのような意味がありますか。
  - 2 主の名をみだりに唱えるとはどういうことでしょうか。
  - 3 では、どのように主の名を唱えたらよいのでしょうか。
  - 4 主の名をみだりに唱える者に対して、主はどうされますか。
- 自分にあてはめてみよう
- 1 あなたは、自分の名前を間違えられたり、ぞんざいに扱われたりしたら、どう思いますか。
  - 2 あなたは、主の名をみだりに唱えていなかったでしょうか。
  - 3 あなたは、主の名をあがめるような生き方、また、人々の間で主の名があがめられるような生き方をしているでしょうか。
- 話し合ってみよう
- 1 主の名をみだりに唱える例として、どのようなものがあるでしょうか。
  - 2 主は「わたしの名により偽り誓つて」はならないと言われましたが（シビ19:12）、それはどのような意味でしょうか。
  - 3 主の名をみだりに唱える人に対して、どうすればよいでしょうか。
  - 4 主イエスは、神に祈るとき「父よ」と親しく呼びかけるよう言われました。それはなぜでしょうか。



聖書 出エジプト20・8～11  
テーマ 安息日を守れ

## 序論

第四戒は、誤解されやすい。主イエスの時代の律法学者は、これを禁止命令と考えていた。だから、安息日に主が病気を癒したり、弟子たちが穂をつんだりのしたことを厳しく批判したのである。しかし主は、安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない（マルコ2・27）と、安息日の真の意義を示された。安息日は、束縛の日ではなく、解放の日なのである。

## 一、仕事を休む日

罪を犯したアダムに、神は「あなたは一生、苦しんで地から食物を取る」（創世記3・17）と宣告された。労働は罪の結果である。しかし第四戒は、安息日には何のわざもしてはならないと戒める。エジプトで、休みなく苦役をつとめてきたイスラエル人にとって、これは大きな朗報だった。安息日という言葉は、ヘブル語のシャバースからきており、これは中止するという意味である。すなわち安息日の第一の意味は、仕事を中止して休むことなのである。10節の「あなたはあなたのために、妻、娘、しもべ、はしめ、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである」との記述に注意したい。信仰のあるなしにかかわらず、家畜に至るまで休むべきなのだ。

安息日の第一の意義は、まず休むことである。働き過ぎで、体をこわしては何にもならない。安息日に6日間の疲れを取り除くから、また元気に

6日間働けるのだ。安息日は6日間の働きのためであり、6日間の働きは安息日のためである。

## 二、聖なる日（神の所有）

しかし、何もしないでボケーとしていることが安息ではない。神は「これを聖とせよ」と命じられている。聖とは、神の所有であること、神の御用のためにだけ使われることを意味している。安息日は、神の所有である。11節には、神が八七日目に休まれたからと、安息日を聖とする理由が記されている。7日目に神が休まれた時、神は疲れておられたのだろうか。そんなことはない。神は疲れることも弱ることもない方である（イザヤ40・28）。では、神の休みとは何か。それは、創造の御業を振り返って、それに満足し、完成を告げられることであつた（創世記2・1）。私たちに与った安息日も、働きから退いて一週を振り返る日であり、神と共に歩んだその結果を思い見て、完成を告げる日である。罪を犯しておれば悔い改め、誘惑や肉の思いに引きずられているなら明け渡してきよめられ、新たな真理と導きが必要ならそれを教えていただくことである。

私たちは生きるために、6日間、世で働かねばならない。そこには神を知らず、利己的な思いで行動する人があふれている。そういう世で生きているなら、私たちもその色に染まってしまうこともある。しかし、安息日にはその世界を離れ、聖なる神との交わりの時をもつのだ。

## 三、救いの日（神の御用）

また、聖とすることは、神の御用にだけ使つこと

である。安息日は、霊とまことをもって礼拝する者を求めておられる神の要求に應える日なのである。まず、安息日は神が天地を造られたことを記念して、礼拝する日である。

そして、申命記には安息日を休むもう一つの理由が記されている。「あなたはかつてエジプトの地で奴隷であつたが、あなたの神、主が、そこからおあなたを導き出されたことを覚えなければならぬ」（申命記5・15）。つまり、安息日は自分たちが奴隷から救われた記念として、礼拝をささげる日だ。主イエスの復活の後、それまで土曜日だった安息日は日曜日になった。それは、復活された主を記念して礼拝するためである。復活によって、罪の赦しと永遠の命が明確になった。罪と死からの救いを喜び、感謝することは、何よりも安息日にふさわしいことである。

## 結論

安息日は、しっかり仕事をするために、しっかり休む日である。そして、神の前に静まって過ぎた一週間を思い見る日であり、神の創造と救いを記念して礼拝する日である。私たちはいったいどのように日曜日を働いているだろうか。律法主義にとらわれて、義務として礼拝しているのか。遊びたいのに仕方なしに礼拝しているのか。それとも、神に造られた存在として、本当に生かされるために休み、振り返って反省して完成を目指し、神の創造と救いを記念して礼拝しているのか。自分の安息日のありかたを点検したい。

## 研究資料

(足立)

第四戒は、契約の民イスラエルの生活においてもっとも大切な安息日に関して記している。この第四戒は、十戒の中でも特別な位置にある。

十戒を大きく分けると、一戒から四戒までは神に対して、五戒から十戒までは人に対して書かれている。この四戒はもちろん神に対してであるが、人間の労働にも言及しているから、ちょうど橋渡しをする位置にあると言えよう。また四戒は、十戒の中でもっとも長い文章によって書かれている。長い文章だから特別に大切だというわけではないが、その内容はとても豊かなものである。そして一戒から三戒までは否定表現であるが、四戒は肯定表現で記されている。

安息日への言及は、十戒の宣告以前に既になされていた（出エジプト16・22～30）が、民は最初からこの戒めを破っていた。

安息日という語は、中止する、やめる（シャバース）という動詞に由来することばである。また聖とせよということばは、区別せよという意味である。つまり安息日は本来、一週間の一日を他の日とは「区別」して、「労働」を中止する日である。日々の労働の休止と解放が命じられている。これは当人だけでなく、家族、使用人、異国人、家畜のためにも同様に命じられている。

もっとも安息日は、単に仕事をしないという消極的なイメージによって規定されてはいない。そ

の日は覚える特別な日として意味づけられている。中心はあなたの神、主の安息であり、この日は、神に属しているのである。

安息日を覚える理由の一つは、主が天地万物の創造者であられるからである（20・11）。ヘブル語では、11節のはじめに、「なぜならば」と訳せる接続詞（キ）が記されている。主による天地創造のみわざが、覚えらるる日なのである（創世記2・1～3）。

## 出エジプト31・12～17

この箇所は聖所に関する指示（25・1～31・18）の最後の部分である。安息日と礼拝は切り離すことができない。今後始まる聖所建設という大事業であっても、契約の民は、7日目にその仕事を休み、主なる神を礼拝することが求められている。

## 申命記5・12～15

申命記は、荒野を旅したイスラエルがヨルダン川を前にしたとき、老人になった指導者モーセが、アラバの地で民に語った告別説教である。この申命記5章で、再び十戒の確認がなされている。ここで特筆すべきことは、安息日律法が出エジプトの出来事と結び付けられていることである（5・15）。イスラエルの民はかつてエジプトにおいて奴隷であつた。そこから救い出されたのは、主なる神である。それゆえ、約束の地においても、安息日には奴隷の土地から贖い出してくださった主の一方的な恵みを忘れてはならない。私たちキリスト者にとって、贖いとは主の十字架である。

## イザヤ58・13～14

安息日を守る責任は、エシメヤによって強調されており（17・19～27）、同じくエゼキエルによっても力説されている（20・12～24、22・8、26）。イザヤは、安息日を尊ばない神の民の罪を嘆くと同時に、安息日に喜びを持って生きる者たちへの確かな約束を預言している。

## マルコ2・23～28

主イエスの時代には、安息日律法が間違つて解釈され、人々を苦しめていた。学者たちの本末転倒した解釈の積み重ねにより、安息日の規定のために人々は縛られ、律法の重荷を負わされていた。主イエスは、安息日の細かな規定は安息日を人のために設けた神の意図に反するものであり、人々を悩ませていることを指摘した。「人の子は、安息日にもまた主なのである」とは、主イエスが自身は律法や伝統、さらに安息日という創造の規定にさえ先立つ最高権威者であることの宣言である。

## 安息日から主の日へ

主イエスは日曜日に復活された（マタイ28・1、マルコ16・2、ルカ24・1）。続いて主イエスはその日曜日に、ご自分を弟子たちに現された（マルコ16・9、ヨハネ20・19）。またその一週間後の日曜日に、二度目の顕現をなさった（ヨハネ20・26）。復活から50日目のペンテコステ（聖霊降臨）も日曜日であつた（使徒2・1～4）。また初代教会はその初期から復活と顕現を記念して日曜日に集会を持っていた（使徒20・7、1コリント16・2）。1世紀の終わりには、すでに「主の日」と呼ばれるものがあつたことがわかる（黙示録1・10）。

聖書 出エジプト20・8～11  
タイトル 安息日って何？  
中心聖句 安息日を覚えて、これを聖とせよ。  
出エジプト20・8  
目 標 安息日になぜ休み、また何をするのかを発見する。

#### 導入

「安息日は人のためにあるものだ」と、イエス様はおっしゃいました。安息日は、神様が人のためにつくられたのです。皆さんは、日曜日が休みだから教会で礼拝していると思いませんか。実はそれは逆です。日曜日が休みだから礼拝しているのではなく、クリスマスチャンたちが日曜日に仕事を休んで礼拝するから、日曜日が休みになったのです。では神様はどうして、7日に一度、休むようにされたのでしょうか。

#### 一、安息日はお休みの日

まず、安息日は仕事を休む日です。皆さんにとっての仕事は、学校の勉強ですから、安息日は学校を休む日です。机に向かって長い時間勉強をしていけば、それで勉強がはかどるでしょうか。そうじゃないでしょう。休憩も必要ですね。より良く仕事をするためにも、勉強するためにも、7日に1日休んだ方がよいのです。

10節には奴隷や家畜、異邦人も休ませなさいと書かれています。これは神様を信じていない人や家畜も休ませるということです。つまり神様が創

造されたものはみな、7日に1日休むのが良いベイスに造られているから、休みなさいということ。神様は、皆さんに休みが必要なことを知っておられます。仕事のし過ぎで体をこわして、結局病気になるのは何にもなりません。6日間しっかり働いて1日休むのが、体にも、心にも、霊にも、たいへん良いことなのです。安息日にしっかりと休めるように6日間しっかり働き、6日間しっかり働くために安息日にしっかりと休むのです。

#### 二、安息日にするべきこと

さて、人は勉強させてたら、あとは何にもしなくてもよいのでしょうか。違いますね。友だちと遊ぶこと、家の用事をする、家族でお出かけすることも大切です。しかし、もっと大切なのは、神様の御用をすることです。神様の御用は、勉強よりもっと大切です。安息日は、ただ休むだけでなく、神様の御用をして、神様のために使う日なのです。では、神様の御用って何でしょう。

神様は、天地万物を6日で造られて、7日目に休まりました。神様も疲れたのでしょうか。いえ、全能の神は疲れたりなさいません。神様はその日、全てを完成されたのです。全てをご覧になって、それに満足して、完成されました。私たちにとっても安息日は、1週間を振り返って完成する日です。過ぎた1週間を振り返って、祈りが聞かれたことに感謝をしたり、健康で過ごせたことを感謝します。また、けんかをしたり、わがままを言った事に気づいたら、神様に告白して悔い改めます。これも一つの神様の御用です。こうして、日曜日は1週間を振り返る日、また、これから始

まる1週間に備える日なのです。

#### 三、安息日は礼拝の日

もう一つ、神様の御用のため、良い安息日の過ごし方があります。それは記念です。皆さんは、誕生日、結婚記念日、創立記念日などをお祝いしたことがありますね。安息日は、神様が天と地を造られた記念日です。それから、イスラエルの民がエジプトの国の奴隷から解放された記念日です。そして、イエス様が十字架にかかって死なれた後に、よみがえられた記念日なのです。

皆さんは記念日に何をしますか。お祝いですね。みんなが集まって、パーティーを開いたり、ケーキを食べたりします。日曜日も記念日なので、みんなが集まって、神様の創造とイエス様の十字架の救いを記念して礼拝するのです。みんなと一緒に礼拝で神様に感謝し、賛美し、み言葉を聞き、神様に従っていく決心を新たにします。

#### 結論

あなたは、毎週の礼拝が楽しくてうれしいなと思っていますか。それとも、無理矢理に仕方なく礼拝に出かけていますか。安息日は、神様が私たちに下さった恵みです。神様のルールに従うことは、仕方のないことではなく、私たちにとって一番恵まれる方法なのです。学校を休んで、休息しましょう。1週間を振り返って、反省し、新たな週に備えましょう。そして、神様の救いを記念して、礼拝しましょう。喜んで礼拝をささげ、神様と共に新しい週をスタートしましょう。

### ワーク A

#### 導入のヒント

日曜日がなぜ休みなのか知っていますか。これは神様が決められました。日曜日は、神様を礼拝するためのお休みです。体も休むことが大切だけれど、私たちにとって一番大切なのは、心の休みです。だから、日曜日には教会に来ます。そして心の休みを頂き、また力も頂きましょう。

#### ワークについて

色画用紙などを台紙にし、色を塗った教会を切り取って貼りましょう。周囲に折り紙で飾り付けをして、先週や先々週の分と合わせましょう。

### ワーク B

●質問1 神様は7日目にすべてのわざを休まれ、造られたものの完成を記念して、この日を特別な日とされました。

●質問2 安息日は、旧約聖書では土曜日ですが、新約聖書から考えて、日曜日と答えてもかまわないと思います。

●質問3 子どもたちはそれぞれの家庭で日曜日を過ごしています。神様の喜ばれる安息日の過ごし方があることを、お話を思い出して確認しましょう。

#### 讃美歌 「きよいあさあけて」

(こどもさんびか3番)

●今日のお祈り 「神様、神様の決められた特別な日である安息日を、神様に喜ばれるように過ごさせてください。」

### ワーク C

●自動車を手使いに使いこなすには、メーカーの書いた使用説明書をよく読む必要がある。人間は神様に造られたものであるから、神様の書かれた「生き方説明書」である聖書をよく読んで実行することが大切なのだ。

●自動車には車検や定期点検が定められている。人間は霊と心と体を備えた命ある存在であるから、その全てを熟知しておられ、かつ、命の根源である創造者なる神様の元で全てを点検していただき、修理し、補給し、次に備えるのである。これが、安息日の意義と言えるだろう。

### ワーク D

●質問1 休むことは悪いことではありません。人を造った神様が休むように決められました。

●質問2 創造の業を終えた神様は、7日目を聖別して祝福の日とされました。

●質問3 救いを感謝して礼拝する日です。

●質問4 神様を礼拝することが喜びとなり、安息となるように。

### 中高校へのヒント

#### ●考えてみよう

- 1 主が創造の7日目に休まれたのはどうしてですか(創世記2・3も参照)。
- 2 安息日を聖とすることはどういう意味ですか。また、具体的にどのように生きることですか。
- 3 安息日を聖とするのはなぜですか(申命記5・15も参照)。
- 4 安息日が土曜日から日曜日に変更されたのはなぜでしょうか。

●自分にあてはめてみよう  
1 あなたにとって、安息日は喜びの日ですか。それとも、束縛の日ですか。

2 あなたは安息日をどのような思いで、またどのようなことをして過ごしていますか。

3 あなたは安息日を聖としているでしょうか。もし、そうできていなければ、その原因はどこにありますか。

●話し合ってみよう  
1 安息日を聖とすることによって、どのような益があるでしょうか。逆に、聖としないなら、どうでしょうか。

2 安息日を聖とするために、どのような戦いがあるでしょうか。また、それにどう対処したらよいでしょうか。

3 戦いの中から安息日を聖とすることができた体験、またそれによって祝福された体験があれば、分かち合いましょう。



聖書 出エジプト20・12  
テーマ 両親を敬え

## 序論

十戒は、前半4つで神との関係を戒め、後半の6つで、人と人との関係を戒めている。その後半の最初に「あなたとあなたの父と母を敬え」という戒めが置かれている。この戒めは、前半と後半をつなぐ重要な戒めである。敬うということが少なくなつた現代に、敬うとはどういうことを、子どもたちにしつかり覚えさせたい。

## 一、敬うという事

敬うと訳されるヘブル語の「カバート」は、相手に重みを与えるという意味だ。敬うとは、重きを置くこと、大切にすることを意味する。

十戒の前半で、神は唯一で、偶像を造ったり拝んだりせず、みだりにその名を唱えてはいけなことが教えられた。これは、神を敬うということが、かけがえのない存在として重んじることであることを教えている。同様に、両親を敬うとは、礼拝はしなくても、両親もまた唯一だから、他に造ったり、みだりに扱ったりせず、かけがえのない存在として重んじることなのだ。私たちは両親を選べない。しかし、選べないものこそ貴いのである。神がその知恵で選び、用意されたからだ。両親は神からのものである。私たちは、両親をかけがえのない存在として、重きを置き、大切にすべきである。

## 研究資料

(足立)

第一戒から第四戒までは、まことの神に対して被造物である私たち人間が、どのように礼拝すればよいかが記されていた。そして第五戒からは、まことの神を拝む人間が、対人関係をどう生きるべきかが宣告されている。その最初に教えられているのが親子関係であり、特に子どもがその両親に対して持つべき態度に関して記されている。

聖書は夫婦関係が家庭の中心にあることを明記している(創世記2・24)。健全な夫婦関係のもとで子どもは成長し、大人になり、自立し、配偶者が与えられ、両親から独立して新家庭を築くことが基本である。ところが第五戒は、親と子の関係を第一に持ってきている。

夫婦と親子の関係の違いを考えると、夫婦(結婚)関係はある意味で選択可能である。また生涯独身であることも可能である。しかし親子関係は選択不可能である。つまり子が親を選ぶことはできない。また生まれる家庭を選択することもできない。男性、女性という性別も自分で決められない。そして人が生まれてきたということには、親の存在を意識して生きる立場に置かれたという免れない事実が付きまとう。

神が第五戒を通して人間に問いかけていることは、一人の人が親の存在をどのように受けとめ、生きているかという、その人の実生活である。そして注意すべき事は、第五戒が幼子に対して語られたというよりも、成人したイスラエルの民に

## 二、長く生き、幸いを与える

第五の戒めには、「あなたとあなたの神、主が賜うる地で、あなたが長く生きるためである」という約束が伴っている。また申命記の十戒には、「あなたに幸いを得ることのできるためである」(5・16)と付記されている。両親を敬うことが、長く生き、幸いを得るという祝福を約束するのである。両親を敬うことは、神の祝福を受ける法則である。イスラエルの民は、荒野の40年間、不信仰を起して神に従わずに祝福を失い、悔い改めて神に従って祝福を受け取るということを繰り返した。神に従う両親が神から祝福を受け、その両親に従うことによって、子孫に祝福が代々引き継がれる。この祝福の連鎖によって、祝福が続くのだ。

しかし、主イエスはマタイ10・37で、「あなたよりも父または母を愛する者は、わたしにふさわしくない」とおっしゃっている。両親が神に従わない場合は、その両親のところで祝福が断ち切られる。そのため、「信仰に反しない限り」という条件がつく。両親を敬う人が神の祝福を受け、その子も両親を敬うようになって神の祝福を受け、代々祝福が連鎖する。これが祝福の連鎖である。

## 三、虐待の連鎖を解く

しかし最近、親に虐待された子どもが親になり、自分の子どもを虐待するといった虐待の連鎖が問題となっている。簡単にいうと、そういう人は、親に虐待されて、「絶対、自分はそんなことを自分の子どもにはしない」と心に誓っている。しかし、虐待されてできた心の傷が癒されていないなら、

ひょんな拍子に自分の子どもがその傷にふれると、急な心の痛みで過剰に反応して、反射的に虐待してしまうのである。まず、虐待を受けた心の傷が癒されなければならない。

それは、自分を虐待した親を赦すことから始まる。しかし、その親が悔い改めておればまだしも、そうでない場合は難しい。けれど、主イエスを信じ、その親が自分に支払わなければならない弁償まで、主が支払ってくださっていることを知ったとき、傷は癒されていく。

そして、そんな親でも敬っていくとき、その親も正されていく。親の立場で考えてみよう。親を敬わない子どもは、親の言うことを聞かない。そんな子どもには、間違ったことを言っても、正しいことを言っても、聞かないのだから、何を言っても同じである。だから親も言うことに責任をもたなくなってしまう。しかし、親を敬い、言うことをよく聞く子どもに対しては、間違ったことを言ったら、その子どもは、そのとおり受け入れ、そのとおり行なってしまう。だから、言うことに責任がある。すると親として正しい事を求め、神の善悪を求めるようになり、神に従う親になっていかなるをえなくなるのである。

## 結論

ひどい親であろうとも、その親を赦し、敬っていくなら、虐待の連鎖は断ち切れる。親を敬って神の祝福にあふれた者となる。そしてまた、自分の子どもに敬われ、その子に祝福をもたらしう。神の願いは、祝福の連鎖なのである。

## エペソ6・1-4

パウロは、妻と夫との関係(5・22-33)に続いて、子と親との関係を記している。「子たる者」とは、子の年齢よりも親子の関係を意識しており、年取った息子たちや娘たちも含まれている。墮落した異教社会(ローマ1・30)や終わりの時代(IIテモテ3・2)のことを考慮するならば、特に信仰者の家族においては、父親が死ぬ日まで、父親の権威が保たれることが望ましい。ここでは子どもたちの両親への服従が語られている。パウロは妻の服従の場合と同様に、十分な配慮ある土台を置いて指示している。それは、「主にあって」という原則である。

続いてパウロは、十戒の第五戒を引用して、子の両親への服従を指示している。両親を敬うとは、「おそれる」という表現に置き換えることも可能である(レビ19・3)。またおそれるという動詞は、神に対する民の正しい態度にも使われている(レビ19・14、32、申命記4・10)。エペソ書の文脈では、子の両親への服従は、主にある信仰者の責務と位置づけられている。この場合、信仰による両親への服従は、「キリストに対する恐れ」の心をもって、互に仕え合う(5・21)ひとつの見本であり、「御霊に満たされ」(5・18)た者たちに認められるしるしでもある(参照コロサイ3・17-21)。家族が崩壊しつつある現代社会において、キリストにある子と親との関係は宣教の鍵となる。

主イエスはどのように父母を敬われたか(ルカ2・41-51、ヨハネ2・1-11、19・25-27)。

聖書 出エジプト20・12

タイトル 両親を敬おう

中心聖句 あなたの父と母を敬え。

出エジプト20・12

目標 なぜ両親を敬い、どのように両親を敬うかを発見する。

## 導入

皆さんは、お父さんとお母さんを敬っていますか。『敬う』ってどういうことかわかりません」と言う人も多いようです。今日は、「敬う」とはどのようなことか、特にお父さんとお母さんを敬うことについて学びます。

## 一、なぜ敬うのか

神様は唯一で、他に神を造ってはいけませんでしたが、また、他の神を拜んでも、それに仕えてもみだりにその名を用いてもいけませんでした。それは、神様が唯一だから、他に代えることができないかけがえのない存在だから、大切にしないといけないということです。実は、それが敬うということ。両親を敬うというの、親をかけたえのない存在として大切にすることなのです。両親もまた唯一です。一人の子どもにお父さんは一人、お母さんは一人です。でも、自分で「このお父さん、このお母さんがいいな」と、選んで生まれてきた人はいません。どの両親のもとに生まれるかは、神様がお決めになります。私たち一

人一人には、神様が選んでくださったって、お父さんとお母さんが与えられたのです。ですから、神様から与えられたかけがえのない存在として、両親を大切に、敬うのです。

じゃあ、具体的にどうやって敬うのでしょうか。それは、親を礼拝してはいけません、神様の時と同じように、他に親を造っても、他の親に仕えても、みだりに親を扱ってもいけないということです。まず、親の言うことよりも、誰か他の人の言うことをきいてはいけません。親の言うことが、聖書の教えていることと異なっているときを除いて、それ以外は、親のいうことをよく聞くことが、敬うことです。また親に口答えしたり、親をののしったりして、みだりに扱ってはいけません。敬語を使って、丁寧に話し、決して口答えしたり、ののしったりしないことが、敬うことです。

## 二、祝福を受け継ぐ

「あなたの父と母を敬え」という命令の後には約束があります。それは、両親を敬うことによって、長生きができる、幸せになるという約束です。神様に従う両親は、神様の祝福をきっちり受け取れます。その両親に従う子どももまた、その両親から神様の祝福を受け取れます。そうして、神様の祝福が、親から子へと受け継がれてゆくの、長生きし、幸せになれるのです。

でも、お父さんやお母さんは、完璧ではありませんね。いらいらして大声を上げることや、間違えて怒ったりすることだってあります。誰だってカン違いしますし、失敗もするし、いろんな癖も

持っています。だから、尊敬できないと思うことがあるかもしれません。

しかしそんな両親であっても、あなたが敬っていくと、正されていくのです。子どもが親を敬わず、その言うことをきかないような場合、親が何を言っても無駄です。親が正しいことを言っても、間違ったことを言ってもきかないのですから、無駄になります。すると、親も言うことにだんだん責任を持たなくなります。すると、ますます間違ったことも平気で言うようになってしまいます。しかし、子どもが親を尊敬し、その言うことをよく聞くとします。すると、親が間違ったことを言ったりすると、子どもはそのとおり受け入れ、そのとおりします。ですから、親はその言うことにも、することにも、責任をもたなければならなくなります。すると、親は正しいことを求め、神様に善悪を聴くようになり、神様に従うようになってゆくの。その結果、神様の祝福が親にあり、その親からあなたに祝福があり、祝福が子代にも及んでゆきます。このようにして、親を敬うことは、親を正すことにもなり、祝福を受けていく秘訣にもなるのです。

## 結論

神様は、私たちの家庭を祝福することを望んでおられます。まず、神様が下さった両親であることに感謝しましょう。かけがえのない両親ですから、大切にしましょう。その言うことをよく聞き、口ごたえせず、敬いましょう。そうすると、長生きし、幸いを得ることができるのです。

## ワーク A

●暗唱聖句（8月11日～25日）

●あなたの父と母を敬え。（出エジプト20・12）

●導入のヒント

お父さんやお母さんは、神様が決めてくださいました。両親の喜ぶことをするなら、神様も喜ばれます。反対に、悲しむことをすると神様も悲しまれます。私たちは神様に喜ばれるように、お父さんやお母さんによく従いましょう。

●ワークについて

紙コップ、糸、針を用意します。み言葉の周囲に薄く色を塗って切りとり、紙コップに貼ります。また、み言葉の周囲に糊かセロテープで糸を貼り、コップの底に糸を通して飾りましょう。

## ワーク B

●質問1 今日の聖句を覚えて完成させましょう。

●質問2 敬うという難しい言葉の意味を子どもたちは理解できたでしょうか。

●質問3 お父さん、お母さんを大切にすることは具体的にどうすることが考えます。両親が子どもたちにつらく当たる時があっても、それでも両親を大切にいくことを伝えましょう。必ず神様が報いてくださることも伝えましょう。

●讃美歌 「わたしはしめのことばです」

(子どもさんびか5番)

●今日のお祈り 「神様、神様が私に与えてくださった両親を、どんなときも、いつまでも大切にできるよつにしてください。」

## ワーク C

●今の時代はますます家庭環境が進んでおり、親が親の働きをしていない場合や、できない場合が珍しくない。教会に来ているお友だちにもそういう家庭があると思う。そういう場合には敬うことは至難の業であろう。第1問で、分級教師と生徒がそういうことも含めて話せるような問柄であれば素晴らしいと思う。「敬え」と書いてあるからといって、律法的に押し付けることはできない。しかし、どんな場合でも、神の聖言は真理であるから、これに従う時に「幸い」と「長寿」が約束されていることははっきり示したい。また、この箇所は子どもがどうすべきかを語っているものであり、親の良し悪しを言っている箇所ではない。

## ワーク D

●質問1 大切にすること。喜ばせることが助けることだけでなく、親に信頼し従うことが大事です。

●質問2 「長く生きることができる」という約束は、愛し合う幸せな家族の祝福が豊かに保たれ、子孫に受け継がれるということ。す。

●質問3 愛することができない関係、信じていることができない関係も、み言葉に従って愛し敬う時に変えられていくことを信じて祈りましょう。

## 中高校へのヒント

●考えてみよう

1 父と母を敬うとはどういう意味ですか。また、具体的にどのようなことにですか。

2 父と母を敬うのはなぜですか。

3 旧約時代、父と母を敬わない者にはどのようなさばきが臨みましたが（出エジプト21・17など）を参考にしてください。

●自分にあてはめてみよう

1 あなたは父と母を敬っていますか。もし、そうできていなければ、その原因はどこにあるのでしょうか。

2 父と母を憎んでいる、赦せない、恨んでいるということがありますか。それはなぜですか。どうすれば、そのような感情から解放され、父と母を心から敬うことができるようになるでしょうか。

3 父と母を敬うことの具体的な行動として、今日から実践するよう示されたことはありますか。

●話し合ってみよう

1 主イエスは、父と母に対してどのような態度をとられたでしょうか。

2 十戒の後半部分の最初に、「父と母を敬え」という戒めが置かれているのはなぜでしょうか。

3 聖書の教えと対立することを父と母から強制された場合には、どのように対処したらよいでしょうか。



聖書 出エジプト20・13 創世9・6  
テーマ 殺してはならない

## 序論

学校では優等生で通っていた名古屋の高校生が「人を殺すとはどんなものか、一度経験したかった」といって、通りがかりの家に押し入り、老人を殺したのは、まだ耳新しい事件である。「殺すな」という戒めは、現代の子どもたちにとって、もはや自明の正義ではなくなっている。テレビやゲームで、殺人や暴行がシミュレーションされている時代だからこそ、教会は、人を殺してはならないことを明確に子どもたちに教えるべきだ。

## 一、とりかえしがつかないから

なぜ人を殺してはならないのか。それを、大洪水の後、箱船から出たノアに、神が「わたしは人の命のために、報復するであろう。人の血を流すものは、人に血を流される。神が自分のかたちに人を造られたゆえに」(創世記9・5・6)と、明確に教えておられる。

殺してはならない第一の理由は、人の血を流すものは、人に血を流されるからである。殺した人を生き返らせることはできない。そこで律法では、殺人の償いは、金銭によってつぐなうことはできず、自分の命をもつてつぐなう。人の命をつぐなうことができるのは、人の命だけなのだ。人の命は唯一でかけがえがなく、とりかえしがつかない。だから、殺してはならないのだ。

また、人に害を与えたら、人も仕返ししてくる。人を殺したら、人に殺されるのだ。だから、人に

殺されないために、人を殺してはならない。復讐に復讐を繰り返せば、殺人が終わりなく続き、この地上は地獄になる。神が復讐されるから、人は正しい裁きを神に任せて、自分で復讐してはならないのだ(ローマ12・19)。

## 二、人は神の所有だから

第二の理由は、人が神が自分のかたちに人を造られたゆえにである。どんな人も、神に造られ、神に愛されている高価で尊い神の所有である。神の所有されているものを、神以外の者が自分の勝手にしてはならない。だから、神の所有である人を、人が殺してはならないのである。

しかし、現実には、望まぬ妊娠で、胎児が墮胎される場合がしばしばある。これは、神の所有である胎児を自分のものとしてあつかい、殺している殺人である。また、自分の命を自分のものと考えて、自殺する人がいる。自分の命も、神から与えられており、神のものだ。だから、自殺も殺人である。人は、神にとって高価で尊く、キリストが身がわりになられたほど価値があるのだ。他人の命も、自分の命も、胎児の命も、神のものだから、自分勝手に殺してはならない。

## 三、神を否定することだから

第三の理由も、人が神が自分のかたちに人を造られたゆえにである。殺人とは、端的に言うところ、その人の存在を否定することである。その人は生きていく価値がない、死んだほうがましだと考え、その存在価値を否定して殺すのである。

人の存在価値を否定することは、人の人格を否

定することになる。なぜなら、人の存在価値はその人格(霊)、つまり神のかたちにあるからだ。人の存在価値は、神のかたちに造られ、神に愛され、生かされ、ひとり子が十字架で身がわりになられた人格の価値だ。その人の人格を否定するのは、それをかたどった元の神を否定することである。人を殺すのは、動物としての肉体を殺すというだけではなく、人格を否定することなのだ。そしてそれは、かたどった元の神を否定することになる。だから、殺してはならないのである。

主イエスは戒めを、直接の殺人だけではなく、兄弟に対して怒ること、兄弟にむかって愚か者と言うことにも適用されている(マタイ5・22)。つまり、怒りも悪口も、相手の人格を否定しているから、殺人なのだ。人は人を思いや言葉で殺しているのである。

## 結論

人の命はかけがえのないものだから、殺してはならない。人の命は神のものだから、自分の勝手に殺してはならない。人は神のかたちであるから、それを否定するのは、その元の神を否定することだから殺してはならない。

自分は殺人など犯したことがないと言う人がほとんどだろう。しかし思いや言葉で殺していることに気づこう。そして、まず悔い改めて、主の十字架によって罪赦されよう。そして、人の内に神のかたちを見てゆこう。どの人も神のかたちに造られ、主が十字架で身がわりになられたほどに、価値ある者なのだから。

## 研究資料

(足立)

第六戒は、殺人に関して記されており、これ以後第十戒まで禁止命令が続いている。第六戒の背景には、すべての男性と女性は神のかたちに似せて創造された(創世記1・26・27、9・6)という前提がある。ヘブル語には殺人に關して7種類の言葉が使用されているが、ここではラーツアハという用語である。この語は旧約聖書で42回使われている。これは、「粉碎する」とか「強殺する」という非常に強い意味を持つ動詞である。第六戒が直接に禁じていることは、故意による殺人のようである(戦争や死刑の場合は、別の言葉が使用されている)。

そもそも殺すということとは、誰かの存在を否定することである。殺人という行為以前に、ひとりの人間の存在を否定する思いがあること自体が問題なのであって、その思いが行動になって人の命を奪うのである(参照1ヨハネ3・15)。

最初に触れたように、私たちお互いの重みは、「神のかたち」に創造された事実から始まる。人は人格を持つものとして、霊的ないのちをもち、神のイメージを基として創造されている。この意味で、人は他の動物とはまったく異なる生き物であり、他に代わりがない神の作品である。そのような人間を、殺意を持って殺すことは、神の領域を侵すことであり、神の立場に自分を置くことになる。すべての人の命は、神の許しと計画の中で、生かされているものである。

## 創世記4・1・16

この箇所は、人類最初の殺人を記している。アダムとエバの間に二人の息子が生まれた。兄の名はカイン、弟はアベルである。あるとき二人が神にささげものを持ってきた。そのとき神は弟アベルとそのささげものに目を留め、兄カインとそのささげものを顧みられなかった。理由は、カインが神の前に正しいことをしていなかったからだ。聖書は記している(4・7)。そこでカインは大いに憤り、弟アベルを殺害する行動に出る。カインがアベルを殺した理由は嫉妬であると、容易に推察できる。弟アベルのささげものが神に受け入れられ、兄カインのものは顧みられなかったゆえに、兄は弟を恨んで殺した。ここに殺人の原因が伺われる。恨みや嫉妬が人間の心に巣くっていることが、殺人を起こす契機となる。

カインは弟を殺害した後、父母のもとを離れ、放浪の旅に出ざるを得なくなった。そのときカインの心を占領していたものは、自分が他の者たちから復讐されるのではないかと言う恐れであった(4・13・14)。そこで神はカインの体にしるしを与え、彼が復讐されて殺害されないよう顧みてくださった(4・15)。ここで推察できることは、殺人の動機が復讐心にあるということだ。すなわち仇討ちとか、仕返しである。これも私たち罪人の習性として根深いものがある。以上のように、嫉妬と復讐心を考えるならば、私たちお互い、殺人という恐ろしい罪を犯す危険性を持ち合わせていることがわかるだろう。

## マタイ5・21・26

主イエスは、殺人とは凶器などで直接手を下すことだけではなく、怒り、或いは人に対して能無し、馬鹿者と言つても殺人の範疇に含まれており、さばきの対象となることを明言している。兄弟を侮蔑する言葉を吐くことは、その人の人格を否定することになる。したがって、神が生かしておられる人を侮り、不要だとするのは、殺人と等しいと主イエスは言われる。

パリサイ人や律法学者は、實際手を下し、人を殺さなければ、殺人とはみなさないと考えていた。そして自分たちは神の前に正しい存在であると自負しつつ、社会的弱者や貧しい者を嘲笑し罵倒していた。主イエスはここにメスを入れた。つまり、言葉によって人を殺すことも、殺人と同じである。なぜなら、言葉による攻撃も、神のかたちに造られた人間の人格を傷つけることになるからである。

また主イエスは、殺すなという消極面にとどまらず、人との積極的なかわりに進むように教えている(5・23・24)。パリサイ人は道徳上の失敗をこまかすために、儀式的供え物をしていた。しかし主は、人との正しい交わりを回復させて、神への祭壇(神との正しい交わり)に出るように説いている。自分の罪によって破壊された人間関係を修復することで、はじめて神への礼拝が意味を持つのである。そして人間関係の和解の中心には、やはりキリストの十字架の愛が恵みとして明確に自覚される必要がある。

聖書 出エジ20・13 創世記9・5・6  
タイトル 殺してはならない  
中心聖句 あなたは殺してはならない。  
出エジプト20・13  
目標 神のかたちに造られた人の尊厳を殺してはならない理由を発見する。

# 導入

今日学ぶのは、十戒の6番目「あなたは殺してはならない」です。近頃、中学生が集団でホームレスの人を殺すとか、家族や同級生、先生に暴力をふるうなどという悲しいニュースを聞くことが多くなりました。今日は、なぜ人は人を殺してはいけないかを、学びましょう。

## 一、命はかけがえないから

神様はノアに、大洪水の後「わたしは人の命のために、報復するであろう。人の血を流すものは、人に血を流される、神が自分のかたちに人を造られたゆえに」と、おっしゃいました。人の命を奪ったら、命は命でしかつぐなえないのです。最近のテレビには、人を殺す場面がとてモリアルに放映されます。テレビゲームにいたっては、ゾンビという設定になってはいますが、人を殺していくことをシミュレーションするゲームまで、流行しました。作り物の世界では、痛みも偽物だし、一度死んでも、生き返ることが簡単にできます。しかし、現実には全く違います。本当の人の命は、簡単にボタンを押してリセットできないので

す。また、殺人を犯したら、お金では決して弁償できません。たとえ何億円のお金を用意しても、死んだ人の命は返ってこないのです。神は唯一であり、両親も唯一で、命も唯一です。たった一つしかなく、他に代えることができません。かけがえないものだから、大切にしないといけません。ですから、人を殺してはならないのです。

神様は殺人者に対して、神様ご自身が復讐するとおっしゃいました。殺人には報いがあります。人の命を造られた神様が、命を奪った者に対して正しい復讐をされます。人間が自分で復讐すれば、復讐に対してまた復讐がおき、際限なく復讐が繰り返されます。ですから、自分で復讐して、殺してはいけません。神様が正しい裁きを下してくださいますから、神様にまかせて、自分で人を殺してはならないのです。

## 二、人は神様のものだから

「神が自分のかたちに人を造られたゆえに」と記されているように、私たちは、神様のかたちに造られた神様のものです。あなたが造った粘土細工は、誰のものですか。あなたのものですね。神様の造られた人は、誰のものですか。神様のものです。どこの誰でもそれは同じです。小さな赤ちゃんも、病気のお年寄りも、神様に造られた大切な存在です。私たち自身も神様にとってはとても大切な存在です。ですから、自分の命だから自分の自由にするということもできません。どんな命も神様のものですから、神様のものを、人が、自分勝手に殺してはならないのです。

## 三、神様を否定することだから

殺人は、刃物で刺したり拳銃で打ったりすることだけをいうわけではありません。その人がいなければいいと考えることも殺人です。「あんなやつ、死んでしまえ」と思ったり、言ったりしたことはありませんか。それは相手を否定していることです。それも思いや言葉で人を殺している殺人だと、イエス様はおっしゃいました。人の価値は、その神のかたちにあるのです。神様は、お造りになったもののうち、人間だけを神のかたちに造られました。その神のかたち（人格）が天に帰るために、イエス様は十字架にまでつかれました。ですから、どんな人も神様に愛されている価値があります。どんな人間も、キリストが身がわりになられたほどの人です。殺していい人など一人もいません。神のかたちである人を言葉や思いで否定することは、そのかたどった神を否定することです。だから、言葉でも思いでも殺してはいけません。

## 結論

皆さんはこれまでに、誰かを憎んだりののしりたりしたことはありませんか。人を憎むことも殺人です。今すぐ神様にお呼びして、イエス様の十字架の贖いで赦していただきましょう。命は唯一で、かけがえないものですから、殺してはいけません。命はそれを造られた神様のものですから、人が勝手に殺してはいけません。そして、人は神のかたちに造られていますから、それを否定するのは、元のかたちである神様を否定することです。だから殺してはいけません。

## ワーク A

### 導入のヒント

イエス様は、悪口や憎しみも、人を殺すことと同じといわれました。私たちはみな、神様に愛されて造られました。そしてイエス様は、私たちの罪の為に十字架にかかってくださいました。これほど神様が愛してくださっている人を、憎んだり、悪口を言うなら、それは殺すのと同じです。気がついたら悔い改めて、イエス様を信じましょう。

●ワークについて

牛乳パックを用意し、下から7センチ位の所で切って箱を作ります。箱の外側を色紙で包み①～⑥のカードを貼りましょう。

## ワーク B

●質問1 人の命を奪うことだけが「殺す」ということなのでなく、人を大切にしないことが殺すことになる、お話しの中で強調してください。

●質問2 人間はいろいろな基準で人を大切にしたり、しなかったりしますが、神様はどんな人も一人一人大切に思っておられます。全部〇です。

●質問3 神様が大切にされている一人一人を私たちも殺してはいけないことを確認しましょう。

●讃美歌 「なかよしばんきょう」

(こどもさんびか50番)

●今日のお祈り 「神様、神様が大切にされているすべての人を、私も大切にできるように私の心を強くしてください。」

## ワーク C

●第2問で、「あなたは、この人はいないほうがいい、と思ったことはないか」と尋ねてみる。嫌いだったり、憎んだり、いじめたり、無視したり、そういう経験を話して合点する。マタイ5・22の「兄弟に対して怒る者」「愚か者と言ふ者」「ばか者と言ふ者」は殺人と同じだという基準に照らせば、自分も殺人者だと分かるだろう。そのようなことは、全ての人がしてきたことであろうし、それを裁く資格のある人はいない。また、牢に入れられるわけでもないで軽く見られるが、創造者の基準を正面から受け取るように指導したい。

## ワーク D

●質問1 人は命を創り出すことができません。命は代わりがない、かけがえないものです。償っても元どおりにはなりません。

●質問2 人は、神のかたちに造られた尊い存在です。神が良しとされたものを勝手に否定したり憎んだりすることは、神を否定することです。

●質問3 死にたくなるような悲しい経験をさせてはいけません。生きた存在を傷つけることも、殺人と同じです。

## 中高校へのヒント

### 考えてみよう

- 1 人はどのような存在ですか。
- 2 なぜ人を殺してはいけないのでしょうか。
- 3 旧約時代、人を殺した者にはどのようなさばきが臨みましたか。
- 4 新約聖書では、人を殺すことについてどのような言っていますか。

### ●自分に当てはめてみよう

- 1 あなたは人を殺したいと思ったことはありませんか。それはどうしてですか。なぜそれをしていないのですか。
- 2 あなたは言葉で人を殺していませんか。「心にもないことを言っ」と弁解する人がいますが、本当にそうでしょうか。
- 話し合ってみよう
- 1 人を殺す罪として、どのようなものがあるでしょうか。
- 2 殺したいほど憎い人がいる場合、どうしたらそのような感情から解放され、愛することができようになるでしょうか。
- 3 憎しみから解放された体験があれば、分かち合いましょう。
- 4 現代の中高生の中に、簡単に人を殺してしまう人がいるのはなぜでしょうか。
- 5 自殺や安楽死、中絶、脳死と臓器移植、戦争、死刑制度について、どのように考えたらよいでしょうか。



聖書 出エジプト20・14

テーマ 姦淫してはならない

## 序論

第七戒も、性が非常に乱れているこの時代だからこそ、子どもたちにしっかりと教えねばならない。「姦淫」とは、夫婦間以外のすべての性的関係と言ってよい。多くのマスコミは、この「姦淫」を罪と考えず、かえって正当な快樂のように扱っている。しかし、これは大間違いである。姦淫の影響が、どれほど悲惨な結果をもたらしていることが。本日は、姦淫してはならない理由を学ぶ。

## 一、唯一だから

神は、アダムを創造された後、一人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう（創世記2・18）と仰せられ、一人の女を造られた。人にふさわしい助け手は、いかなる動物でもだめであった。神のかたちに造られた人格（霊）のある人でなければ、ふさわしくないのである。夫婦は、人格の交わりによって人格を成長させるため、互いに唯一の助け手として、神から与えられた存在なのだ。

十戒は神が唯一であるように、親も唯一であり、命も唯一であり、かけがえがないから、大切にすべきだと教えている。そして、夫婦も唯一である。夫婦の関係も、かけがえのないもので、他に夫または妻をつくっても、それに仕えても、みだりに扱ってもいけないのだ。かけがえのない夫婦の関係を粗末に、みだりに扱って姦淫してはならない。

## 二、人格を傷つけるから

また創世記2・24には、一人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのであると記されている。これは、神が三位一体であるように、夫婦も一体となることを教えている。夫婦は、人格と人格が交わって一体となる人格的な関係なのだ。しかし姦淫は、人格の一体化を目的としない交わりである。1コリント6・16・17には、主と交われれば主と一つ霊になるが、遊女と交われれば遊女と一つ体になることが示されている。人格はその交わるもの一つになる傾向を持つ。しかし、それは反面、2人以上の者と交われれば双方と一つになろうとして、人格が引き裂かれるのである。人が伴侶ならぬ者と姦淫することは、自分の人格を引き裂き、また相手の人格も引き裂く。また、伴侶とも姦淫の相手とも不完全な交わりしかできない。姦淫は、互いの人格を傷つけるから、決してしてはならない。

主イエスは、人欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。もしあなたの右の目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい（マタイ5・28・29）と言われた。肉体の価値よりもはるかに人格（霊）の価値が高いのだ。目を捨てても、永遠の滅びを免れるべきである。情欲は、人を外側の肉体の美しさだけで見て、その人のうちに神のかたちを見ない。これは人を人格と認めない悪口が、殺人であるのと同じだ。心の中の姦淫も、人を人格と認めないから、そのかたどった元の神を否定し、軽んじ、傷つけることになる。だから、心の中の姦淫もし

てはならないのだ。

## 三、不幸をまき散らすから

（望まない妊娠）姦淫で妊娠した場合、墮胎は殺人の罪となり、母親の心と体に深い傷を与える。出産した場合でも、人生の設計が壊れる。夫婦関係が正常でないままでの育児は、様々な障害をもたらし、生まれた子どもにも負担となる。

（性病への罹患）姦淫は性病の蔓延に力を貸す。夫婦だけの性交なら決して性病は蔓延しない。また、自分だけでなく胎児にも感染する。エイズに感染した場合、治療ができずに死にいたる。

（人間関係の崩壊）姦淫を犯す人は、結婚を重んじない。その結果、夫婦の関係が崩れ、親子の関係もそれに應じて崩れる。その結果、家庭が崩壊していく。離婚が増えるのも姦淫の結果である。

## 結論

夫婦は互いに、かけがえのない唯一の助け手だから、姦淫してはならない。姦淫は互いの人格を傷つけ、それをかたどった元の神を傷つけるから姦淫してはならない。そして、自分とその周りに不幸をまき散らすから姦淫してはならない。

自分は姦淫など犯したことがないと言った人がほとんどだろう。しかし思いのなかで姦淫していることに気づこう。そして、悔い改めて、主の十字架によって罪を赦していただき、人の内に神のかたちを見てゆこう。どの人も神のかたちに造られ、主が十字架で身がわりになってくださったほど価値のある者なのだ。

## 研究資料

（足立）

第七戒は、正しい性の関係を受け入れるように命じている。人間は神のかたちに創造され、男と女に創られた（創世記1・26・27）。また一人の男性と一人の女性が、結婚関係において一体となることを神はみこころとされた（創世記2・24）。この一体とは、知性において、情緒において、そして意志において、つまり全人格的に一つとなることであり、この中に夫婦の性的結合も含まれている。だから性のあるべき姿は、互いに愛し合う夫婦の結婚関係でのみ成立するものである。しかも互いに自分を相手に与えることによって、一体となるのである。そして性の営みは、生涯にわたる互いの貞節の歩みが前提である。

「姦淫する」という動詞（ナーフ）は、結婚している男や女が、その配偶者以外の既婚の異性と性的交渉を持つ行為に用いられている。とはいっても、未婚者との性的交渉（不品行）が認められているのではない（創世記39・9）。姦淫に対する罰則は、死刑であった（申命記22・22）。処女を誘惑した場合の罰則規定も記されている（出エジプト22・16・17、申命記22・23・29）。マラキ書2・13・17によれば、結婚は神を証人とした契約である。その契約にそむき、妻を裏切るとは、神に対する明白な罪である。夫婦の交わりを軽んじる者は、神との交わりを軽んじるものであり、神のさばきの対象となる（マラキ3・5）。

さらに神が意図された性の関係は異性同士に限

られる。神は同性愛の行為を禁じ、罪としている（レビ18・22、20・13、ローマ1・26・27）。動物と寝ることも禁じられている（出エジプト22・19、レビ18・23、20・15・16、申命記27・21）。近親相姦もかたく禁じられている（レビ18・6・10、申命記22・30、27・20）。それほど夫婦関係は神聖なものである。性に自由化はない。

しかしながら、姦淫という行為がイスラエルにおいて厳しく戒められていたにもかかわらず、最も多くの違反者が出たことも事実である。ヨルダン東岸に滞在していたイスラエルの民は、モアブの女たちの誘惑に屈し、バアル礼拝に引き込まれた。そして異教の神から祝福を得ようとした民は、性的不品行を含んだ儀式に参加して、主の激怒に触れることになった。この神罰で死んだものは、2万4千人であったと記されている（民数記25・1・9）。

信仰の人アブラハム、ヤコブ、ダビデは多くの妻を持つていたが、これは決して肯定されるものではない。複数の妻を持ったことでアブラハムは苦しみ（創世記16章）、ヤコブもがいている（創世記29・30章）。特にダビデの場合は悲惨で、多くの妻により異母兄弟が生まれ、殺し合いにまで発展している（IIサムエル13章）。イスラエルにおける一夫多妻は、周辺民族の悪影響を受けたゆえだと見るべきであろう。聖書は決して多妻を是認していない。

箴言6・20・27・27

この箇所には、不倫に対する警告と、性的誘惑に対する警告とが記されている。ここを読めば、不倫は滅びであり、誘惑に負けることは死であることがわかる。性的誘惑は非常に大きな力を持っている。自分には無縁であると高をくくるのは、現実を無視した愚かな認識である。

マタイ5・27・30

主イエスの律法解釈によると、姦淫は外面の行為だけではなく、人の内面にまでかわる問題である。「右目をえぐりだし」とか、「右手を切って捨ててしまふ」というのは、主イエスが用いた誇張法である。しかし主イエスの意図は、外面だけつじつまを合わせる人間の欺瞞を暴露して、罪を自覚させ、悔い改めと信仰に私たちを導くことにある。

1コリント6・12・20

この箇所は、遊女と性的交渉を持つ罪を問題としている。パウロは不品行の愚かさを抉り出し、キリスト信仰者のからだの正しい用い方を教えている。コリント教会には、キリスト者の自由を誤用して、遊女と性的関係を持つ人々がいた。本質的にキリスト信仰者のからだは、キリストのからだ（教会）に結ばれており、主のものである。また信徒のからだは、聖霊の宮であり、自分のものではない。十字架の代価によって買い取られた信徒は、自分のからだをもって神の栄光を現すべきである。不品行は主の教会を破壊し、自分の人格を汚す罪である。また不品行は主への背信行為でもある。

聖書 出エジプト20・14  
タイトル 姦淫してはならない  
中心聖句 あなたは姦淫してはならない。  
出エジプト20・14  
目標 結婚の意義を知り、姦淫してはならないことを発見する。

#### 導入

今日は十戒の7番目、「あなたは姦淫してはならない」を学びます。姦淫とは、夫が、自分の妻以外の人も妻とすること、もしくは妻が、自分の夫以外の人も夫とすることです。神様はこれをはっきり禁じておられます。それは大人の話のように思うでしょうが、早い時期から聖書の教える結婚ということを知っておかなければ、姦淫のわなにはまりこんでしまうのです。

#### 一、人の唯一の助け手だから

皆さんも大人になると、一人の異性と出会って結婚します。物語は、ロングロングアゴー（むかしむかしあるところに）から始まるか、アポイメットアガール（ある少年がある少女と出会った）から始まると言われています。しかし、結婚は人間が考え出したことではありません。神様が決められたことです。神様がアダムを造られたとき、「人がひとりであるのは良くない。彼のためにふさわしい助け手を造ろう」と言われ、女の人を造られました。動物はたくさんいましたが、神様のかたちに造られたアダムにとって、助け手にはふさわ

しくありませんでした。やはり、同じように神のかたちを持つ人との交わりが必要だったのです。そこでエバが造られました。男女の違いを持った2人が、助け合い、一つになるために造られたのです。夫婦は、神様から与えられ、神様が結び合わされた唯一のペアです。

十戒で学んできた唯一のものを思い出してみましょう。神様も唯一、両親も唯一、命も唯一、そして夫にとつての妻、妻にとつての夫も唯一です。唯一のものは取り換えがききません。かけがえないものなので、大切にしないとダメです。他に作っても、他の者に仕えても、みだりに扱ってはいけません。神様が与えた助け手も唯一ですから、妻以外の人を妻、もしくは夫以外の人を夫としてはいけません。

#### 二、一体となれないから

聖書は「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである」と教えています。結婚した2人は、一体となってゆきます。話し合ったり、協力したり、いろんな違いを認め合ったり、受け入れたり、悪いところは直したり、良いところはのびたりして、一体となってゆくのですね。しかし、神様が一つにされた二人の間に、他の人間が入ったら、一つにはなれません。それどころか、結婚生活を引き裂いてしまします。ですから、妻以外を妻としたり、夫以外を夫としてはいけないのです。

#### 三、人格を傷つけるから

結婚は、キャンパスと絵の具にたとえることが

できます。それぞれお互いが、夫も絵の具とキャンパス、妻も絵の具とキャンパスです。そして、ちょうど最適な絵の具の量で、お互いのキャンパスに絵が完成するようになっているのです。しかし、その絵の具で妻（夫）のキャンパスと他のキャンパスにも色を塗るなら、絵の具が足りず、どちらのキャンパスにも絵が完成しません。また、妻（夫）の絵の具と他の人の絵の具で、自分のキャンパスに二重に塗られると、これもぐちゃぐちゃになって絵になりません。そうです。姦淫は、お互いを完成させずに、お互いを汚し合うのです。それは神様が人間を造られたときにおっしゃった「われわれのようになるように」という目的から逸らせ、神のかたちを破壊することになります。ですから、妻以外を妻としたり、夫以外を夫としてはいけません。

#### 結論

夫にとつて妻、妻にとつて夫は唯一です。神様がふさわしい助け手として、与えられたのです。ですから妻以外を妻としたり、夫以外を夫としてはいけません。また伴侶は、一体となるために神様から与えられました。けれど、妻以外の人を妻としたり、夫以外の人を夫として、他の者が挟まるとは、一体になれません。ですから、姦淫してはいけないのです。また人は神のかたちに造られ、神様に似ることを求められています。姦淫は互いを完成させずに破壊します。ですから妻以外を妻としたり、夫以外を夫としてはいけません。

### ワーク A

#### 導入のヒント

神様はけがれたことを嫌われます。神様を知らない多くの人は、結婚してはいないのに赤ちゃんが出来ても平気です。でも、神様はこのような罪を大変嫌われます。私たちが愛して天国に導いてくださる神様の前に、きよく生きていきましょう。

#### ワークについて

紙コップで遊びましょう。紙コップとビー玉を用意します。大かねこの顔と足に色を塗って切り取り、紙コップに貼りつけます。中にビー玉を入れて、坂道を転がして遊びましょう。

### ワーク B

●質問1・2 姦淫ということは低学年の子どもたちには難しいので、神様に喜ばれる結婚について話しましょう。神様は、結婚の相手としてただ一人だけをはじめから決めておられます。

●質問3 神様が決めてくださった相手は、別れることも、交換することもできません。いつまでも大切にすることを神様は喜ばれます。このことを忘れるとき、姦淫の罪につながっていくのです。

●讚美歌 「わたしはしめのことです」

（こどもさんびか51番）

●今日のお祈り 「神様、神様の決めてくださった人と結婚して、いつまでも大切にできるように、そして罪をおかさないように私を守ってください。」

### ワーク C

●姦淫という行為や心に湧きあがる欲情というのは、まだその年齢に達していない児童には説明しにくい。また、大人は、欲情や性的行為やその結果などが実際の理解でき、自分にも罪や欲情があると自覚しているの、語りによく触れにくいことである。しかし、まだ情欲が湧きあがってくる前の適切な時に（この時がいつかは、一概には言えないだろうが、少なくとも小学生のうちには）はっきりと語っておかなければならない。そういう罪に満ち、誘惑とわなが溢れている現代、情欲が湧きあがってからは遅い。また、この世の性教育は、単に医学的・科学的知識であったり、セックスの仕方、避妊の方法を伝えるセーフセックスが中心であるから、非常に不十分である。

### ワーク D

●質問1 姦淫は正しい結婚を壊します。ワークの最後にもう一度考えて下さい。

●質問2 ふさわしい相手は、一体となるべき人であり、その人はただ一人です。

●質問3 24節の接続詞に注目。神が造られたふさわしい相手と結ばれることが大切です。それは、心と体の全人格的な交わりです。

●質問4 いったん傷つくと、他のものとびったりとはくっつきません。正しい結婚のために、結婚の前後も守られなければなりません。

### 中高校へのヒント

#### ●考えてみよう

- 1 姦淫とは、どのような行為のことを指していますか。
- 2 なぜ姦淫してはいけないのでしょうか。
- 3 旧約時代、姦淫の罪を殺した者にはどのようなさばきが臨みましたが（レビ20・10他）。
- 4 新約聖書では、姦淫についてどのように言われていますか。

#### ●自分にあてはめてみよう

- 1 あなたは姦淫していませんか。心の中の姦淫はどうでしょうか。
- 2 あなたは情欲にどのように対処していますか。情欲に負けてしまったとき、あなたはどのようにしますか。主との関係を回復するために、どうしたらよいでしょうか。

#### ●話し合ってみよう

- 1 主は、男女の性や結婚についてどのように言っておられますか（創世記1・28、2・24などを参考にしてください）。
- 2 姦淫は、どのような結果を関係者にもたらしますか。
- 3 情欲を退けるためには、どうしたらよいでしょうか（創世記39章のヨセフを参照）。逆に、情欲に負けてしまうのはどうしてでしょうか（サウル下11章のダビデを参照）。
- 4 婚前交渉や離婚、同性愛について、どのように考えたらよいでしょうか。



## 聖書 出エジプト20・15 テーマ 盗んではならない

### 序論

第八戒も、「殺すな」「姦淫するな」という戒めと同様、「自分はちゃんと守っている」と言う人が多いだろう。しかし、「盗み」という言葉が何を意味しているかを知ったなら、そう言っておれない。子どもたちにも、「盗み」とはどういうことを、この機会にしっかり教えよう。

### 一、人のものを盗むこと

今までの学びで、唯一のものを大切にすること、神のかたちにつくられた人格を大切にすることを教えてきた。そして、第八戒以降の盗み、偽証、むさぼりの禁止では、人の権利を大切にすることを教える。「物」には目には見えないが所有権がある。その所有権は、神が定めた人間同士のルールだから、大切にしないといけない。

まずこの戒めは、人の持ち物を自分のものとしてはいけないことを命じている。お店でレジコム一つでも万引きするなら、この戒めにそむいている。「ばれなければ大丈夫」「一つぐらいなら大丈夫」「みんなやっているから大丈夫」などと思っはならない。どんな小さな物も、代金を払わないかぎり、所有権はお店にある。

友だちのシャープペンシルやおもちゃを取ることも、盗みの罪だ。その友だちはどう思っているだろうか。もし自分の大切にしている物がだれかに盗まれたら、きつと腹をたてたり、悲しがつた

りするに違いない。その友だちが「あげる」と言わない限り、所有権はその友だちにある。

親のサイフからお金を取ることも盗みである。△父や母の物を盗んで「これは罪ではない」と言う者は、滅ぼす者の友である△(箴言28・24)と聖書に記されている。「ハイ、これお小遣いよ」と親がサイフから出して手渡さない限り、そのお金の所有権は親にある。

電車やバスの乗車料金をこまかくすることも盗みである。物は盗んでなくても、乗車する権利を電車やバスの会社から盗んだことになる。小学校に入学したのに切符を買わなかったり、中学生になったのに子ども切符で乗ったり、定期券を不正に使用したりしたことはないだろうか。

### 二、人のものを返さないこと

自分では盗むつもりでなくても、長い間借りている物を返さないなら、それは「盗み」である。△悪しき者は物を借りて返すことをしない△(詩篇37・21)と聖書は言う。友だちから借りっぱなしになっている本やゲームはないだろうか。借りたお金を返すことを忘れていないか。借りた物の所有権は貸した人にある。

落とし物を拾っても、それを届けずに自分のものにすることはないだろうか。落とし人は、悲しがつているに違いない。落とし物の所有権は、落としした人にある。

買物をしたとき、おつりを余計にもらったのに、返さないなら、それも盗みの罪である。同じ釣り銭でも、余計な分は、お店に所有権がある。

### 三、神のものを盗むこと

△地と、それに満ちるもの、世界と、そのなかに住む者とは主のものである△(詩篇24・1)。だから、私たちも私たちの持ち物も、本当はすべて神のものだ。それを自分の物と考えることは盗みの罪である。また神は、△あなたがたは、わたしの物を盗んでいる。……十分の一と、ささげ物をもってである△(マラキ3・8)と仰せられる。神にささげ物をしないことは、大きな罪であることを忘れてはならない。神は私たちに必要なすべてを与えてくださっている。神を信じる者には、アブラハムと同様に、△あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう△(創世記12・2)との約束が与えられている。だから、神の国と神の義とを求めるなら、衣食のすべてが備えられるのだ。人の物を盗まないでも、ちゃんと生活していける。

△盗んだ者は、今後、盗んではならない。むしろ、貧しい人々に分け与えるようになるために、自分の手で正当な働きをしないさい△(エペソ4・28)と、パウロは命じる。盗むのではなく、分け与えるようになる。神が十分に与えてくださっているから、他の人に与えるようになる。

### 結論

今までに、人の物や神の物を盗んでいたことに気がついた人は幸いである。それをそのままにしていけない。主イエスは、その罪を赦すために十字架にかかってくださったことを信じ、悔い改めて、与える人になろうではないか。

## 研究資料

(足立)

第八戒は、互いの所有を尊重することを教えている。私たち人間が物や金銭、またある種の権利を手に入れるには、大きく考えて三つの方法がある。第一は、贈り物として貰うということ。入学祝いや、結婚祝い、土地や家屋に至るまでその範疇は広い。これは、贈る側の自由な意志から出ている。第二は、労働の正当な報酬として得ること。仕事に対する給与、賃金等である。汗水流してそれ相当のものをいただくことは、良いことである。第三は、盗みによって他人のものを奪うこと。万引きに始まり、だます、奪う、巻き上げる、返すつもりがないのに借りる等である。

聖書が「盗むな」と主張している内容は、愛と労働以外の方法では何も所有してはならないというものである。

聖書が指摘している盗みとは、私たちの日常生活と密接に結びついている。たとえば、時間を盗むということ。約束した時間にいつも遅れることは、相手の時間を常に盗んでいることになる。また商品やサービスに法外な値をつけ、相手の必要につけ込んで不当な利益を得ることも、神の前には盗みとみなされるであろう。聖書は偽りの重りやますを非難している(申命記25・13・15、アモス8・5)。そして借金を返済しないままでおくことは、相手がお金を使う機会を奪うことにもなる。釣銭を多くもらって、そのまま受け取ることも立派な盗みである。第九戒と結びつくことであるが、

人の信用を盗むことも盗みにあたる。当人のいないところで悪意ある噂を流すことは、その人の評判を落とすことになる。

古代世界ではしばしば行われていた誘拐が、旧約聖書では禁止されている。しかもその刑罰は死刑である(出エジプト21・16)。そもそもイスラエルの民がエジプトで奴隷として苦役に服したのは、ヨセフの兄たちが彼を奴隷商人に売ったことが発端となっている(創世記37章)。

盗みは契約共同体の交わりを破壊し、その罪のゆえに主の臨在が失われる(ヨシヤ記7章)。難攻不落の町エリコを陥落させたイスラエルであったが、小さな町アイ攻略には失敗した。アカンの盗みによって、主への契約と聖別の命令が破られ、民全体が連帯責任を取る敗北となった。

ダビデの息子アブシャロムは、王位継承のためにひそかな準備をした(Ⅱサムエル15・1・6)。彼は部下50人と、戦車や馬を用意し、王ダビデのもとに裁きを求めて来る人を朝早く途中で迎え、親しく語りかけ、彼らの訴えを支持した。また王の裁きに公正さが欠けるとほめかし、そして挨拶してくれる者を抱擁して親近感を与えた。このことによってアブシャロムは、王ダビデへの民の忠誠心を盗んで、自分のものとした。

イスラエルの王政確立後、特に預言者の時代には王による搾取が行われていた。エズレル人ナボテのぶどう園を王アハブが横領したのである(列王上21章)。先祖伝来の地を法にかなって守ろうとしたナボテを、アハブの妻イゼベルはイスラエル

の法を悪用して殺害した。そしてナボテの土地は没収された。エリヤは、王でも個人の所有権を権力によって侵害することは許されないとさばきを宣告し、異教の妻によって翻弄される背信の王アハブに主のみこころを提示している。

主イエスの12弟子の一人イスカリオテのユダは、銀貨30枚で自分の恩師を売る大罪を犯してしまった。彼はそれまでも小さな盗みを繰り返していた。イエスから財布を預けられていたユダは、時々中身をこまかしていたのだ(ヨハネ12・4・6)。ユダは小さな盗みを積み重ねるうちに、大きな犯罪へと進んでしまったという見方ができる。

取税人の頭ザアカイは多くの人から金を巻き上げて金持ちになったが、主イエスに見出され救われて、すべての人から自分がだまし取ったものの4倍の額を返すことを約束して、悔い改めの実を示した(ルカ19・8)。彼は出エジプト22・1にある羊1頭を羊4頭で償う規則を自分に当てはめている。もし私たちが何らかの盗みを自分がしていることに気づいたなら、神は私たちに被害を与えた人に対して償いをすることを求めておられる(悔い改めの実として)。

パウロは、「盗みをしている者は、もう盗んではいけません」(エペソ4・28)と言っている。これは、法に触れる本格的な犯罪をさすのではなく、不当な利息によって儲けている人など、神の目から見た盗みを働いている人と理解するのが妥当であろう。

聖書 出エジプト20・15  
タイトル 盗んではならない  
中心聖句 あなたは盗んではならない。  
出エジプト20・15  
目標 どんな盗みも神が禁じられた誤った行為であることを発見する。

導入

今日は十戒の8番目、盗みの禁止です。昔は、おなかが減って仕方なく柿を盗んで食べたといったことがあります。最近はお金がないからではなく、必要でもないのに、万引きをする人があります。スリルが楽しいからやめられないというのです。理由はいろいろあれ、盗みは罪です。神様が明確に禁止しておられる盗みとはどういうことかを知り、悔い改めて盗まない者になりましょう。

一、人の物を盗む罪

まず、皆さんの周りの物には、みんな所有権があり、所有者がいることを知ってください。この講壇はだれのものですか。教会のものですね。ではこのペン？これは先生のものです。教会に来る途中にあった街路樹はどうですか。あれは市のものです。皆さんの周りの物には、目に見えない所有権があって、誰かのものなのです。お店に並べてある品物を、お金を払わないで自分のものにするのを万引きといえます。お店に並べてある物は、代金を支払わない限りお店のものです。勝手に自分のものにするのは盗みです。

落とし物を勝手に自分のものにするのも、もちろん盗みです。落とし物は、落とし主のもので。だから警察に届けましょう。

では、親のサイフから勝手にお金を持ち出すのは盗みでしょうか。たとい親子でも、親からお小遣いとして渡されなければ、そのお金は親のもの。勝手に持ち出すのは盗みです。

弟の自転車だからと言って、勝手に使っちゃいいでしょうか。弟に「貸して」と尋ね、弟が「いいよ」と言わない限り、勝手に使ったら盗みです。そのほかにも、物を借りたまま忘れたり、まだ貸しているのに盗みです。借りた物は貸し主のもの。勝手に利用するのは、盗みです。

買い物をしておつりをもらった時、多かつたらどうしますか。同じお釣でも、お釣の多い分の所有権は、お店にあります。返さなかつたらそれは盗みになります。

「ばれなければいいじゃん」と思っている人はいませんか。大間違いです。神様は全部ご存じで、必ず裁かれるのです。

「たった一回だからいいだろう」と思っている人も大間違いです。一回でも罪は罪です。

「みんなやっているからいいでしょう」と思っている人も大間違いです。みんながやっているように見えて、罪は罪です。全員が裁かれます。

他の人の物を盗みながら、堂々と晴れ晴れした気持ちでおられる人はいませんか。人の目や自分をこまかしても、良心に神様が罪を示されます。

二、神様の物を盗む罪

皆さんは、自分の時間や才能は自分のものだから、盗みとは何であるかが、具体的にいろんなケースを挙げて、聖書講解や説教例に記されている。「盗もう」という動機をもって手を出す以外にも、神様の前には盗みとなることがある。第2問のイラストを見ながらそれを話し合ってください。具体的な「盗み」の事例（イラストにないものも考えてほしい）を一緒に考えながら話し合いたい。

ワーク A

●暗唱聖句（9月1日～29日）

あなたは盗んではならない。（出エジプト20・15）

●導入のヒント

お友だちのおもちやが欲しくなって、家にもって帰ってしまったら、ずっと借りたままになっている物はありませんか。神様は盗んではいけないといわれます。借りたものは返して、神様に喜ばれるようにしましょう。

●ワークについて

象に色を塗って切り取ります。下部の紙を切り抜いて三角形の台を作り、象を貼りましょう。

ワーク B

●質問1 人のものを自分のものにしてしまうことが盗みです。子どもたちの生活の中で盗みというものを理解できればいいですね。

●質問2 神様は盗みをはっきりと禁じておられることを確認しましょう。

●質問3 盗みをしたことのある子どもは多いと思います。神様にも人にもあやまって、赦してもらいましょう。

●讃美歌 「かみよわたしの」（こどもさんびか60番）

●今日のお祈り 「神様、私も盗んだことがあります。赦してください。そして、これからは盗むことがないように守ってください。」

ワーク C

●盗みとは何であるかが、具体的にいろんなケースを挙げて、聖書講解や説教例に記されている。「盗もう」という動機をもって手を出す以外にも、神様の前には盗みとなることがある。第2問のイラストを見ながらそれを話し合ってください。具体的な「盗み」の事例（イラストにないものも考えてほしい）を一緒に考えながら話し合いたい。

●「ほしい」と思うことも、執着してむさぼりとなれば盗みである。神様が全てのものの創造者、所有者、裁き主であることを考えに入れ、「所有権」「使用権」の概念を話しあおう。高度なことではあるが、時間や才能も、神から与えられたもので、盗みとなる場合もある。

ワーク D

●質問1 被害者の立場になって、盗みの罪の深さを考えてみましょう。盗むことそのものが罪であることを、自覚せねばなりません。

●質問2 盗みだとの意識がないことが、落とし穴です。誰も気がつかなくても、罪は罪です。

●質問3 使用目的を守らないことは、盗むことになります。神様を自分のわがままのために利用していることになります。

ら、自分のために使っていないと思っていないませんか。聖書には「地とそれに満ちるもの、世界と、その中に住む者とは主のものである」と記されています。この世の全ては神様のものなのです。皆さんが自分のものだと思っている時間や才能も、実は神様のもので、この地上で生きている間に使用を認められているだけです。

他人のものを、自分のために使うことを横領と言います。もしあなたが自分の才能や時間を自分のためにしか使っていないとしたら、これも横領という盗みになるのです。例えば神様のために使うはずの安息日を、ゲームで遊んで使ったら、これは横領という盗みです。ですから時間も才能も神様と人のためになり、なおかつ自分も喜べることに使いましょ。将来、皆さんは職業につきま。神様と人のためになり、また自分も喜べる職業につきましょ。

結論

あなたの部屋に借りたまま忘れている友だちの物は眠っていないでしょうか。もし思い出したなら、すぐ、その物を返しましょ。それから、もし盗んだ物があつたら、弁償しましょ。相手の人には、勇気を出して正直に告白しましょ。そして神様の前に出て悔い改め、イエス様を信じて心に受け入れ、イエス様の十字架の贖いを受けましょ。そうすれば、罪が赦されるのです。その上、どんな大金でも買えない、心の平安が湧いてきます。

中高校へのヒント

●考えてみよう

- 1 旧約時代、盗みの罪を犯した者にはどのようなさばきが臨みましたか（出エジプト22章他）。
- 2 盗みの罪を犯すことによって祝福を失った例を見てみましょう（ヨシヤア7章のアカン他）。
- 3 盗みの罪を悔い改めることによって祝福を得た例を見てみましょう（ルカ19章のザアカイ他）。

●自分にあてはめてみよう

- 1 あなたは、自分が大切にしている物を盗まれたことがありますか。そのとき、どう思いましたか。
- 2 あなたは盗みの罪を犯したことがありますか。もし犯したことがあつたら、その後、どうしましたか。
- 3 盗みの罪を示されて悔い改め、弁償したことがありますか。逆に、そのままに置いて、良心に痛みを感じていることはありませんか。
- 話し合ってみよう
- 1 人はなぜ盗みの罪を犯すのでしょうか。
- 2 盗みの罪として、どのようなものがあるでしょうか（働くべき時に働かないで時間を盗む、噂話をして人の信用を盗む、浪費、他）。
- 3 もし盗みの罪を犯していたならば、どうすべきでしょうか。
- 4 盗まないだけでなく、より積極的にどう生きるべきでしょうか（エペソ4・28他）。



# 聖書 出エジプト20・16 テーマ 偽証してはならない

## 序論

第九戒は、基本的には法定での証言のことを意味しているが、「法廷または公の場」という具体的な場において人がとるべき態度を教えることによつて、人生全般に対してとるべき態度をも教えていると考えられる方がよい。『新聖書注解』。裁判の席だけでなく、日常生活においても「うそをついてはならない」のである。子どもたちは、これを今までの8つの戒めよりずっと身近に感じるだろう。パウロは、この戒めをもっと積極的な形で、「あなたがたは偽りを捨てて、おのおの隣りに対して、真実を語りなさい」(エペソ4・25)と表現している。

神の造られた世界には、目に見えないがルールがある。人は正義や真理や名誉を守る権利があり、同時に義務があるのである。

## 一、対人関係におけるうそ

聖書が、あなたと隣人についてVと言っている点に注目しよう。隣人との関係を正しく保つためには、うそをついてはならない。

(陥れるためのうそ) 本当はしていないことを、ある友人がしたと言ふなら、それはうそである。友人を陥れようとする心が、その言葉を語らせているのだ。友人が皆に良く思われるのを嫉妬してか、あるいは復讐かもしれない。それでは、良い対人関係ができるはずはない。

(益を受けるためのうそ) 良い関係を作ろうと思つて「まをす」ても、それが真実でないなら、そういう人間関係も早晚崩れてしまう。「ますりも、うその表現なのだ。」

(良く思われるためのうそ) また、自分を他人により良く見せるためにうそをつくことがある。宿題を忘れたことを病気のせいにしたり、テストで良い成績をとろうとして、カンニングしたりすることは、その例だろう。

(罰をまぬがれるためのうそ) 自分がお皿を割っておきながら、妹のせいにする。これは、罰を逃れたいという心のゆえである。

うそは、隣人の人格を傷つける。隣人の真実の姿を見えなくし、その隣人と周囲の人々の関係さえも悪化させてしまう。正義や真実を曲げてはならない。他人に対しても、自分に対しても、飾ることなく真実なことを、真実に話しているなら、健全な人間関係が生まれてくる。

## 二、対神関係におけるうそ

対人関係の背後には、対神関係がある。アナニヤとサツピラの物語(使徒5章)は、それを最もよく示す例であろう。彼らは自分の資産を売り、その代金を教会にもってきた。しかし、一部だけなのに「全額だ」とうそを言ったのだ。彼らは、人を欺いたのではなく、神を欺いた。ゆえに神の裁きを受けることになった。

彼らは、教会の人々に「立派な人だ」と思われなかったのだから、神はすべてを「存じ」であつた。「だれも真実を知っていない」と思ふ人は、た

やすくうそをつくだろう。しかし、「神はすべてを「存じ」だ」と思ふ人は、うそをつくことができないのである。クリスチャンは、特にこのことを肝に銘じなければならない。アナニヤとサツピラの轍を踏んではならない。

## 三、うそを言った場合に

私たちはついうそをついてしまふが、それは明確に罪である。神様は、その罪を悲しんでおられる。しかし自分の罪を告白するなら、神様は赦してくださる。もしうそを言つて誰かを傷つけたなら、その人に謝ろう。また、自分が得をするためにうそをついたことがあるかもしれない。でもそれを告白する勇気をもとう。人隠されているもので、現れないものはない。(マルコ4・22)。

うそをついてその場しのぎをしても、ばれることを恐れるようになるだけだ。ありのまま話して謝ることのほうが、ずっと平安ですごせる。主イエスの十字架の贖いにより赦されるのだから、正直に謝れる。ありのままの姿で神様の前に出よう。

## 結論

正義や真実をまげて、人の権利を奪ったり、不当な利益を得たりしてはならない。コロサイ4・6には、八塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさいVと記されている。他の人の励ましとなるような言葉をしゃべることができれば、どれほど幸いなことか。うそをついて人を傷つけるか。それとも真実の言葉で人を励ますか。あなたは、どちらを選ぶだろうか。

## 研究資料

(足立)

第九戒は、単に嘘をついてはいけないということではなく、隣人に対して本当でない、不誠実な証言を提示してはならないという意味である。この戒めは第一義的には、法廷における証言に関連している。裁判において裁判官が大切なのもっともなことだが、証人もまた重要な役割を果たす。法廷における答弁は真実なものでなければならぬ。証言によって訴えられた者の生死が決定されるのだから、証人は二人以上を必要とした(民数記35・30、申命記19・15・19)。二人以上の証言が内容的に一致しない限り、律法違反の事実認定はされなかった。それゆえ第九戒が求めていることは、事実を事実として真実を証言することである。現実の裁判では、特別な感情によつて、また悪意によつて、また賄賂をもらつて、偽りの証言をし、隣人を苦しめることがよくある(参照出エジプト23・1・3、6・8)。

第八戒でも記したが、列王上21章に記録されている「ナボテのぶどう畑」は偽証を例証している。サマリヤの王アハブは、その妻イゼベルとともに悪名高かった。王の宮殿の隣にぶどう畑があり、持ち主はナボテであった。王はその畑を買収しようとしたが、ナボテは応じなかった。王が食事もせずにそれを嘆いていたので、王妃イゼベルは策略をめぐらす。彼女はナボテを法廷に引き出し、二人の偽証を立てて、彼が神と王とを呪つたと

偽証させて、死刑にしてしまった。イゼベルがやったことは、申命記17・6・7の悪用には他ならない。偽証に関して聖書中最大の事件は、何といつても主イエスの裁判である。主イエスが伝道生涯に入ると、彼の人気はうなぎのぼりであった。当時のユダヤの指導者たちは、主イエスの存在により自分たちの地位やリーダーシップが危うくなるという不安と嫉妬から、イエスを殺害計画を立てた(マルコ3・6)。しかしイエスには何の罪も見出せない。指導者たちはイエスの弟子イスカリオテのユダをそのかしてイエスを逮捕し、最高法院での裁判を企てた。そこでどのようなことが行われたかが、マルコ14・53・65に記されている。この箇所には私たちは、イエスの無罪(14・55)と繰り返される偽証(14・56・58)、そして複数の証言の不一致(14・56、59)とを見る。このとき大祭司は強引に、神を冒瀆したという現行犯でイエスを死刑に処すべきであるという、最高法院から死刑の決議を引き出したのである。このような不当な裁判を主イエスは受けた。

初代教会最初の殉教者となったステパノも、偽りの証言によつて陥れられた。知恵と御霊によつて語るステパノに対抗できないと悟つた者たちは、偽りの告発者を立てた(使徒6・11)。イエスの場合と同様に、偽りの証人たちは実際にステパノが語つたことを、巧妙に、命取りになるよう伝えている(使徒6・13・14)。そのような危機的状況の中でも、ステパノの顔は御使いのように輝いていたのである(使徒6・15)。

ここで第九戒の現代的意義を知るために、ハイデルベルグ信仰問答を引用する。「問112 第九戒は、何を、求めていますか。答 わたしが、誰に対しても、偽りの誓いをなさず、誰に対しても、言葉を曲げず、陰口をきかず、悪口をいわず、誰をも、調べることなく、軽率に、罪に定めることを、助けず、反つて、すべての虚言、詐欺を、悪魔自身のわざとして、神の重き怒りをおそれるゆえに、避けて、法廷においても、ほかのすべての事柄においても、真理を愛し、正直に語りまた告白し、自分の隣人の榮譽と威信とを、自分の力でできるかぎり、救いまた増すように、ということであります。」

これを読んでまず気づくことは、悪口、陰口を言わないということである。「偽りのうわさを言いふらしてはならない」(出エジプト23・1)、「悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない」(エペソ4・29)とある。陰口、悪口、偽りの噂話がいけない理由は、人と人との信頼関係を破壊するからである。これらはやはり偽証につながるものである。

続いて、真理を愛し、真実を語るといふこと。これは人と人との信頼関係を立て上げ、回復させる。「必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい」(エペソ4・29)、「いつも、塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい」(コロサイ4・6)とある。第九戒は、直接日常生活に関係している。

聖書 出エジプト20・16  
 タイトル ウソをついてはいけない  
 中心聖句 あなたは、偽証してはならない。  
 出エジプト20・16  
 目標 うそが人とその関係を傷つけることを発見し、悔い改める。

## 導入

今日は十戒の9番目、偽証の禁止を学びます。偽証とは、簡単に言うと、うそのことです。ではうそをついたことがない人は手を挙げて下さい。ハッイと手を上げた人、あなたは今、うそをつきましたね。このように、私たちはいろいろな理由で、簡単にうそをついてしまっています。

## 一、人に対する偽証

皆さんは、陰口って知っていますか。「誰々ちゃんは、〇〇なんだって」とか、「〇〇ちゃんが〇〇しただって」とか、作り話や確かめていないことを、そうらしい、そう聞いた、そうに決まっているなどと、陰でつわさすることです。陰口は、陰口を言われている人を傷つけ、聞いている人、その人の悪い印象を植え付けます。なぜそんなうそをついて、陰口をさくのでしょうか。面白いから、その人が憎だらしいから、うらやましいから、足を引っ張っているのです。しかし、あなたのしわざだとわからないと思ったら大間違いです。神様はご存じですし、あなたの陰口を聞いた人たちも知っています。必ずばれて、地上では友だちを

失い、天でも裁かれます。

では、口車って知っていますか。柔道の技ではあります。肩車、腰車といった技が柔道にはあります。それは腰や肩に人をのせてころはせることです。口車は、うそにのせて人をころはせるのです。それは「アリを食べたらすっぱくて美味いぞ」とか、「今日は、宿題ないよ」と、うそをついて人を失敗させることです。口車も、必ずばれて、地上では友だちを失い、天でも裁かれます。

それと共に、私たちが犯しやすいのは、自分をよく見せたいために、事実とは違うことを言うことです。遊んでいてガラスを割ったことを、正直に言わないで隠すのも偽証です。人によく思われたい、しかられるのが怖いと考えると、本当のことが言えなくなってしまいます。こうして、自分を偽り、人をだまし、罪を犯すのです。

私たちが本当に正しく生きるためには、いつでも、どんな失敗も、恥ずかしいことも、ありのままを、まず神様に告白することです。神様は、あなたのしたことも、あなたの気持ちも、全部ご存じです。神様の前に正直であれば、人に対しても正直になります。そして、まず自分が正直であれば、良い友だち関係をもつことができます。

## 二、神様に対する偽証

私たちのすべては神様に知られています。どんなに上手に人をこまかしたとしても、神様はこまかせません。使徒行伝には、アナニヤとサッピラという夫婦が登場します。この夫婦は、教会の人たちによく思われたくて、たくさんのお金を献金したのです。その献金は、自分たちの土地を売っ

て、お金に換えたものでした。彼らは、代金の一部を自分たちのために取り分けて置いて、残りの物を献金としてさげました。ところが、この夫婦は、教会で問われたときに、「土地の代金を全部献金しました」と、うそを言ったのです。正直に「一部です」と言っても、誰もけちだとか悪口を言わないのに、自分たちが潔いと思われたくて、うそをつきました。しかし、神様へささげる献金を偽ったため、この2人はすぐに死んでしまったのです。神様の前でうそをつくことは、魂が死ぬことです。この事実は、偽証の罪の恐ろしさを私たちに教えています。

## 生活への適用

うそは、そのままはおつておくと、うその上をうそで固めなければならず、雪だるまのように大きくなってゆきます。そうして、心がだんだんゆがんで、喜びがなくなります。うそをそのままにしていはいけません。自分のうそに気づいたら、神様に正直に告白しましょう。そして悔い改めると、自分にも人にも正直になります。

## 結論

神様は、こんな私たちを愛して、うそをついたことを告白するなら、イエス様の十字架の贖いによって赦して下さいます。そして、いつも共にいて正直に生きられるように助けてくださいます。神様に正直であることが、私たちの霊の健康のもとです。そうすれば、人に対しても正直になれる、うそのない友だち関係をもつことができます。

## ワーク A

## 導入のヒント

嘘をついたことがありますか。しかられたくないから、本当は悪いことをしたのに、やってないと言ったことがありますか。神様は全部知っておられます。神様が見ておられることを忘れないで、いつも神様に喜ばれるようになりましょう。

## ワークについて

割りばしを用意します。ちようちよに色を塗って切り取り、下部のたんざくに色を塗って作った4枚の紙テープをちようちよの羽に貼ります。割りばしに付けて遊びましょう。

## ワーク B

●質問1 十戒で神様が示されている中で、子どもたちにとって一番身近な戒めです。日常生活をふりかえって、うそをついたことがないか考えましょう。

●質問2 うそをついても誰にもわからないと思って子どもたちはうそをつきます。全てを知っておられる方がいらっしゃることを確認します。

●質問3 うそをついたことを神様に告白しても、同じことを繰り返しているなら神様は悲しまれます。悔い改めて真実だけを語ることを神様は喜ばれるのです。

## ●讃美歌 「ひかりひかり」

(ふくいんこどもさんびか83番)

●今日のお祈り 「神様、うそをつかずに本当のことを話せるようになしてください。」

## ワーク C

●いつでも、分級は会話を中心として進めよう。「〇とXをして終わった、簡単だ」と、テストのようにするのではなく、メッセージや聖書箇所を元に、ワークをたたき台にして話し合うことを心がけてほしい。そこから友だちの心や信仰の状態を知るように心がけ、信仰を導くきっかけを見つける。そのような心が通じる関係を平素から築き上げる努力が求められる。

●第2問は、分級教師自身の体験例を用意して、助け舟を出すことが必要であろう。教師自身がまず証しをし、告白して、導いてほしい。

## ワーク D

●質問1 自己防衛のためのうそをつくことが多いでしょう。一度うそをつく、そのうそをこまかすためにうそを重ねていくことになりま。

●質問2 うそをこまかす存心の神様をこまかすことはできません。うそは、神様をおそれないことであり、悔むことです。

●質問3 神様には、うそはすべてにはれてしまいます。神様は赦してくださいますので、正直にうそを認めることが大切です。

## 中高校へのヒント

## ●考えてみよう

1 どうして偽証してはいけないのでしょうか(箴言16・28、使徒5・4他)。

2 偽証して祝福を失った例を見てみましょう(列王下5章の Gehazi 他)。

3 偽証の罪を赦され、回復された例を見てみましょう(ペテロ他)。

## ●自分にあてはめてみよう

1 あなたは偽証の罪を犯していませんか。

2 あなたが偽証するのは、どのような動機からですか(自分を良く見せる、自分の立場を守る、人の評判を落とす、他)。

3 偽証の罪を悔い改め、謝罪したことがありますか。逆に、そのままにしてい、良心が痛んではいませんか。

## ●話し合ってみよう

1 人はなぜ偽証するのでしょうか。

2 偽証の罪として、どのようなものがあるでしょうか。

3 もし偽証の罪を犯していたならば、どうすべきでしょうか。

4 敵をかくまったラハブの場合(ヨシヤ2章、ヤコブ2・25)や、本当はガンなのに、それをこまかして言わないなどの偽証について、どのように考えたらよいでしょうか。

5 偽証しないだけでなく、より積極的にどう生きべきでしょうか(エペソ4・25他)。



聖書 出エジプト20・17  
テーマ むさぼってはならない

### 序論

現代は、子どもたちの欲しがる物が、テレビや雑誌で色々と宣伝されている。多くの子どもたちが、あれも欲しい、これも欲しいと踊らされている。人がそれを持っているならなおさらである。そして、持っている者ほどもっと欲しがる。しかし、そういう心がむさぼり(貪欲)であるとは思っていない。今週は、それをはっきりと教えよう。

### 一、むさぼりは動機

第十戒は、行動ではなく動機に焦点をあてている。「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな」などは、悪い行動を禁じる戒めで、旧約時代はそれさえしなければ良いとされていた。しかし、主イエスは、「情欲をいだく」という動機、心を問題視された(マタイ5・28)。「むさぼり」は、心の持ち方で、その結果、姦淫や盗みがおきる。だから、人隣りの妻、しもべ、…またすべて隣人のものをむさぼってはならない」と、神は命じられた。むさぼりの心をおこさないなら、それ以降の悲惨な罪を犯すことは、なくなる。

パウロは、へもし律法が「むさぼるな」と言わなかったら、わたしはむさぼりなるものを知らなかったであろう(ローマ7・7)と告白する。彼は、行動さえ律法に従っていたなら、自分は正しい人間だと思っていた。しかし、第十戒があることによって、彼は自分が罪人だと悟ったのだ。

十戒を学ぶのは、自分が罪人であることを知るためである。子どもたちにむさぼる心があるなら、それは罪だと知らせなければならない。

### 二、むさぼりとは

(もっと欲しい) 10年前の子どもは、ゲームボーイを欲しがらなかった。存在しなかったからだ。ある物を目で見て、実際に使った、それに心引かれて、欲しいと思う。特に、自分の持っていないものを人が持っているとき、欲しくてしかたなくなる。その結果、親にせがみ、小遣いを使い果たす。ポケモンカードなんか、もうたくさん持っていると思う子が、もっと欲しい。それが、むさぼりだ。(不当な利益) また、むさぼりとは、他人の権利を侵害することである。具体的な物を盗んでなくとも、その物が生み出す利益を自分のものにすること、例えば、本屋の立ち読みなどがこれにあたる。本を盗んではいけないが、本が生み出す知識や娯楽をむさぼっている。本が生み出す知識や娯楽の権利は著者にある。立ち読みは、その著者の権利を不当にだてとっているのだ。

(貪欲) 貪欲は、偶像礼拝にほかならない(コロサイ3・5)。貪欲とむさぼりは同じ意味と理解してよい。なぜむさぼりが偶像礼拝なのか。貪欲は自分だけは得をしたい、自分だけが損するのはいやだという感情だ。これは明らかに自己中心であり、自分自身を神としている偶像礼拝である。例えば、むさぼりの原因は、この地上にある物を何よりも大切に思うところにある。ゲームを神よりも大切にするなら、それは偶像礼拝なのだ。

### 三、むさぼりの解決

パウロは、むさぼりをおこさないために次のように言う。へあなたにたは上にあるものを思つべきであつて、地上のものに心を引かれてはならない(コロサイ3・2)。上にあるもの、つまり神様のこと、霊的なことを思う生活こそが、むさぼりを防ぐための秘訣である。

さらにパウロは、へわたしは、どんな境遇にあつても、足ることを学んだ(ピリピ4・11)と言う。現在の生活に満足するなら、むさぼりは生まれてこない。神様は、自分に必要なものをすべて与えてくださると信じるなら、むさぼる必要はなくなる。まず、自分に与えられているものに感謝しよう。ゲームボーイがなくても、サッカーボールがあれば、それで遊べる。算数のよくできる友だちの能力を欲しがるのではなく、自分が絵を上手に描けることを感謝しよう。

欲しいものがあつたら、神に求めよう。必要なら、必ず与えてくださる。もし与えられないなら、神は別の計画をもっておられるのだ。今すぐ与えられなくても、一番良い時に与えてくださる。

### 結論

現在、守れていない戒めがあるなら、そのまゝの姿で神様の前に出よう。そして、正直に告白しよう。神様はそのような砕けた心を一番喜んでくださる。できないあなたを愛して、主イエスは十字架にかかってくださった。それがわかるなら、十戒は必ず守れるようになる。

### 研究資料

(足立)

第十戒は、より多く持とうとすることを戒めている。ものを欲しがることは、私たち人間の生まれながらの欲求であり、願望である。人間には基本的欲求があるゆえに、生活が成り立ち、社会形成に参与できる面がある。これは決して悪いものではない。しかし所有欲だけを追求していくことは、きわめて危険なことになる。自分の境遇に満足できない者は、人のものにまで手を出し、人を騙し、殺してまでも手に入れる恐ろしい結果を生み出す。だからこの欲望というものを野放しにはできない。どこかで歯止めをかけねばならない。私たちの心にブレーキが必要なのである。

十戒の後半部分は対人関係であることを見てきたが、殺人、姦淫、盗み、偽証は、目に見える行動として戒められている。しかし最後のむさぼりに関しては、内面的な問題だといえよう。何かを欲しがることは、人の心の欲求である。ところが、このむさぼりとは他の人の所有しているものへの不当な欲望であり、殺人、姦淫、盗み、偽証を生み出す根本の原因となっている。つまり行動に移す動機なのである。貪欲というもののそれ自体が、隣人の所有物を狙う思いになるのである。聖書はこのことを具体的に書き記している。

むさぼりはすべての社会悪の根源となる。欲望が限度を超えると、取り返しのつかない罪を犯す。ダビデは、部下ウリヤの妻パテシバを盗んだ(第

八戒の違反)。そして姦淫を犯し、妊娠させた(第七戒の違反)。さらに自分の罪を隠すためにパテシバの夫ウリヤを殺す計画を立てて実行させた(第六戒の違反)。この一連の出来事は、すべてダビデが人妻をむさぼったことから起こっている(サムエル下11章)。

同様にアハブが王宮に隣接するナボテのぶどう畑をむさぼったことにより、偽りの証人を立てた(第九戒の違反)。そして裁判による殺人(第六戒の違反)。そして王はナボテの土地を没収して、合法的に盗みをした(第八戒の違反)。これもアハブのむさぼりに端を発している(列王上21章)。

イスカリオテのユダもむさぼりのゆえに第八戒を破った(ヨハネ12・6)。そしてイエスを絞つた裏切り、第六戒を破った(マタイ26・48、50)。それはすべて金のためであった(マタイ26・14、16)。パウロが記した次のことばが響いてくる。「金銭を愛することはすべての悪の根である。ある人々は欲ばって金銭を求めたため、信仰から迷い出て、多くの苦痛をもって自分自身を刺しとおした」(1テモテ6・10)。

新約においても第十戒の原理が反復して強調されていることがわかる(ルカ12・15、エペソ5・5、ヤコブ5・1、6、Ⅱペテロ2・14、Ⅰヨハネ2・17、ヘブル13・5)。

パウロは「貪欲は偶像礼拝にほかならない」(コロサイ3・5)と言っている。私たちの思いと献身の中心にむさぼりがあるなら、私たちは富、快楽、繁栄という名の偶像礼拝者となら変わらな

いのである。むさぼりは、第一戒の「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」を破っているのである。

第十戒を積極的に言い換えると、自分に与えられたものを感謝し、満足することへの勧めと言える。パウロは、「信心があつて足ることを知るのには、大きな利得である」(1テモテ6・6)と言っている。また彼は、「わたしはどんな境遇にあつても、足ることを学んだ」(ピリピ4・11)とも言っている。「満ち足りる」(新改訳)という言葉の意味は、周りの状況や環境の変化に影響されないで、自分の心に充足感を持つことである。ピリピ書を書いたとき、パウロは牢獄にいた。しかしその中で、環境に支配されない生き方の指針を伝えたのである。

パウロの言葉を注意深く読むと、彼が最初から満ち足りる人間ではなかったことがわかる。「わたしは、…学んだ」といっている。これは、「会得した」とも訳せる。パウロは様々な苦しみや、試みを通して満ち足りることを学習してきたのである。また彼は、満ち足りることを身につけることができる根拠を明確に提示している。「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができ」(ピリピ4・13)。この聖句の真意は、わたしに力を注入してくださるお方によって、わたしはすべてのことにあたるのが可能となる、ということである。彼を強くしてくださるお方とは、主イエス・キリストご自身である。彼はいつも、キリストとの信頼関係に生かされていた(ピリピ3・10、11、Ⅱコリント12・9、10)。

聖書 出エジプト20・17  
タイトル むさぼってはならない  
中心聖句 あなたは、むさぼってはならない。  
出エジプト20・17  
目標 神が与えられる以上に求めるむさぼりは、不信仰であることを発見する。

#### 導入

今日は十戒の最後の戒め、むさぼりの禁止を学びます。むさぼりとは、自分だけが得をしないと気がすまない思いや、あれもこれも欲しいというわがままな思いです。お店に行って、ゲーム、おもちゃ、お菓子など、あれが欲しい、これも欲しいと思わない人はいないと思います。「コーマシヤルは、私たちが買いたくなるように宣伝しますから、欲望をコントロールするのは大変です。しかし神様は、むさぼってはならないとおっしゃいます。今日は、なぜむさぼってはならないかを考えます。

#### 一、むさぼりとは何か

皆さんは、ペイプレイドをいくつ持っていますか。おもちゃ屋さんで予約しても、なかなか手に入りませんね。持っていない子がほしがるだけでなく、既に持っている子までが、欲しがるからです。ちょっと前は、ポケモンカードがそうでした。一人で何枚も持っている子が、小遣いを全部使って買い、親にねだって買ってもらい、おばあちゃんにせがんで買わせていました。しかし、買っても買

っても、もっともっと欲しいのです。持っているのに、もっと欲しい、もっともっと欲しいと思うことがむさぼりです。

また、皆さんは本屋さんでコミックを立ち読みしたりしませんか。本を盗んでるわけではありませんが、それは、その本が生み出す知恵や娯楽をむさぼっているのです。自分のものでないものから、代金も払わず、許可も得ずに、利益をえることもむさぼりです。

また、人には自分が一番得をしないと気が済まないという思いがあります。自分よりいい服を着ている人がいると、それをほしがる。自分より綺麗なお嫁さんを持っている人を見ると、それをほしがる。これもむさぼりです。

#### 二、むさぼりはなぜいけないか

今まで学んできた、十戒の「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな」は、みんな行いに現れてくることばかりでした。しかし、今日の「むさぼるな」ということは、これらの動機を禁じているのです。むさぼりは、罪の根です。むさぼりが、十戒で禁じられている「殺人、姦淫、盗み、偽証」を生む原因になるのです。

さらに、「貪欲は、偶像礼拝にほかならない」(コロサイ3・5)と、聖書は教えています。むさぼりは偶像礼拝だから、むさぼってはならないのです。むさぼりは、自分が得をしないとやだという思いです。これは、自己中心で、自分が神様の立場に立ってしまう偶像礼拝なのです。

そして、むさぼりは不信仰です。神様が十分与えておられるのに満足しないで、もっともっと欲

しいと思うのがむさぼりです。今持っているもので満足すべきです。神様は決して離れず、捨てないで、最善の恵みを与えてくださいます。神様の恵みはあなたに対して十分ですから、神様が与えられる以上に求めることは、不信仰です。

#### 三、その解決

私たちは広告を見たり、コーマシヤルで聞いたすることで、「むさぼり」に陥りやすい環境に暮らしています。友だちが持っていて自分が持っていない物があると、うらやみ気持ちも湧いてきます。腕時計、携帯電話、ゲームソフトと欲しい物には、限りがありません。しかし、私たちに必要なものを、本当に満たして下さるのは神様だけです。欲しい欲しいと思うことよりも、すでに与えられている物は何かを考えましょう。

そして、欲しい物があつたら、まず、神様にお願ひしましょう。それがあなたに必要ななら、必ず与えられます。もし与えられないなら、それは要らないのか、まだ時期ではないか、もっとよい物を与えようとされているかです。今すぐに与えられなくても、一番よい時に、一番よいものが与えられますから、むさぼってはいけません。

#### 結論

むさぼりは、罪の根であり、偶像礼拝であり、不信仰です。むさぼりに気づいたら、悔い改めましょう。そうすれば、皆さんもイエス様の十字架の贖いによって赦されます。そして神様に何でも祈って恵みを受け、神様から与えられる物で満足する人になっていきます。

### ワーク A

#### ●導入のヒント

「これ買って」とだだをこねて、すねたりしたことはありませんか。ゲームやおもちゃは、買っても買っても足りません。あれもほしい、これもほしいと思っているとき、心は神様の方向を向いていません。私のために十字架にかかって罪を赦して下さったイエス様を一番にしましょう。

#### ●ワークについて

ドアノブの飾りを作ります。中心を丸く切りぬいてスリットを入れます。また、聖句や星に色を塗ります。紙がうすい場合は、全体を紙皿にはると良いでしょう。

### ワーク B

●質問1 むさぼるとは、「ほしいほしい」と思うことです。これは罪だと気づかせましょう。

●質問2 今日のみのことを覚えて書きましょう。

●質問3 子どもたちは欲しいものがあるとき、すぐに手に入れることを望み、すぐに買ってもらえないときや、手に入らないときは、盗みを考えることもあるのではないしょうか。持っているものを喜び、祈って待つことを教えましょう。神様は必要なものは必ず与えてくださるお方です。

●讃美歌 「かいぬしわが主よ」

(こどもさんびか34番)

●今日のお祈り 「神様、すぐに欲しい私を赦してください。持っているものを喜べるようにしてください。」

### ワーク C

#### ●この世はサタンが支配することを許されている

この時代は、ますます不法がはびこり、愛が冷え、人の心は自分中心になってきている。そういう中で、テレビでも雑誌でも購買欲をあおる「コーマシヤル」でいっぱい。なんと売り上げを伸ばすためであり、その重要なターゲットの一つが子どもたちである。こういう時代だからこそ、子どもたちに、むさぼりの意味と、その裁きを確認したい。

●第3問は「3種類のもの」を考えていく。むさぼりにつながるの「ほしいけどもっていないもの」と、「もっているけどもほしいもの」である。これを、一緒に考え話し合いながら、心の動機を掘り下げていく。

### ワーク D

●質問1 欲望が、殺人、姦淫、盗み、偽証を生み出し、人を傷つけ、自分をも傷つけます。

●質問2 欲望は満足しません。常に貪欲です。

●質問3 神様が一番いいものを満たしてくださると信じていることが、欲の追求を止めます。

●質問4 神様が与えてくださる豊かさを考えましょう。

### 中高校へのヒント

#### ●考えてみよう

- 1 第十戒は、他の戒めとどういう点で異なっているでしょう。
- 2 十戒の最後にこの戒めが置かれているのはなぜでしょう。
- 3 タビテの失敗例(サムエル下11章)を通して、むさぼりがどのような行動をもたらすか見てみましょう。
- 4 「貪欲は偶像礼拝にほかならない」(コロサイ3・5)とありますが、それはなぜでしょう。

#### ●自分にあてはめてみよう

- 1 あなたはむさぼりの罪を犯していませんか。
- 2 あなたがむさぼりの罪を犯すのは、どのような動機からですか。
- 3 むさぼりが他の罪を引き起こしたという体験はありませんか。

#### ●話し合ってみよう

- 1 むさぼりの罪として、どのようなものがあるでしょう。
- 2 パウロの回心と第十戒との関係について考えてみましょう(ローマ7・7を参照)。
- 3 欲望をもつことは、すべてむさぼりの罪になるのでしょうか。
- 4 むさぼりから解放されるには、どうしたらよいでしょう。
- 5 むさぼらないだけでなく、より積極的にどう生きるべきでしょう(ヘブル13・5〜6他)。



聖書 マタイ18・12・14  
テーマ 1匹の羊の大切さ

## 序論

今週から10週間にわたって「目に見えないものを目におく」ことを学ぶ。その中でも今日は、99匹をおいてでも、迷い出た1匹を追うという価値観に注目する。本日のテキストは、ルカ福音書で有名だが、マタイでの扱いは、ひとりの幼な子の重要性が説かれる文脈の中に置かれている。この世の価値観では、99匹のほうが1匹より大切である。しかし、主はそう考えてはおられない。

## 一、霊の価値

羊を財産の一種と考えている人なら、当然99匹のほうが1匹より大切と考える。できるだけ多くの羊毛、乳、肉が取れ、できるだけ高値で売ればそれが得だ。効率と損得を第一に考えるなら、1匹のために99匹を犠牲にすることはできない。しかし、18章の7節〜9節では、幼な子をつまずかせるくらいなら、つまずかせる足や手を切つて捨てなさいと、主イエスは命じておられる。両手そろって地獄へ行くよりは、片手でもいのちに入る方がよいのだ。すなわち、霊の価値は、肉体の価値をはるかに超えて高いのである。

また、10節には、神が小さい者を特別に扱い、顔と顔を合わすように、一対一で導いておられることが書かれている。どんなに小さい者であっても、その霊の価値は、神が一人一人と顔と顔を合わせて導くほど重要なのだ。

聖書の示す価値観では、一人の魂の価値は、迷わない99匹をそこにおいてでも探しに行くほどのだ。効率や損得を超えた価値が、霊にはある。

## 二、捜しに出かける

この1匹は△迷い出た▽羊である。他の99匹より愚かな羊なのだ。だからほったらかしておいて良いのだろうか。迷い出て苦しむのは、自業自得で仕方ないことなのだろうか。断じてそうではない。愚かな1匹であっても、△捜しに出かけ▽ることが必要なのだ。世の中では、愚かな者はおいてぎぼりにされる。他の子どもたちを犠牲にしてまで、成績の悪い子のために授業時間を割く先生が、問題にされたりする。教会学校であっても、よく騒ぐ子は嫌がられたりしていないか。主イエスは、罪人たちの中にあえて入っていかれた。11節でも、主は、△人の子は、滅びる者を救うためにきたのである▽と、おっしゃっている。

聖書の価値観は、常に先行恩寵である。神がまず私たちを愛して下さって、私たちは愛ということを知った。神がまずひとり子を与えて贖いの御業を完成して下さって、私たちはそれを受け取った。まず出かけること、自分から先に犠牲を払うことが、聖書の価値観なのだ。

## 三、喜びは大きい

△もしそれを見つけたなら、よく聞きなさい。迷わないでいる九十九匹のためよりも、むしろその一匹のために喜びであらう▽と記されていることに注意したい。愚かな1匹の羊が戻ってくるな

ら、多くの賢い羊よりも、ずっと大きな喜びが生じるというのだ。世の中の価値観と正反對の結論ではないだろうか。これは放蕩息子が帰ってきた時の父親の喜びである。だが兄息子は、世の価値観を表している。△わたしは：一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかったのに、：子やぎ一匹も下さったことはありません。それなのに、：このあなたの子が帰ってくると、そのために肥えた子牛をほふりなさいました▽と恨み言を言う（ルカ15・29）。迷い出た者、罪を犯した者、役に立たない者に価値はなく、戒めを守り、役に立つ者にこそ報いがあるべきだと主張しているのだ。

この世の価値観は、正に兄息子の主張でありだ。しかし、神の国の価値観は労働と賃金の関係ではなく、恵みの世界である。嫌なことを我慢したから恵みがあるのではない。神と共にいて働けること自体、恵みなのである。そのことに気づいた弟と気づかない兄。神は、神と共にいて働けることが恵みだと気づいた者を、気づかないで不平を言う者より、ずっと喜ばれるのである。

## 結論

効率や損得を超えた高い価値が、霊にはある。だから、迷い出た人を、犠牲を払ってでも捜し出そう。神のために働いているから報われるのではない。神と共に働けること自体が恵みなのだ。罪を犯した人が恵みに気づいて立ち返ってくることを喜ぼう。子どもたちはそのままでは、自分にとって損か得かで、ものごとを決めてしまう。99匹ではなく、1匹を追う価値観を身に付けさせたい。

## 研究資料

(長田)

## ひとりの尊さ

「わたしの目には、あなたは高価で尊い」（イザヤ43・4、新改訳）。

神の目には、地球上の一人ひとりが、かけがえない尊い存在である。その命は、地上のすべての富よりも価値あるものと言われており（マルコ8・36）、その人格は、神のかたちに創造されている（創世記1・26）。

神から離れ、背き、迷っているとしても、神の愛は、その失われたひとりを求めて追いかける。キリストがなさった（百匹のうちの一匹の羊）の譬えは、このような「ひとり」の尊さを教えている。

キリストは、不幸な男性遍歴を重ねてきたひとりのサマリヤの女性を救いに導くために、「サマリヤを通過しなければならなかった」（ヨハネ4・4）。伝道者パウロも、悔い改めたひとりの逃亡奴隷が、クリスチャンの主人のもとに愛をもって迎え入れるために、とりなしの手紙を書いている（ピレモンへの手紙）。

私たちも、神がひとりの魂をどれほど価値あるものとしておられるかを覚えつつ、「ひとり」を追いかけるものでありたい。

## テキスト

18・12 ある人に百匹の羊があり 聖書において、

人はしばしば羊に譬えられ、神は羊飼いに譬えられる（エゼキエル34・11〜16、ヨハネ10・11等）。

羊は、自分ではいろいろな外敵から身を守ることはできない、弱い存在である上に、近視で迷いやすい。羊は、羊飼いなしでは生きていけず、羊飼いのもとにあるとき、はじめて、豊かな養いを受け、安全に生きていくことができる（詩篇23篇）。人間も、神なしでは、真に幸いな生涯を送ることができない。

その中の一匹が迷い出たとすれば 神のもとから離れた人間は、まさに、羊飼いのもとから離れ、帰るべき道を見失った羊のような存在（イザヤ53・6）。

九十九匹を山に残しておいて 99匹が大切でないというのではない。1匹が失われている故に、羊飼いの関心は、その1匹に向けられる。神の目も、失われているひとりの魂に向けられていることを教えている。

迷い出ている羊を捜しにでかけないであらうかここに、失われた人間を追い求める神の愛の姿が示されている（エゼキエル34・11、12、16）。愛は、そのために払われる犠牲や苦勞を厭わない。ひとりの人を追い求める神の愛は、最終的に、御子の受肉、十字架の死において明確に表される。御子が復活された後に弟子たちに語られた大宣教命令もまた、この神の関心を表わしている。現代も、神の目は失われた人間に注がれ、神の心は、その魂を追い求めている。

13 迷わないでいる九十九匹のためよりも 教会

は、どれほど多くの者が加えられ、神の豊かな養いの中に生きていたとしても、そこに腰をおろして満足することはできない。教会の信じている神の目は、なお失われている魂に向けられているからである。

むしろその一匹のために喜びであらう 失われた者の回復は、常に神の関心の第一のことである。ひとりの罪人が悔い改めるとき、天に大きな喜びが呼び起こされる（ルカ15・7）。サマリヤの女性を信仰に導かれたキリストも、肉体の疲れと空腹を忘れ、大きな満足を覚えられた（ヨハネ4・32）。

14 これらの小さい者 イエスは、たびたび「小さい者」について言及された。その意味するところは、ある時は、キリストの弟子たちのことであり（マタイ10・42）、ある時は、社会的弱者のことであり（マタイ25・40）、この箇所のように、幼な子をさすこともあった（2〜10節参照）。いずれにしても、この世からは軽んじられ、「小さい者」とみなされる存在を、神は尊んでおられることが教えられている。

ひとりが滅びることは…みこころではない 神の目は、失われているすべての人に注がれている。そこには、例外も見落とさない（エゼキエル33・11、ヨナ4・11、1テモテ2・4）。

天にいますあなたがたの父 私たちの父であられるお方の御思いがどこにあるかを示しながら、弟子たち（私たち）に、同じ心を持って生きるべきことを教えておられる。

聖書 マタイ18・12・14  
タイトル 魂の価値は絶大  
中心聖句 これらの小さい者のひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこころではない。  
マタイ18・14  
目標 一人の魂(霊)は、見つかるまで、探すほどの価値があることを発見する。

# 導入

今日からしばらくは、目に見えないものに目を置いて、目に見えないけれど大切なものがあることを学んでいきます。例えば、神様は目に見えません。愛も正義も見えません。そう、本当に大切なものって、目に見えないものが多いのです。魂(霊)の価値も目に見えませんが、絶大なのです。

# (起) ストーリーを語る

イエス様は、小さくて弱い者をつまずかせたり、軽んじることは大きな罪だと言われました。そして、小さな一人でも神様には大切だということ、100匹の羊のたとえを使って話をされました。ある人が100匹の羊を持っていました。数を数えるとうとう1匹だけ足りません。おかしいなと思って大きな声で、何度も繰り返し名前を呼びますが、返事は一向にありません。99匹の羊はちゃんといます。飼主は、その1匹をこれから探すのは面倒だからもうやめて、99匹いるからいいや。1匹ぐらい仕方がない」と考えてもよさそうです。1匹でも大切な羊だからです。

この話では、人間が羊に、神様は羊飼いに響えられています。たった一人でも、神様にとっては、他のものには代えられない、かけがえのない人間です。迷ってしまった人が誰であろうと同じで、一人一人がかけがえのない存在なのです。99匹をそこにおいて捜しに行くと、時間が無駄になります。よけいな仕事が増えて、効率が悪くなり、時間も労働も損します。しかし損得や効率よりも大切なものがあります。それは一人の魂です。神様は一人の人の魂の価値が、損得や効率よりもはるかに高いと教えておられるのです。迷い出た羊は、他の迷わない99匹に比べると、でくの悪い、愚かな羊であったでしょう。けれども羊飼いは、「ほかの賢い羊が99匹いるし、あいつは愚かで役に立たないから、ほっておこう」と言うことはありません。愚かな羊が迷いだしただけで、見つけたらすぐ捜しに行くのです。

神様が人を救うのは、「だから」ではありません。賢いから、きれいだから、役に立つからではないのです。「にもかかわらず」です。愚かにもかかわらず、役に立たないにもかかわらず、罪人にもかかわらず、神はひとり子のイエス様を与えて、失われようとする人を捜して救おうとされるのです。神様がまず私たちを愛してくださったので、私たちは愛ということを知りました。神様がひとり子を与えて十字架の贖いを完成してくださり、私たちはそれを受け取りました。まず神様が犠牲を払われたからこそ、救いがあるのです。

# (承) 学ぶべき真理

この羊の譬えは、ただの羊の話ではありません。羊は人間のことで、羊飼いは神様のことです。それは、神様の元から迷い出て帰る道を失い、罪に傷ついて倒れている人間を、神様が必死で見つけたそうと捜しておられる姿を譬えたものです。神様が私たちを愛してくださるのは、頭がいいからとか、顔が美しいからといった取り柄が、私たちの側にあるからではありません。神様が私たちを造られ、神様が私たちを愛されているからです。神様に愛されていることが、人の価値です。イエス様が十字架にかかって、私たちの罪の身代わりになってくださったほど、神様は、私たちを愛しておられるのです。

# (転) 生活への適用

皆さんは99匹の迷わない羊でしょうか。迷いだす1匹でしょうか。皆さんの人生では、どちらにもなりますよ。皆さんが、どうしたらいいかわからなくなった時、思い出してください。羊飼いは見つかるまで捜しておられることを。皆さんが、「自分なんか人と比べたら何の価値もない」と思う時、思い出してください。羊飼いは、愚かな羊を捜しに行くことを。

# 結論

神様が愛されるのは、私たちの能力でも才能でもありません。私の魂(霊)を愛してくださるのです。魂の価値は絶大です。神様は今にいたるまで、神様から離れている魂を捜しておられます。

# ワーク A

## 導入のヒント

神様は私たちを愛して下さいます。世界の人々の中の一人としてではなく、あなた一人を一人として愛して下さいます。良い子だから、言うことをよく聞くからではなく、あなたが大切だと言ってくださるのです。そして、あなたの罪のために十字架にかかり、身代わりとなって下さいました。うれしいですね。

## ワークについて

綿が白い毛糸を用意します。羊の顔に薄く色を塗ります。足を4本かいて、胴体の部分に綿が白い毛糸を貼りつけましょう。

# ワーク B

## 質問1 お話を思い出して下さい。

●質問2 聖書には記されていませんが、羊が迷子になる原因があります。子どもたちに自由に考えさせてください。全部あてはまります。

●質問3 迷子になる原因(弱さ)があっても、この羊はとも「たいせつ」にされています。

●質問4 イエス様は罪という弱さを持つ人々を愛してくださいました。私たちもイエス様にならって、弱い友だちを大切にしていきたいです。

## 讃美歌 「神のお子のイエスさま」

(ふくいんこどもさんびか74番)

●今日のお祈り 「神様、弱くて罪深い私も愛してください感謝します。私も弱さの中にいる友だちを大切にできるようにしてください。」

# ワーク C

## この世に生きている人々が、この世の価値観で生き、考え、扱われているのは自然なことである。

しかし、その価値観は神の価値観ではないことに気づき、神の価値観を知る者になりたい。

## 第2問では「心」に注目し、その気持ちを予想していく。

●「羊」を捜すのは無駄、迷惑と感じるかもしれない。あるいは「99匹の羊」は、「羊飼いが命をかけて「1匹の羊」を捜すのを見て、「自分が迷い出たときにも、こんなふうに捜し出してくれると確信した」と思うかもしれない。

# ワーク D

## 質問1 1匹と99匹の比較ではなく、ひとりの大切さです。ひとりひとりに、比較できない価値があります。

●質問2 滅びの危険にある者を捜し求め、その救いのために犠牲を惜しまないところに、本当の愛があります。たとい他の人が価値を認めなくても、神様はひとりひとりにかけがえのない価値を見ておられます。

## 質問3 失われた者が見出された喜びは、天の父の喜びでもあります。

●質問4 イエス様が十字架で死んでくださったほどの値打ちが、ひとりひとりにあります。

# 中高校へのヒント

## 考えてみよう

- この譬え話は、誰に対して語られましたか。ルカ15・4・7と比較してみましょう。
- 迷い出た1匹の羊は何を指していますか。
- どうして主は1匹の羊のために99匹を残してまで捜し歩くのでしょうか。
- この譬え話から、主はどのようなお方であると言えますか。

## 自分にあてはめてみよう

- 主はあなたのことをどのように見ておられるでしょうか。
- もし主が1匹の羊を軽んじるようなお方であったならば、あなたは今頃どうなっていたでしょうか。
- もしあなたが迷い出た1匹の羊であったならば、どうしてもらいたいですか。また、どうしてもらいたくないですか。

## あなたは社会的に弱い人に対してどう思っていますか。また、どのような態度を取っていますか。

●話し合ってみよう  
1 聖書の価値観と世の価値観とはどう違いますか。どちらの価値観の方が、居心地がよいでしょうか。それぞれの価値観は、社会にどのような影響を与えますか。

## 2 聖書の価値観に基づく社会の実現のために、私たちはどうしたらよいでしょうか。

私たちはどうしたらよいでしょうか。



聖書 マタイ20・1～16  
テーマ 神の国の労働

## 序論

この警え話も、世の中の価値観ではとても考えられないものである。12時間働いた者と、1時間しか働かない者との賃銀が同じなら、経営は成り立たない。しかし、神の国ではこれが通用するのである。なぜそうなのかを考えてみよう。

## 一、神の国の労働

当時のユダヤでは、朝6時から夕方6時まで働くのが通例だった。従って、朝6時に雇われた人は12時間、人苦と暑さを辛抱して働いていた。労働が苦しみであるなら、夕方5時から1時間しか苦しんでいない人と、朝6時から12時間苦しんだ人が同じ賃銀なのは、確かに理屈にあわない。しかし労働が喜びであるなら、1時間しか働けない人は、かえってかわいそうである。ディズニランドに朝6時から行って1日中遊んだ人と、夕方5時から行って1時間しか遊ばない人と、どっちが幸せだろうか。

夕方5時まで仕事が終わった人は、悲痛な声で、**「だれもわたしたちを雇ってくれませんか」**と言っただろう。だから雇ってもらった時は大喜びで、1時間しっかりと働いたに違いない。

アダムが罪を犯したために、神は彼に、**「地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る」**(創世記3・17)と宣告された。罪のゆえに、労働は苦痛となったのだ。し

かし、神の国では、その状況が全く異なる。神が与えてくださった仕事を神と共にする者には、労働もまた喜びとなるのである。

## 二、神の国の賃銀

5時に雇われた人は、いくら賃銀がもらえるかを主人に尋ねていない。仕事さえさせてもらえたら、いくらでも良かった。だから、1デナリも賃銀がもらえた時、彼らは飛びあがらんばかりに喜んだであろう。それは当然の報酬ではなく、憐れみに満ちた主人からの恵みの賜物だった。

しかし、朝6時から働いていた人は、そうは受け取らなかった。彼らは、1デナリとの約束がされていたにもかかわらず、**「八もつと多くもらえらるうと思つていた」**。自分がした労苦に対して、当然の報酬と考えていたのである。だから、喜びではなく、不平が出てきた。5時からの方が12分の1デナリしかもらわなかったら、文句を言わなかったかも知れないが、知ったがゆえにこそ腹を立てたのだ。ちょうど、放蕩息子の子が怒ったのと同じ気持ちだったのだろう。

この警え話は、19・27のペテロの問い、**「ついでに、何がいただけるでしょうか」**への答えとして語られたと思われる。弟子たちは、朝6時から働いている人のようだ。しかし、神の国での報酬は、当然のものではなく、恵みなのだ。彼らより後に弟子になった人々にも、同じものが与えられる。多くの先の者はあとになり、あとの者は先になる**「(19・30)」**という警告が、20・16にも繰り返されていることに注意したい。神の国の報酬

は、労働の対価としての賃銀ではなく、神の恵みなのである。

## 三、あとの者とは誰か

神の国は、良いことをたくさんした人が入る所ではない。たとい主のために多くの奉仕をして、それを誇って、神の国に入るのが当然と思っているなら、大間違いだ。神は全能である。あなたにしてみても、何でもできる。

この警え話は、主イエスを信じる年齢についても適用される。若い頃に主を信じて、生涯、主のために働いた人でも、病床で信じて、すぐに召された人でも、与えられる「永遠のいのち」は同じである。では、教会学校の生徒は、長く働くから損か。そうではない。主のために働けることは、何にも勝る喜びである。人生に目的があり、神と共に働くことができ、神と共に喜ばれ、自分も喜べる人生になるからである。

## 結論

神の国では、神が与えてくださった仕事を神と共にする労働は、喜びとなるのである。生活のために嫌々働く労働とは異なる。また、神の国の報酬は、労働の対価としての賃銀ではなく、神の恵みである。何時間働いたかが問題なのではない。神はその主権で、恵もつとる者を恵まれるのだ。先に神を信じた者が、たくさん働いてたくさん報われるのではなく、たくさん働いて損をするのもない。先に救われるのも、神の恵みであり、後から救われるのも神の恵みなのである。

## 研究資料

(長田)

## 天国での報酬

神は、ご自身に従う者たちに対して、報いを備えておられる。試練に耐え、信仰を全うした者に対して、いのちの冠、義の冠を与え(ヤコブ1・12、黙示録2・10、IIテモテ4・8)、主に従ってなしたすべてのわざに対して報いを与えて下さる(マタイ5・12、IIコリント5・10)。

しかし、天国での報酬は、いくつかの点で、この世の労働報酬のあり方と異なっている。

第一に、私たちの奉仕は、神の大きな恵みに対する当然の応答であって、報酬を得る手段ではない。神は、私たちの行いによらず、御子への信仰のゆえに、罪を赦し、永遠の命を与えて下さった(ヨハネ3・16)。私たちの地上での働きは、神が与えて下さった無代価の恵み(ローマ3・24、黙示録22・17)に対する大きな感謝から生まれるものである。

第二に、報酬の大小は、働きの大きさによってでなく、神の召しに対する応答の程度によって決められる。神が私たちに對して備えておられる地上での働きへの召しは、各人異なっている。報酬は、それぞれの召しにどの程度応えたかによって与えられるのであって、時間の長さや働きの大きさによって決まるのではない(マタイ25・21と23を比較せよ)。

私たちは、人との比較によって生きるのではなく、

示された召しに従い、自ら走るべき行程を走りつくして、主から義の冠を頂く者でありたい。

## テキスト

- 1 天国は「天国でのあり方、法則は」の意。原語では、この節の最初に、「ガル」(なぜなら)が置かれており、ここからの警えは、19・27と30の説明として語られている。
- 2 ぶどう園に労働者を雇うために パレスチナにおいて、ぶどうの収穫期は、雨季を控え、一刻を争う時で、臨時の労働者が雇われた。
- 3 一デナリ 当時の労働者の1日の平均賃銀。
- 4 市場 市場が、日雇い労働者のための集まり場所になっていた。
- 5 五時ごろ ユダヤの労働時間は、朝6時から夕方6時まで(12節)。
- 6 夕方になって 律法で、日雇い人の賃銀は、その日のうちに支払うよう定められている(レビ19・13)。
- 7 最後にきた人々からはじめて 「あとの者は先になり、先の者はあとになる」(16)ことを示唆している。
- 8 もっと多くもらえるだろう 彼らは、1デナリの約束で雇われていたにもかかわらず、他の者たちが受けた報酬を見て、より多くの報酬を期待した。天国での報酬は、人との比較によらず、神对我的関係の中で考えられるべきものである。
- 9 不平をもらして 人との比較から、不平が生まれる。罪深い自らを認め、恵み深い神を見上げ

るとき、感謝が生まれる。

13 友よ 放蕩息子の兄に対する父の「子よ」という呼びかけ(ルカ15・31)にも通じる言葉。神と私たちとの関係は、主人と僕の関係を越え、「友」と呼んで頂く関係とされている(ヨハネ15・14、15)。これに目を向ける時、働きは、単なる義務ではなく、愛からの自発的なものとなる。

14 自分の賃銀をもらって行きなさい 私たちは、神から与えられた召しに従って歩み、神からの報いを受ける。それ以外のことに目を向けるべきではない。

15 自分の物を自分がしたいようにするのは、当りまえではないか 報いの決定は、神の主権に属する。

16 気前よくしているのに 減るべき罪人が、罪赦され、主のために働く者として頂いていること自体が恵み。この当然の働きに対して、報酬さえも与えて下さるのは、神の「気前よさ」以外にない。ねだましく思うのか 隣り人に対する神の「気前のよい」扱いは、共に喜ぶべきことであり、ねだみの対象とするべきではない。

17 あとの者は先になり、先の者はあとになるであろう 主は、19・30の言葉を繰り返して、警えを結ばれる。早くから多くのものを捨て、主に従ってきたペテロは、そのことに對する大きな報酬を期待した(19・27)。しかし、天国での報酬は、地上の労働報酬とは全く異なる仕方と与えられる。それは、ただ、神の恵みであり、賜物である。

聖書 マタイ20・1～16  
タイトル 天の報いの計算方法  
中心聖句 わたしは、この最後の者にもあなたと同様に払ってやりたいのだ。  
マタイ20・14  
目標 神の国で働けることも、天での報いも恵みであることを発見する。

導入

今日は、天国の報いのお話です。イエス様は、ブドウ園での労働の譬えによって、神様のくださる報いがどんなものを教えました。

(起) ストーリーを語る

あるブドウ園の主人が、その日の労働者を雇うために、朝早く出かけて行きました。最初に6時ごろに出会った人々とは、1日1デナリを払う約束をして働いてもらうことにしました。主人は、そのあと9時ごろにも出かけてみると、まだ働いていない別の人たちを市場で見つけました。そこで、「私のぶどう園で働いたら相当の賃銀を払おう」と約束をして、彼らもブドウ園に送りました。同じように、12時にも3時にも出かけて、前の人たちと同じように雇いました。

その日の働きがあと1時間で終わろうとしている夕方5時頃のことです。主人が出かけると、仕事をしないで、まだ立っている人たちがいました。そこで主人は、「あなたがたはなぜ何もしないで一日中ここにいたのか」と尋ねました。すると

その人たちは、「誰も雇ってくれなかったんです」と答えたのです。そこで主人は、さっそく「私のブドウ園で働きなさい」と言いました。

夕方6時になって、仕事の終了時間が来ました。その日の賃銀の支払いです。主人は管理人に「最後にきた人々からはじめて順々に、最初にきた人々にまで、賃銀を払ってやりなさい」と命じました。それで、最初に呼ばれたのは、夕方5時から仕事を始めた人たちです。彼らはそれぞれ1デナリずつを受け取りました。これを見ていた最初の人たちは、「われわれは暑い中を一日中働いたのだから、とれただけたくさんもらえるだろうか」と、わくわくして順番を待っていました。ところが、彼らに手渡されたのは、仕事を1時間しかしていない人たちと同じ1デナリだったのです。彼らは、この賃銀は不公平だと思いました。そこで主人に向かつて、「この暑さの中で辛い仕事を一日中したのに、たった1時間しか働かなかった人たちと同じ賃銀では不公平です」と不満を言いました。ところが主人は、「わたしは最初に約束したとおりに支払ったから、約束は破っていない」、「わたしが自分のお金を自分のしたいようにしていいけないのか」、「わたしは最後の人たちにも同じように与えたいのだ。わたしが気前よくするからねたましく思っているのか」と答えたのです。

(承) 学ぶべき真理

この譬えで、ブドウ園の主人は神様、朝の6時から働いた労働者は当時のユダヤ人、夕方5時から働いた労働者は異邦人です。そしてブドウ園の労働は、神の国の奉仕、賃銀の支払いは天での

報いです。当時のユダヤ人は、神様の律法をずっと守ってきたとい目をしてきたから報酬が多いはずだと思っていました。しかし、異邦人が後から神様を信じて、神の国の奉仕をするようになります。すると、天での報いは同じ永遠のいのちなのです。当時のユダヤ人にはそれが理解できず、がまんできませんでした。

実は、神様がくださる労働は恵みで、その報酬もまた恵みなのです。労働の代価ではありません。恵みとは、引き替えるものなく一方的に与えられるものです。神様は何でもできて、何でも持っておられます。私たちに労働してもらわなければならない方ではないのです。神様の報いは、労働に対する報酬でなく、恵みなのです。永遠のいのちは、私たちのした良い行いによっていただけるのではなく、ただイエス様を信じるだけでいただける神様からの最大の恵みです。

(転) 生活への適用

あなたは小さい時から神様を信じています。しかし、病床で死ぬ前に神様を信じる人もいます。あなたと、その人とは天での報いは異なるでしょうか。同じ報いだったら、あなたは損でしょうか。

結論

後に神様を知った異邦人クリスチャンが先に救われ、先に神様を知ったユダヤ人が後に救われます。神の国は、恵みの世界だからです。あなたも、神様のために何かしたらその報酬に永遠のいのちをいただけると思いはいけません。神様はただ恵みのゆえに信仰によって永遠のいのちをくださるのです。

ワーク A

●導入のヒント

クリスマスのプレゼントが、一年間休まずに来たあなたと、11月から来はじめたお友だちと同じだったら、損をしたように思いますか。

●ワークについて

迷路をします。4人の人形カードとデナリ貨を切り抜きます。まず子どものカードを持ち、①のスタートから始めます。ゴールすると、カードを椅子にはりつけます。次に青年のカードを持ち、②からスタートさせます。ゴールしたらまた椅子にはりつけます。③からは大人、④からは老人をそれぞれスタートさせます。最後にデナリ貨を4人のカードに貼りましょう。

ワーク B

●質問1 働いた時間の長さに関係なく、主人は約束した同じ金額をくれたことを確認します。

●質問2 この世の常識では理解できないことですが、神様は信仰生活の長さや罪の大小に関係なく、信じる人みんなに、永遠の命をくださいます。

●質問3 自分は永遠の命をいただけるでしょうか。働いた時間の長さに関係なく、みんなデナリもらえたように、イエス様を信じる人にはみんな、永遠の命が与えられます。

●讃美歌 「イエスさまはよんでいる」

(ふくいんこもさんびか11番)

●今日のお祈り 「イエス様を信じるなら、だれにも永遠の命が与えられることを感謝します。」

ワーク C

●この1デナリの賃銀は、まず「救い」である。

真に信仰があるなら、幼い時に信仰を持った人も、死ぬ直前に信仰を持った人も、等しく救われ、永遠の命を与えられる。イエス様と同じ時に十字架につけられ、パラダイスに行ったあの強盗のように。救いは、神の恵みにより、かつ、人間の信仰によって与えられることを確認しよう。人間の働き、行い、業績によらないで、全ての人間の存在そのものを愛して救おうとしておられる神様の心を話し合おう。

ワーク D

●質問1 労働は短いほうが楽ですが、働けることと自分が辛いのです。働くことは、人間としての価値を用いることです。さらにまた、神と共にある幸いも忘れてはなりません。

●質問2 賃銀は労働の報酬という考えでは、労働の量が違うのに同じ賃銀なら、不当に思います。

●質問3 神様が与えられる救いは、どんな人々にも同じです。良いことをたくさんしたから救われるのではないからです。

中高校へのヒント

●考えてみよう

- 最後に雇われた人は、どのような思いで働いたでしょうか。
- 最初に雇われた人が不平をもちたのはなぜですか。それは正当な主張ですか。
- 最初に雇われた人の不平から、私たちが陥りやすい過ちは何だと言えますか。
- この譬え話から、主はどのようなお方であると言えますか。

●自分にあてはめてみよう

- もしあなたが最後に雇われた人であつたならば、どう思いますか。また、最初に雇われた人であつたならば、どうですか。
- あなたは主のためにどのような思いで奉仕していますか。最初に雇われた人のように、不平をもちてはいませんか。その不平の原因はどこにありますか。
- あなたは若い頃から教会に導かれていることについてどう思いますか。
- 話し合ってみよう
- この譬え話を素直に納得できないのはどうしてでしょうか。もし最後に雇われた人が自分や家族であつたならば、どうでしょうか。
- パウロはどのような思いで奉仕していたでしょうか(1コリント15・8～10)。
- こんなに気前のよい主に対して、これからどうしていききたいですか。



聖書 エペソ6・1-4  
タイトル 父母を敬つ(母の日)  
中心聖句 あなたの父と母とを敬え。  
(エペソ6・2)

きょうは母の日です。お母さんに「ありがとうございます」と言います。と言いましよう。また、プレゼントをしたり、お手伝いをしたり、肩をたたいてあげたりして、感謝の気持ちをあらわしましよう。

昔、神様はイスラエルの人々に十の戒めをお与えになりました。その5番目に、「あなたの父と母を敬え」という言葉があります。そして、「この戒めを守った人は、長く生きることができると約束されました。だからこの国のお母さんは子どもたちを優しく育て、お父さんは、神様を信じることを教えました。子どもたちは「お父さんの教えは神様の教えだ」と思って守り、また、お母さんをいたわりました。

イエス様を信じている私たちは、もっともっと父母を敬いたいと思います。神様を信じていない両親であっても、私たちが教える育てるために、神様が与えてくださった人であることに変わりはありません。いつかきっと、神様を信じてくださるようにお祈りしましよう。

きょうは、寒い北海道の山に住むキタキツネのお母さんが、どのように子どもを育てるかを話します。キタキツネは、普通のキツネより少し大きく、背中の色がだいたい色に近い黄色です。4月のはじめ、深い雪の下に巣あながあって、

そこで赤ちゃんが生まれます。お母さんは巣の中で乳を与えますが、5月になって雪がとけ始めると、えさを捜しに外へ出掛けます。スーパーに買物にいっくお母さんのようですね。子どもたちは巣で留守番をします。母キツネが帰ってきてクックとなくと、子キツネたちははわれ先に巣から飛び出してきて、乳房にすいつきます。乳を与え終わると、子どもたちの尻をなめて、ふんやおしっこをさせてやります。この頃の子どもたちは、お尻を刺激しないとふんもおしっこもできないのです。それがいやでは、母親にはなれません。

子どもたちが大きくなると、ネズミ、カエル、へびなどをとってきて与えます。子どもたちが満腹するまでは自分は食べません。さらに大きくなった時には、2、3匹づつ遠くへ連れ出して、えさの取り方や野宿の仕方などを教えます。

秋になると、ある日突然、やさしいお母さんが猛獣のように歯をむきだして、子どもにおそいかります。ふざけているのだと思っていた子キツネたちも、本気だとわかると逃げ出します。子わかれの時がきたのです。

北海道の山に雪が降り始める頃、親から独立した子どもたちは、自分で巣作りをしなければなりません。お母さんは、子どもたちを独立させた喜びと、手離した寂しさの両方を感じて、巣の前をうろうろしています。そこへ成人した子どもがカーネーションでも持ってきてたら、どんなに喜びでしょうか。(目黒誠一『キタキツネ』より)

一九八五年五月号『牧羊者』より  
(左頁のペンテコステ礼拝メッセージも)

## 編集後記

二〇〇二年度前期の『牧羊者』をお届けします。今回も、「やっと二にまでこぎつけた」というのが本音です。ただ、主の憐れみのゆえに、感謝しています。二月上旬にかけをひき、せきをしながらパソコンにむかっていた。担当の先生方にも、お忙しい中に多くの犠牲を払っていただき、何とかこまでることができました。

今は、パソコンや電子メールという便利なものができたので、昔に比べて編集が非常に早く、また楽にできるようになりました。これがなかったころの先生方のご苦労は、もっともっと大変だったろうなと思います。

先日、中学生たちが集団でホームレスの男性に暴行を加え、殺してしまったというニュースを聞き、大きな痛みを感じました。私たちの周囲にも、同じような過ちを犯す子どもたちがいるかもしれません。そう思うと、聖書の示す正義をしっかりと語らねばならないと、いまさらながら強く思われました。現代でも決して古くならない十戒を知らせ、また十戒を守る力を与えてくれる福音を宣べ伝えねばなりません。毎週毎週の教会学校は、私たちしかできない貴重な働きです。祈りつつ、全力を尽くして、奉仕していきましょう。

終わりに、今回の執筆者をご紹介します。

聖書講解 鎌野 善三  
研究資料 森沢 尚生  
足立 宏

聖書 ヨハネ16・12-15  
タイトル 真理の御霊(ペンテコステ)  
中心聖句 真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。(ヨハネ16・13)

皆さんの中には、両親も教会に来ている人がいますね。そういう人は、小さい時から神様にお祈りしていますから、世界を造られた神様がいらっしゃることは、あたりまえのように思っているでしょう。でも、だんだん大きくなって、友だちも学校の先生も神様を信じていないのを見ると、本当は神様はいないのかなと、疑いの心がわいてくることもあるかもしれません。

また、家の中で、自分だけ教会に来ているという人たちは、今まで神様のことを聞いてこなかったし、お祈りもしたことがないので、神様がいてって本当かなと思うのも無理はありません。神様は目でみることはできないし、その声を聞くこともできないからです。あるお友だちは、「神様のために献金しても、ほんとうに神様が喜んでくださっているかどうか、わからない」と言っていました。また別のお友だちは、「神様が守ってくださいな」とお祈りをしてもらってくださらなかったで、神様があらわれることがわからないと言っていました。

では、神様を信じている人は、どうして信じることができたのでしょうか。教会学校の先生やお

友だちに教えてもらったからかも知れませんが、聖書を読んだからかも知れません。

神様のことを一番はつきりと教えてくださったのは、イエス様です。イエス様は、心の底まできよく、どんな人にも優しく、喜びと力に満ちておられました。また、水の上を歩いたり、水をぶどう酒に変えたり、病人をなおしてあげるなど、普通の人ができないことをなさいました。そのお方が、「わたしを見た者は、父を見たのである」と言われたので、弟子たちは、このイエス様を見て、神様はおられると信じるようになったのです。

けれども、私たちは、聖書を読んだり、お話を聞いた以外には、イエス様のことがよくわかりません。そこでイエス様は、別の助け主として真理の御霊を遣わしてくださるよう、神様にお願いをしてくださったのです。その結果、今は、イエス様を信じようとする私たちの心の中に、御霊が働きかけてくださいます。だから、はじめは疑っているも、やがて信じるようになるのです。

御霊は、神様がいらっしゃることだけでなく、その他の大事なことも教えてくださいます。自分がした悪いことも思い出させてくださいます。それがどれほど悪くて、神様の心を痛めているかわからせてくださいます。さらに、イエス様の身代わりの死によって罪が赦され、悪魔に勝って正しい行いをし、天国へ行けることも教えてくださいます。すばらしいですね。

今日は、この御霊が教会に与えられたことを記念するペンテコステの日です。

## メッセージ例

ワークA 森沢 尚生  
ワークB 光田 隆代  
ワークC 小山 千晶  
ワークD 鎌野 幸  
仁科 秀紀  
真木 真人  
竹崎 光則

いつもながら、編集を助けて下さった、森明子師、光田隆代師、また本部事務所の藤森牧男師と岡本羊一兄、あくとの本田慈郎兄に、心からの感謝を申し上げます。

## 聖書教育教案誌 牧羊者

二〇〇二年三月十五日発行

発行者 岩田扶美二

滋賀県近江八幡市多賀町五〇六の一

日本イエス・キリスト教団出版局

電話(〇七四八)三三二五二二

FAX(〇七四八)三二二二五二

編集者 日本イエス・キリスト教団

印刷所 有限会社 あくと

電話(〇二九七)七八一五九三五

\*日本聖書協会『口語訳聖書』使用許諾済み

